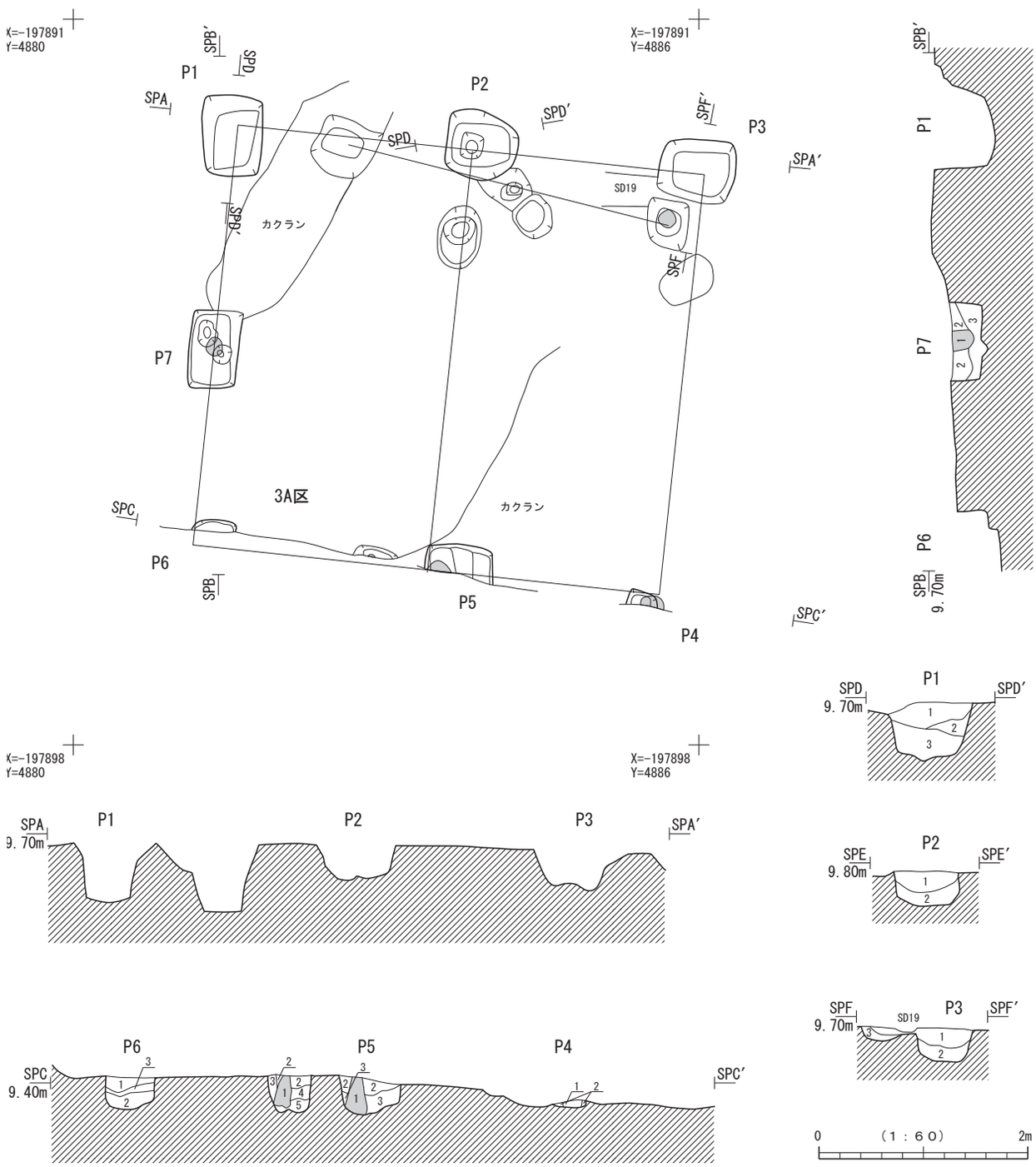
SB３　掘立柱建物跡（第61･68図）

３Ａ区南端部で７つの柱穴を確認した。東西２間、南北２間以上の南北棟建物と推定される。特に南東部で上位の削平が著しく、南側は調査区境界線となったため、詳細な全体像は不明である。また、Ｐ２と重複する別の柱穴列も認められる。柱穴はSI２の埋土上に穿たれており、住居跡よりも新しい。

平面規模は、梁行が約4.2ｍで柱間寸法2.1ｍ、桁行の全長は不明だが、柱間は同じく2.1ｍである。建物の方位は西側柱穴列を基準としてN-6°-Eで、Ｐ１･Ｐ６･Ｐ７の見通し線上にはほぼ同軸方向のSB４が位置している。各柱穴は長軸50～80cm、短軸40～60cmの隅円方形を呈し、特にＰ１･Ｐ７については、桁行方向へ長い長方形とな



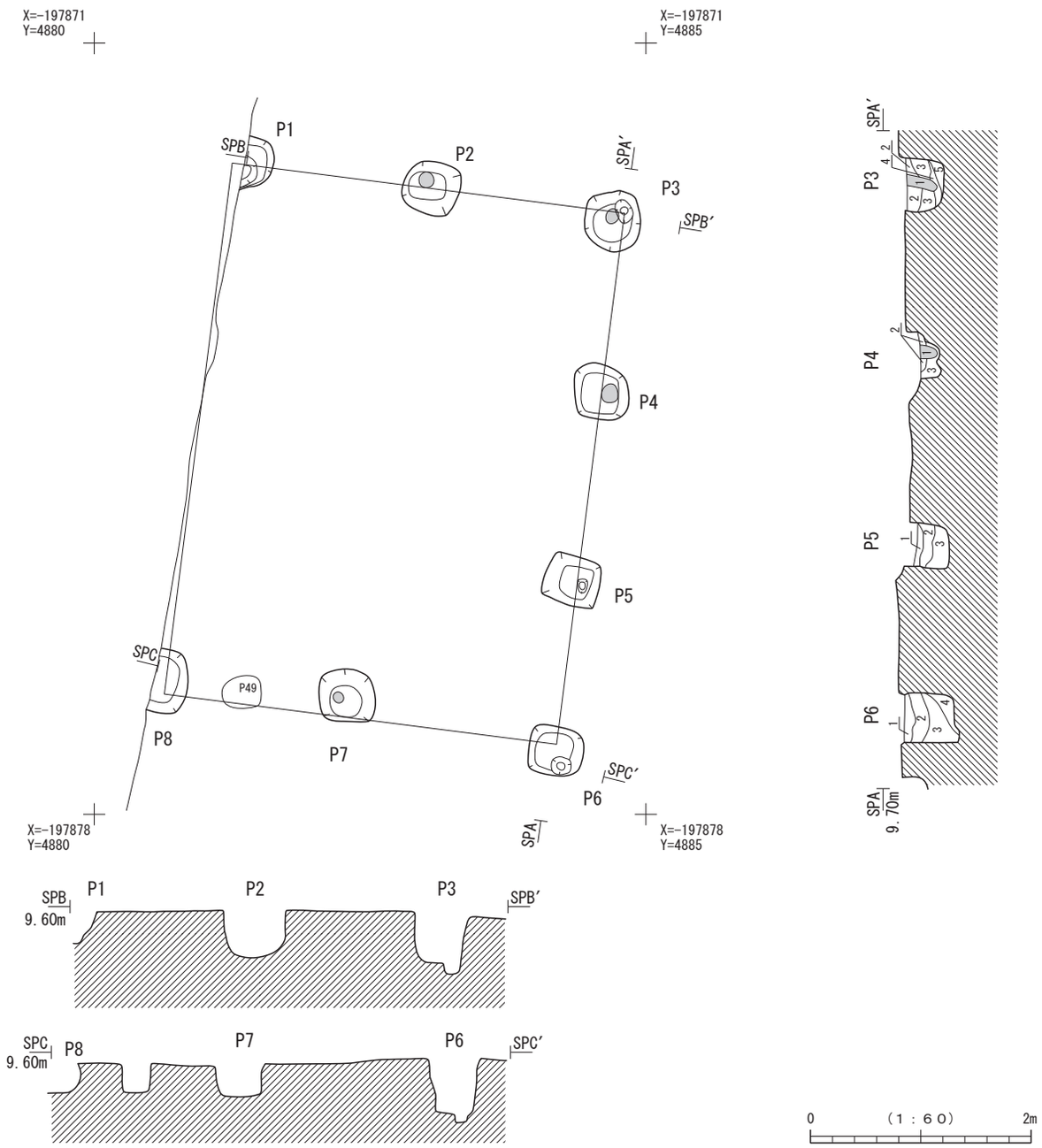

第68図　SB３掘立柱建物跡

る。P４･P５･P７の堆積状況には柱痕跡が認められ、P２の底面にも柱の痕跡とみられる落ち込みを確認した。壁面の立ち上がりはいずれも垂直に近く、残存する深さはP４を除き、30 ～ 60cmである。

SB４　掘立柱建物跡（第61･69図）

３A区南半部で８つの柱穴を確認した。東西２間、南北３間の南北棟建物と考えられる。西側がわずかに調査区外となった。

平面規模は梁行が3.6mで柱間が1.8m、桁行が6.4mで柱間は均等ではなく、P４、P５間が1.8mとなり両脇のP３･P４間、P５･P６間が1.5mとなる。建物の方向は、東側柱穴列を基準としてN-7°-Wを指し、SB３とほぼ同じ軸に並ぶ。SB４東側柱穴列とSB３西側柱穴列はほぼ一直線上に配されており、二つの建物が関連を持つ可能性も指摘できる。各柱穴は一辺40 ～ 45cm程度の正方形に近い隅円方形または円形を呈し、全体に形状は類似して




第69図　SB４掘立柱建物跡

SB４掘立柱建物跡　埋土註記表

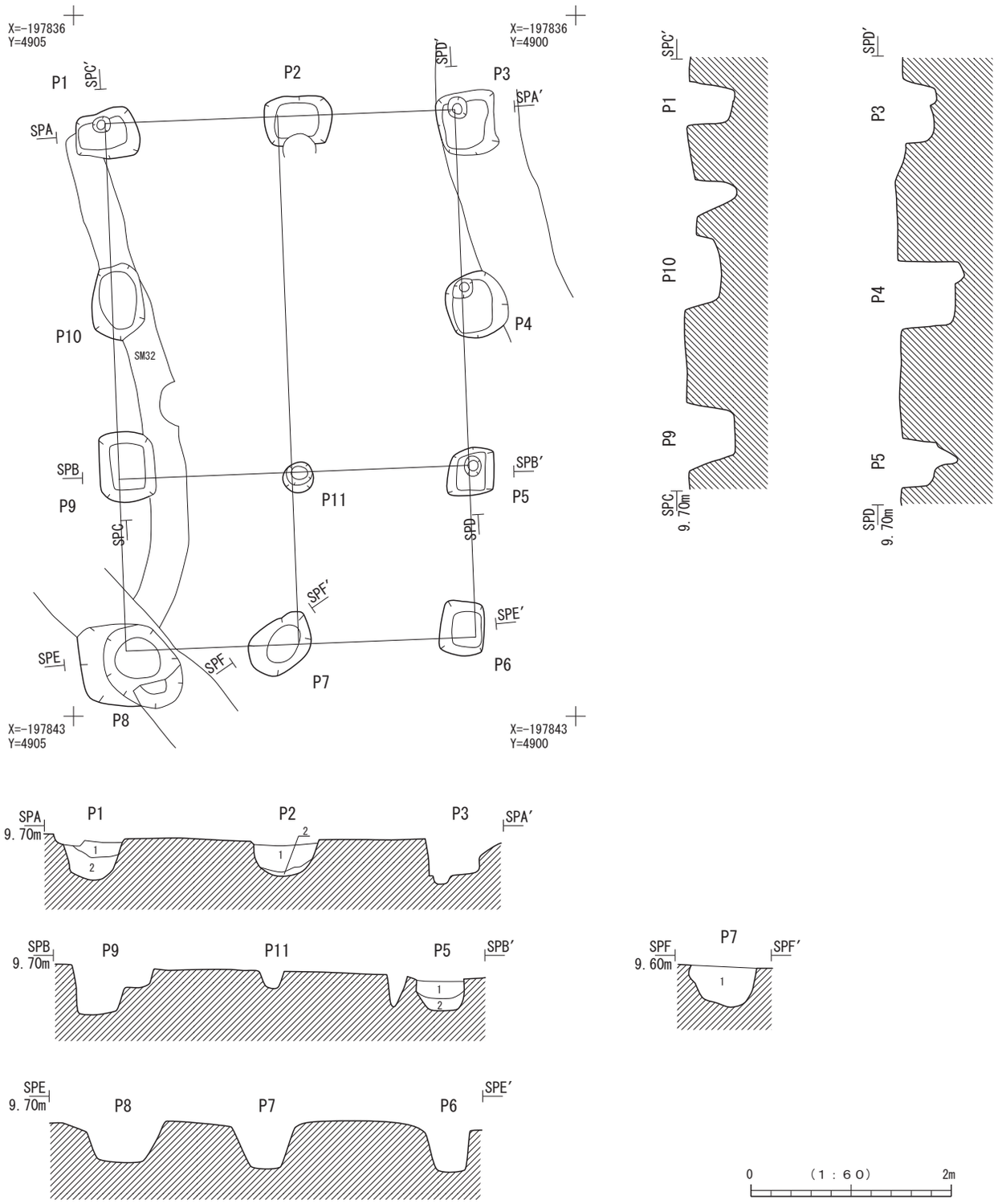
| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 層位 | 土　色 | | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P1 | 不明 | 50×- | 27.2 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む |
| | | | | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 砂質シルト | 地山砂ブロックを密に含む |
| P2 | 隅丸方形 | 50×47 | 43 | 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック・炭化物少量(柱痕跡) |
| | | | | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 砂質シルト | 地山砂ブロックを少量含む |
| | | | | 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| | | | | 4 | 10YR4/4 | 褐色 | 砂質土 | 地山砂ブロックを密、炭化物粒を少量含む |
| P3 | 円形 | 55×51 | 49 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | 炭化物粒少量(柱痕跡) |
| | | | | 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | | | | 3 | 10YR4/4 | 褐色 | 砂質土 | 暗褐、砂シルトブロックを多く含む |
| | | | | 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | |
| | | | | 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | |
| P4 | 円形 | 50×50 | 30.2 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土ブロックを少量(柱痕跡) |
| | | | | 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | |
| | | | | 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| P5 | 方形 | 50×44 | 42.8 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量 |
| | | | | 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| | | | | 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| P6 | 隅丸方形 | 50×44 | 56.5 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物ブロックを少量含む |
| | | | | 2 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト | 炭化物粒を微量 |
| | | | | 3 | 10YR4/4 | 褐色 | 砂質土 | |
| | | | | 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| P7 | 円形 | 50×48 | 29.5 | 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 砂質シルト | (柱痕跡) |
| | | | | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 砂質土 | 地山砂ブロックを密に含む、焼土粒を少量 |
| P8 | 不明 | -×- | 19.9 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |

いる。P２・P３・P４・P７からは柱痕跡が確認されており、P５・P６の底面にも柱による窪みが存在する。全体の関係性から、掘り方の外側に柱が配されていたものと考えられる。壁の立ち上がりはほぼ垂直となり、深さは27cm～57cmを計る。

## SB５　掘立柱建物跡（第61・70図）

３Ａ区中央部で11の柱穴を確認した。東西２間、南北３間の南北棟建物である。一部削平を受けているものの、ほぼ完全な組み合わせが検出された。

平面規模は、梁行の全長3.6m、桁行の全長5.4mで柱間はいずれも約1.8mである。配置的にP２・P７とP５・P９の交点に位置する小規模な柱穴であるP11は床柱とも考えられる。建物の方向はほぼ真北を通る。P11を除く各柱穴は、列にそって長軸をとる長方形を基調とするものとみられる。埋土中に柱の痕跡が認められるものはなかったが、P１・P３・P４・P５の底面には柱による窪みが存在している。壁の立ち上がりは大きく傾斜しており、残存する深さは全体に30cm～40cmを計る。




第70図　SB５掘立柱建物跡

SB５掘立柱建物跡　埋土註記表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 層位 | 土　色 | | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P1 | 隅丸方形 | 54×50 | 44.1 | 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 10YR4/4褐色土混入、炭化物粒混入 |
| | | | | 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 10YR3/3暗褐色土小ブロック状に混入 |
| P2 | 隅丸方形 | 68×50 | 36.7 | 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 10YR4/4ブロック状に混入、炭化物わずかに混入 |
| | | | | 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | |
| P3 | 隅丸方形 | 66×48 | | | - | | - | |
| P4 | 隅丸方形 | | | | - | | - | |
| P5 | 方形 | 48×45 | 56.5 | 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 10YR4/4がブロック状に混入、焼土が一部、粒状に混入 |
| | | | | 2 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト | 10YR3/2がブロック状に混入 |
| P6 | 方形 | | | | - | | - | |
| P7 | 不整形 | | | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | φ1cm内の地山ブロックを少量、炭・焼土粒を微量含む |

## 2. 古代の遺構と遺物（第71～249図）

この項では、基本層Ⅳa層上面で検出され、古代面下面遺構として調査を進めたものを報告する。遺構内出土遺物を概観すると、最古のものは、住社式期のものが一部に認められたものの、その他多くは郡山遺跡に官衙が造営された７世紀半ば前後から官衙終焉の８世紀代の間に帰属するものと考えられる

対象となるのは、竪穴住居跡77軒、溝跡２条である。特に溝跡については、住居跡群の床面下より検出されたSD33･SD34を他の溝跡と区別し、この項にて述べるものとした。

### ⑴ 竪穴住居跡（第71･72図）

竪穴住居跡は２B、３A両調査区全域から検出されている。今回検出された全ての住居跡がⅣ層を掘り込んでおり、埋土中にⅢ層が落込むものが認められた。また、特に３A区の北側で埋土中に焼土・炭化物を多量に含む住居が検出されている。

南北に長い今回の調査区において、北から、３A区北端部、中央部、南半部、２B･３A調査区境界、２B区南半部に、それぞれ密集して分布しており、住居跡の重複関係で最大５時期の変遷を捉える事が出来た。住居の建替えについても３例が認められる。これら住居跡群の間には10m～15m程度の間隔があり、３B･４区で検出された区画施設などの存在も考慮すると、官衙周辺の空間利用に対する何らかの規制と関係する可能性も推測される。

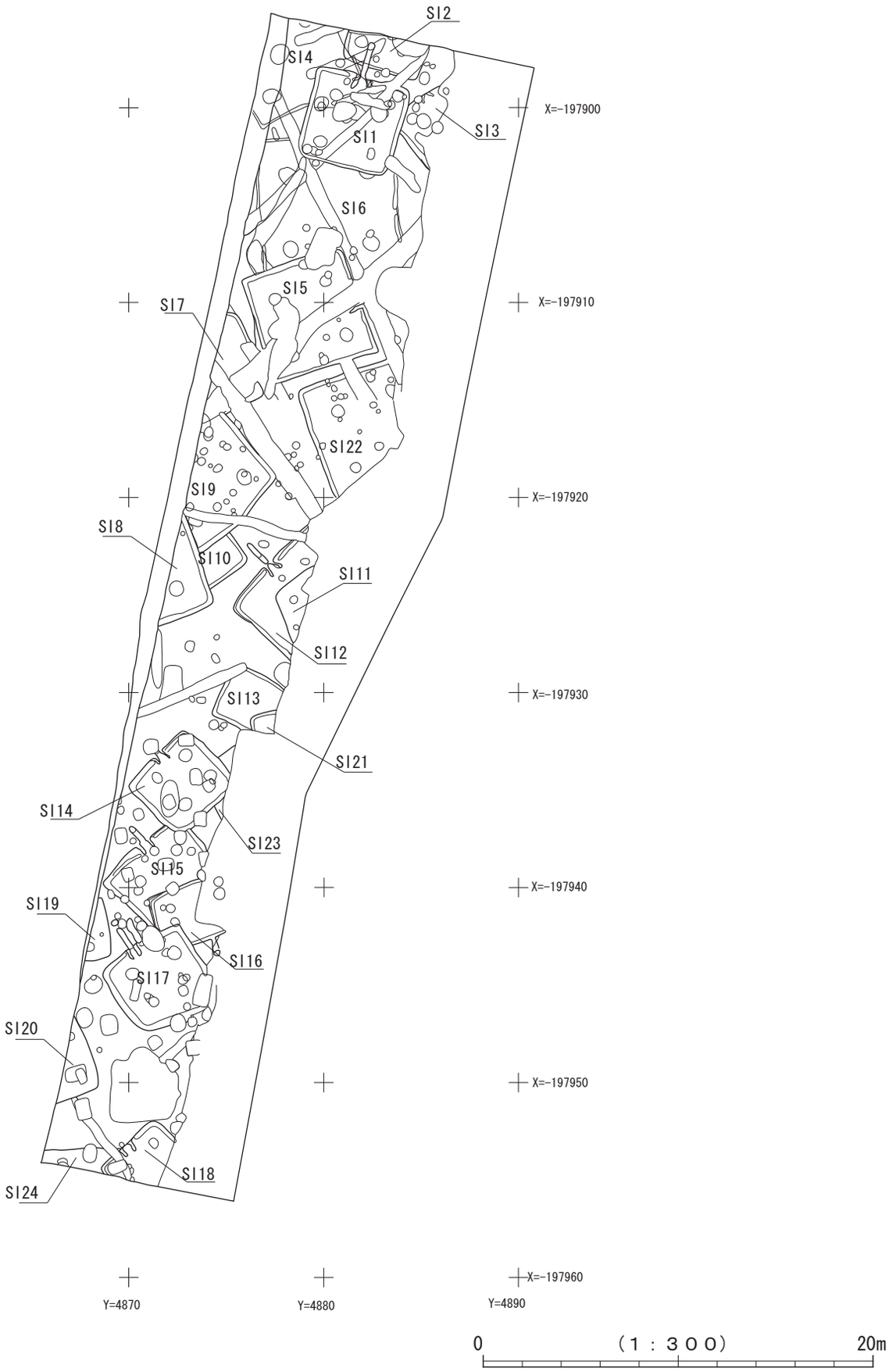
８章にて詳細を述べるが、これらの住居跡群の変遷を外観すると、一部で６世紀代の竪穴住居跡も存在するものの、２B区側は７世紀中頃のⅠ期官衙造営直前からⅠ期官衙の時期に営まれたものが中心であり、これに対し３A区側では、７世紀末から８世紀前半、すなわちⅡ期官衙への建替えの直前からⅡ期官衙の時期に遺構の帰属時期が集中する形となる。官衙造営との強い関係性を持ちながら、調査範囲の南側から北側へと竪穴住居跡の中心が移動したものと捉えられようか。

平面形状については４区と同様、方形の竪穴が最も多く、主軸に直行する軸が長い長方形を呈するものも認められる。上部構造は４本の主柱穴によるものを基本とするが、規模の大きな壁柱穴が井桁状に配された住居（SI51）や、床面上に柱穴が認められないもの（SI38･SI57他）など異なる上屋構造が推定される例も認められた。

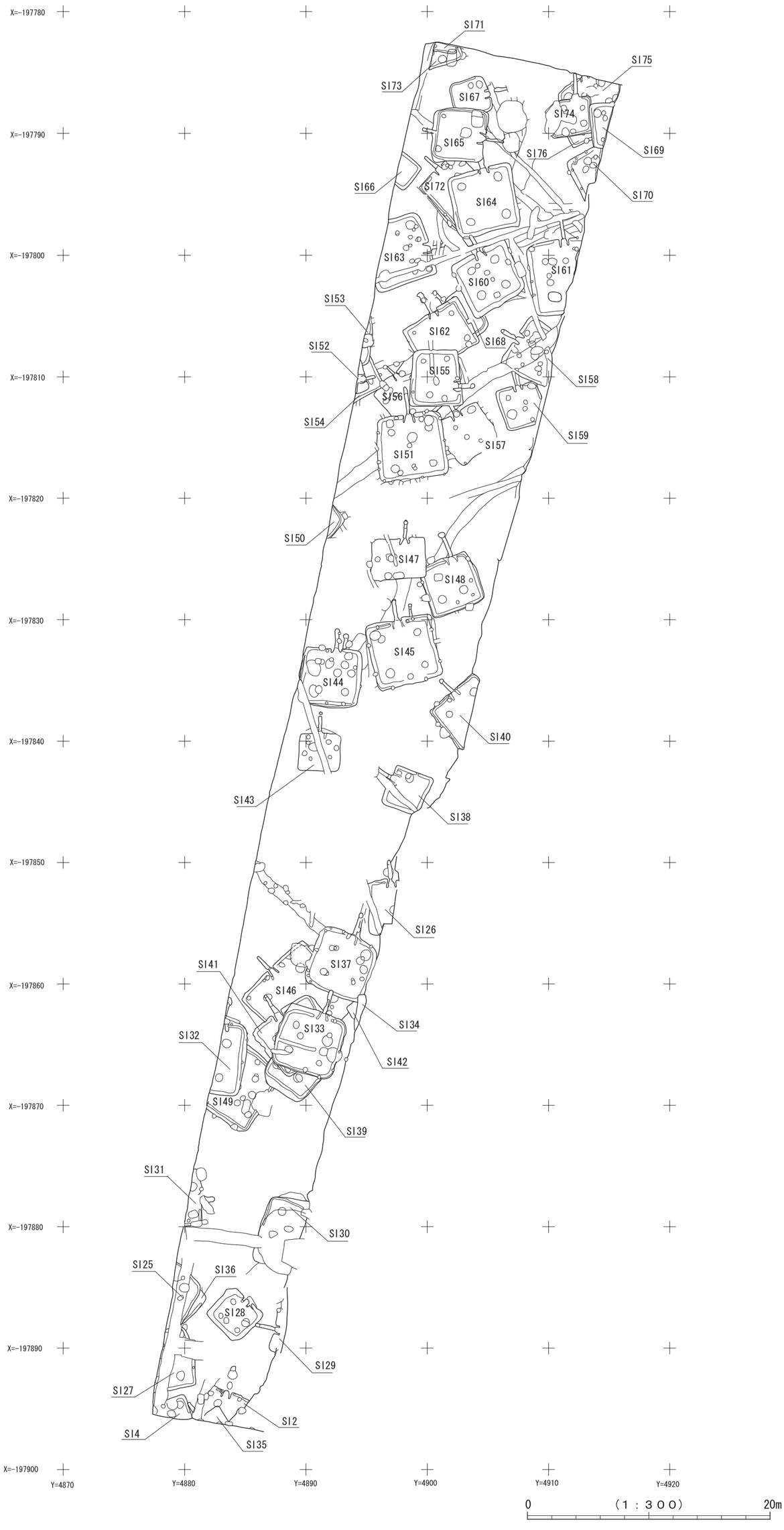
カマドについても他の調査区と同様、ほとんどの住居で北側に設けられており、燃焼部は壁面の外側に張り出した１例（SI75）を除き、全て壁の内側に造られている。竪穴の大小に関わらず、カマドの外幅は１m前後となるものが多い。袖部の平面形状は、壁に対して垂直になるもの、外反するもの、内湾するものが全て存在しており、焚き口に補強材が用いられている例（SI45･SI75他）も認められた。煙道も１m以上となる傾向が強い。煙道底面は先端へ向かって低くなるものが、水平のものや高くなるものに対して多く認められ、先端部のピットに土器が配されていたと思われる例（SI44･SI45）も存在する。また、カマドの造替えが行われた例（SI37･SI45他）も認められた。

床面上の施設としては、４区でも確認された間仕切りの痕跡をもつ住居が１例（SI33）、灰溜めとみられる焼土・炭化物を含む土坑が多数確認された。

本文中の各表現について、原則として、真北に対するカマドの中心軸の傾き、カマドが検出出来なかったものについては東西の壁の傾きを、その住居の「主軸」として記載した。床面上で検出した遺構は、土坑・ピット・性格不明遺構とし、SK･P･SXの略号を付した。発掘調査段階で設定されたものを、そのまま踏襲するものとする。比較的規模の大きいものを土坑、柱穴と思われるものや小穴をピットとした。




第71図　竪穴住居２Ｂ区




第72図　竪穴住居3A区

SI１　竪穴住居跡（第73～74図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の北端部中央で確認した。住居跡中央をSD８が縦断しており、床面の一部が失われている。

［重複］　SI２・３・４・６を切り、SD６・８・９に切られる。

［規模・形態］　規模は東西4.9m、南北4.8mで、形態は正方形である。

［方向］　住居跡の南北軸はN-15°-Eで、他の住居跡と比べ方向性が異なっている。

［堆積土・構築土］　６層を確認した。１層は床面上堆積土で部分的にⅣ層を小ブロック状に含んでいる。２・３層は周溝内堆積土、４～６層は掘り方埋土で、６層はカマド下部及び住居西側のみに部分的にみられる。また７～13層はカマド・煙道内堆積土である。７～10層はカマド内堆積土で、８層中には焼土ブロックを多量含んでおり、９・10層は煙道内堆積土、11層は先端ピット内堆積土で、黒褐色ブロックを密に含んでいる。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、ほぼ直立気味に立ち上がる。残存状況は悪く、良好な箇所でも10cm程度である。

［床面］　６層を床面としている。東半部が削平を受け残存しない。全体に若干の起伏はあるが、おおむね平坦である。

［柱穴］　９個のピットを確認した。このうちP１～４は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は2.6～2.9mである。残存状況の悪いものもあるが、いずれも形状は円形とみられ、住居の四隅に配置されている。P２は70cmと最も深く、P３には柱痕跡が確認できた。またP５は径が70cm以上の円形であるが、深さが20cm程の浅い土坑状を呈する。柱痕跡とみられるものが確認されたことから、柱穴と考えられるが、住居外にこれに関連するピット等がみられないことから、住居に付属する可能性がある。その他床面検出の小ピットが幾つかあるが、その性格は不明である。

［周溝］　壁面直下にほぼ全周して確認し、カマド左側袖手前で一部途切れている。上幅は15～20cm、深さ15cm程で、断面形は逆台形である。堆積土で大部分を占めるのは２層である。一部にみられる３層中にはⅣ層がブロック状に多量混入している。

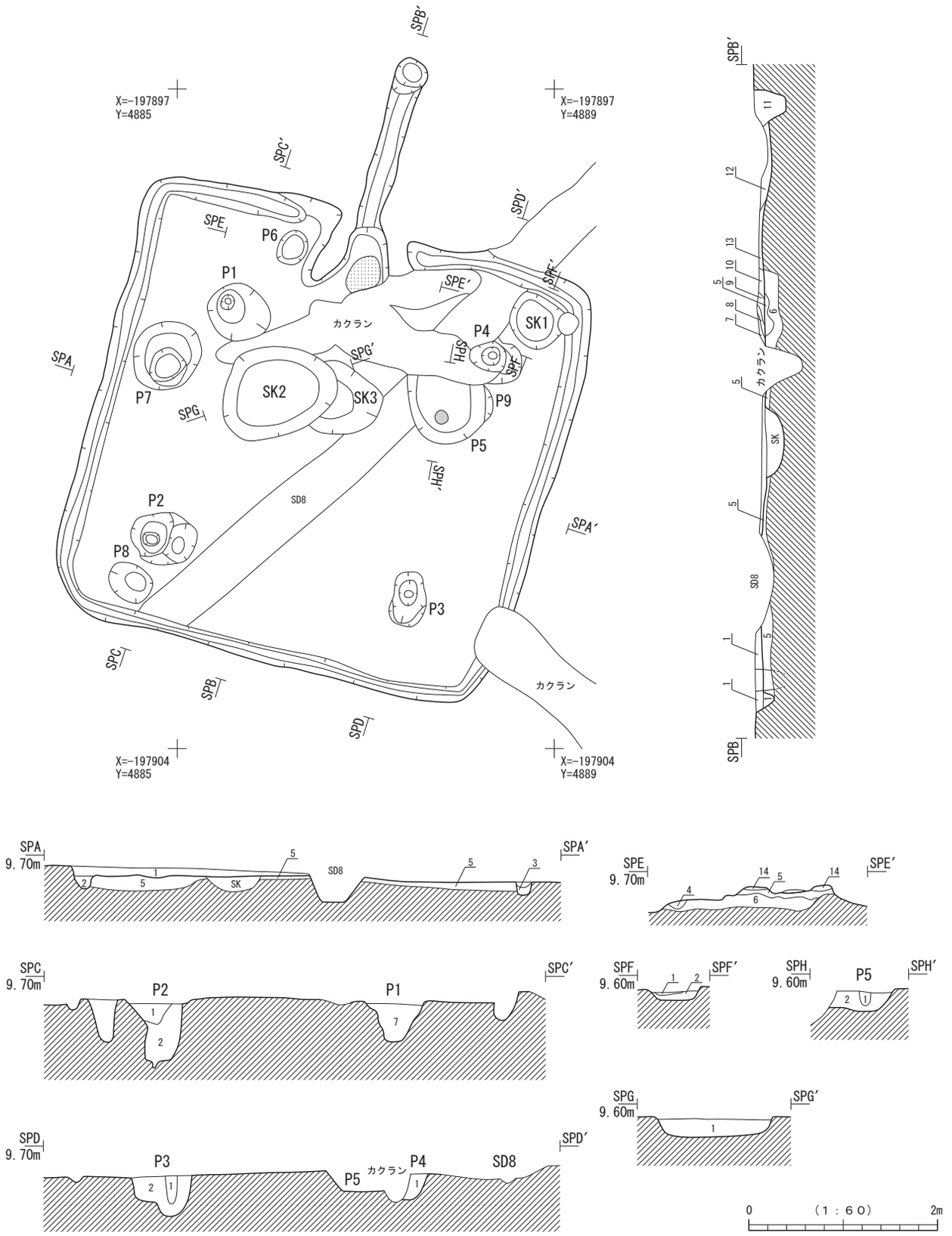
［カマド・煙道］　北壁ほぼ中央に付設されている。両袖基部のみの残存であるが、やや開き気味に延び、右側袖先端部は失われている。残存長は80cm、残存高は５cm程度である。左側袖の奥壁側上部にこぶし大の円礫が埋設されていた。外幅は奥壁側110cm、焚口側140cm程度で、燃焼部底面は住居床面とレベル差を持たず、中央には45×30cmの楕円形の焼面がみられる。焼面上には支脚また灰などの堆積物は認められなかった。カマド内部の被熱程度は弱い。また奥壁は明瞭な段を持たないまま煙道部へと続いている。カマド構築土は14層で、褐色の砂質シルト土で、炭化物粒を微量含んでいる。

煙道は長さ180cmと住居跡群の中では最も長い。幅は25～30cmで一定しているが、深さは手前側で４cm、中位で傾斜を持ち、奥側でも10cmと残存状況は悪い。煙道先端部は円形のピット状となり、深さは35cm程となる。

［その他の施設］　住居内床面上に土坑を３基確認した。SK１は北西隅に位置し、径55cmの円形で、深さは15cmと浅いものである。堆積土中には焼土ブロックを多量含んでいる。SK２はSK３と共に住居ほぼ中央に位置し、125×95cmの規模があるが、深さが20cmと浅いものである。底面は平坦で堆積土中にはⅣ層をブロック状に多量含み、人為的に埋められた土坑と考えられる。

［掘り方］　掘り方底面は中央に３×２mの範囲で島状に高まり、周辺低部との比高差は大きいところで15cmである。掘り方周辺部では全体に周溝底面とほぼ同レベルであるが、カマド下部は他より低い。また底面の起伏は少なく、工具痕跡などは特に顕著でない。カマド右側袖下部のⅣ層が残存状況から、結果的にⅣ層がカマド構築土の基部を形成する形となっている。

［出土遺物］　土師器坏２点、甕１点を掲載した。丸底から平底に移行する段階の１は柱穴内、丸底で、口縁と体部境目に段をもつ、内面黒色処理の２は土坑から出土した。３の小型甕は、底部に静止糸切り痕を残す。




第73図　SI１竪穴住居跡

SI１　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物小ブロックを全体に少量、Ⅳ層小ブロックを部分的に含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | Ⅳ層小ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層小ブロックを多量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土ブロックをやや多く含む |
| 掘り方 | 5 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の地山ブロックを多量含む |
| | 6 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| カマド・煙道 | 7 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 焼土粒を少量含む |
| | 8 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| | 9 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物ブロックを少量含む |
| | 10 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを微量含む |
| | 11 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ1cm内の黒褐色土ブロックを密に含む |
| | 12 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 13 | 10YR5/6　黄褐色 | シルト | 暗褐色シルトブロックを多量含む |

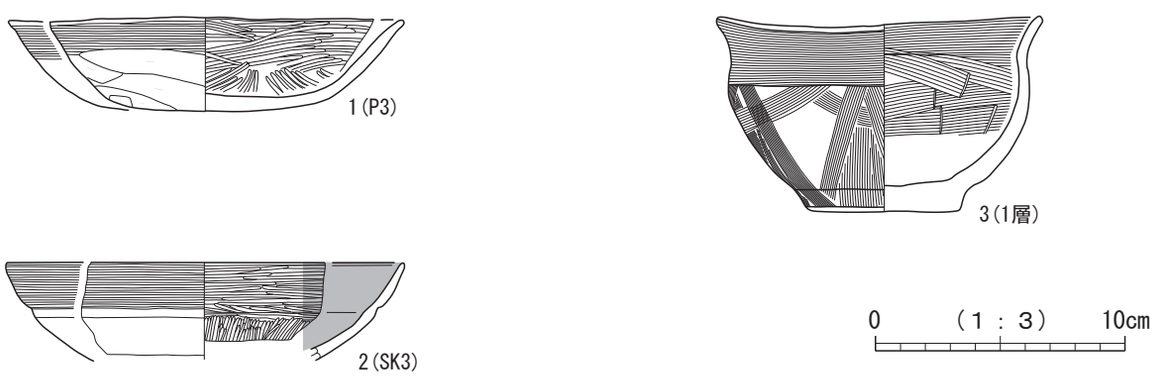
SI１　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒・φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼土粒を少量含む |
| SK2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物・焼土ブロックを微量含む |
| SK3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物ブロック・φ1cm内の焼土ブロック・褐色砂質土・にぶい黄褐色土ブロックを含む |
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 焼土粒・にぶい黄褐色土ブロックを微量含む |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒を少量、褐色土ブロックをまばらに含む　下層に黒色土が帯状にあり |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロック、黒色土ブロックを微量含む |
| P3 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | (柱痕跡) |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| P4 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| P5 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | (柱痕跡?) |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを密に、炭化物粒を少量含む |
| P7 | 1 | 7.5YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック・炭化物粒・焼土粒を少量含む |
| P8 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック・炭化物ブロックを少量含む |
| P9 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物ブロックを少量、褐色土ブロック・にぶい黄褐色土ブロックを含む |

SI１　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 円形 | 54×48 | 12 | |
| SK2 | 円形 | 132×(102) | 18 | |
| SK3 | 円形 | 78×48 | 18 | |
| P1 | 円形 | 66×60 | 39 | |
| P2 | 円形 | 69×57 | 66 | |
| P3 | 円形 | 54×36 | 42 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P4 | 円形 | 36×30 | 30 | |
| P5 | 楕円形 | (72)×(84) | 18 | 柱痕跡あり |
| P7 | 円形 | 78×66 | | |
| P8 | 円形 | 48×36 | | |
| P9 | － | (36)×(6) | | |




第74図　SI１竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-002 | SI01 | P3 | 土師器 | 坏 | (15.8)×-×3.7 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 二次被熱痕有 | 53 |
| 2 | C-001 | SI01 | SK3 | 土師器 | 坏 | (16.0)×-×(3.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部磨耗 | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 53 |
| 3 | C-003 | SI01 | 1層 | 土師器 | 甕 | (12.9)×6.2×7.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾅﾃﾞ、底部静止糸切り | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 53 |

## SI２　竪穴住居跡（第75～77図）

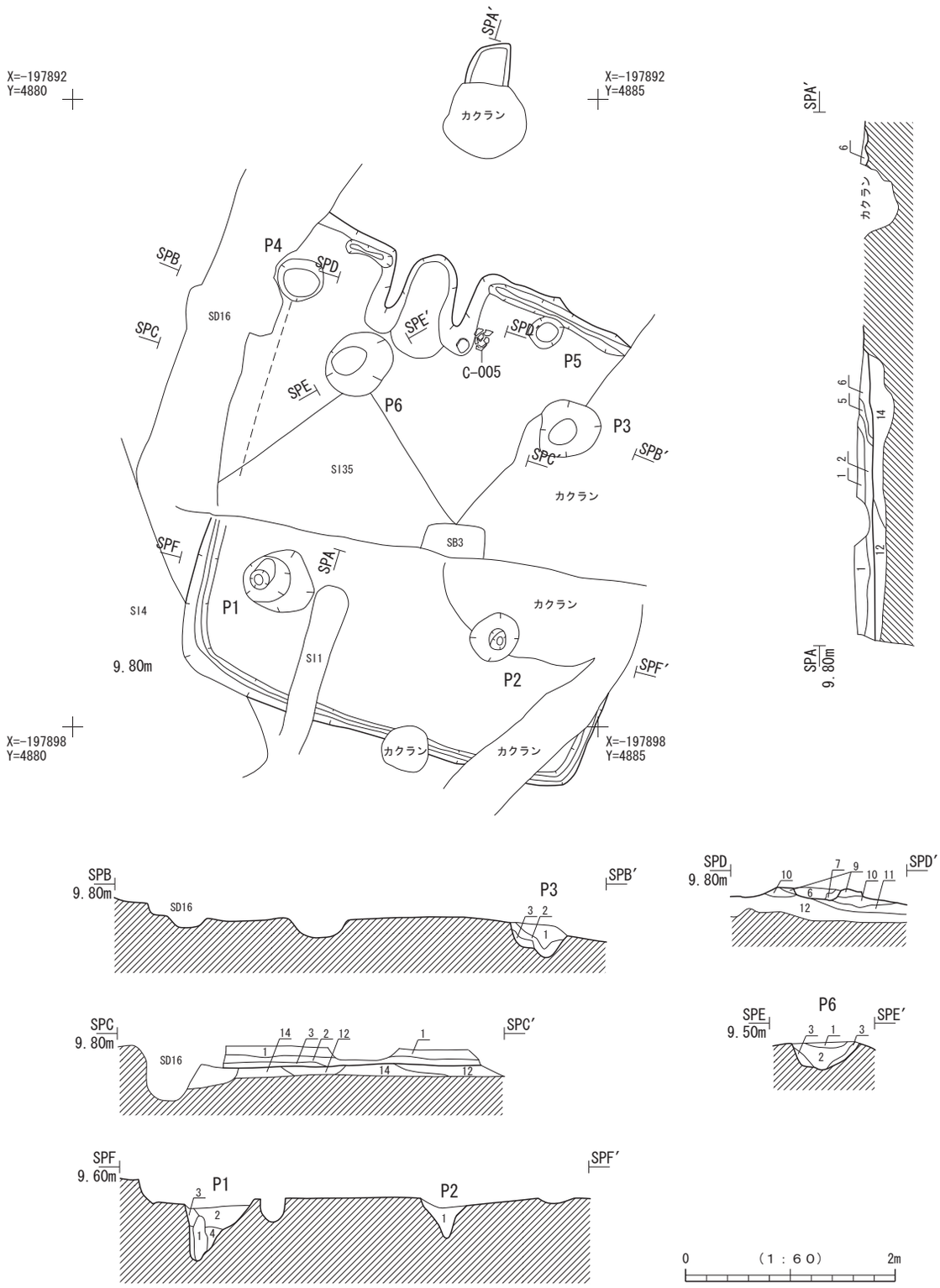
［位置・確認面］　２Ｂ区と３Ａ区の調査区境界上で確認した。

［重複］SI４を切り、SI１・SD16・SD８に切られる。

［規模・形態］　規模は一辺が4.5ｍで、形態は方形とみられる。

［方向］　住居跡の南北軸はN-18°-Eである。

［堆積土・構築土］　３層を確認した。１層は床面上堆積土で、焼土粒・Ⅳ層をブロック状に含んでいる。２層は周溝内堆積土、３層は掘り方埋土で１層同様に焼土粒・Ⅳ層ブロックが混入し、土性的に１層に類似している。５～７層はカマド内、８層は煙道内の埋土である。９・10層、11～14層は掘り方埋土にあたる。




第75図　SI２竪穴住居跡

SI2　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土粒混入、西壁側の1,2層には10YR5/4にぶい黄褐色が混入、砂質がつよい |
| | 2 | 10YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土粒混入、西壁側の1,2層には10YR5/4にぶい黄褐色が混入、砂質がつよい |
| | 3 | 10YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色をブロック状に混入 |
| | 4 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| カマド | 5 | 5YR2/1　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土層　5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混入 |
| | 6 | 10YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混入 |
| | 7 | 10YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 5YR3/1黒褐色焼土ブロック混入 |
| カマド煙道 | 8 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| カマド構築土 | 9 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロック少量　全体に比熱 |
| | 10 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 黒色シルトブロックを少量含む |
| 掘り方 | 11 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 12 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 13 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | 暗褐色砂質シルトブロックを少量含む |
| | 14 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |

SI2　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 黒褐色のブロックを含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒をわずかに含むφ4cm位の地山ブロックを含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物粒・褐色のブロックを含む |
| | 4 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 褐色のブロックを多く含み、炭化物粒をわずかに含む |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒をわずかに含む、褐色のブロックを含む |
| P3 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック・炭粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックをやや多く含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |
| P4 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| P5 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック・炭ブロックを微量含む |
| P6 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混入 |
| | 2 | 10YR2/3　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/3暗褐色ブロック混入 |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | |

SI2　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 不整形 | 62×60<br>柱痕跡12×44 | 54.5 | |
| P2 | 楕円形 | 48×40 | 53 | |
| P3 | 半楕円形 | 58×56 | 51 | |
| P4 | 楕円形 | 44×40 | 10.3 | |
| P5 | 方形 | 30×28 | 15.5 | |
| P6 | 楕円形 | 66×54 | 44.7 | |

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、一部緩やかに立ち上がる。残存は西壁側で20cmだが東壁側では削平により殆どが失われている。

［床面］　３層を床面としている。全体に住居中央部がやや高まっている。

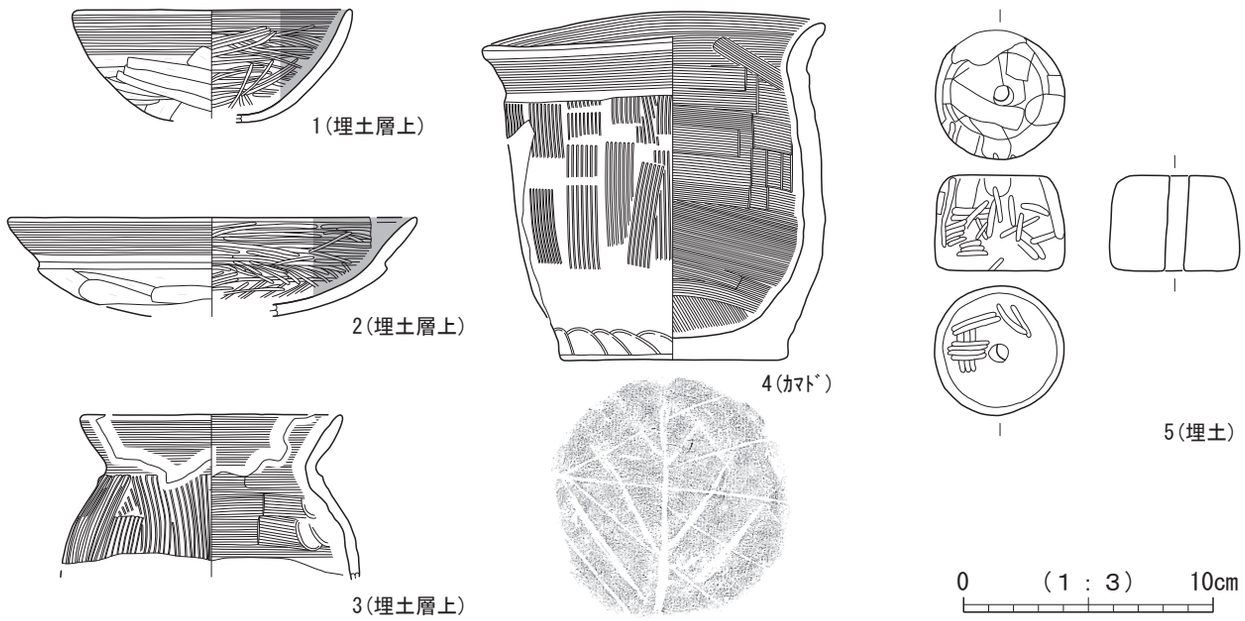
［柱穴］　６個のピットを確認した。規模・位置からみてＰ１～Ｐ３・Ｐ６が主柱穴と考えられる。柱間寸法は2.4ｍである。Ｐ２はやや小さく堆積土が単層なのに比べ、西壁に近接するＰ１は径70×60cm、深さ55cmで、柱痕跡が確認された。

［周溝］　検出した南壁・西壁のほぼ全体に確認したが、東壁側は削平により失われたものとみられる。上端幅は広い箇所で15cm、深さは５～８cmで、断面形は浅い舟底形である。堆積土である２層中には褐色土ブロックが混入している。

［カマド・煙道］　北辺中央からやや西よりに設けられていたものと考えられる。両側袖部は北壁に対して直行し、右側の先端部には石が配される。外幅は108cmで奥行きは80cmである。煙道は上部の削平により大部分が失われているが、残存する先端部の痕跡との関係から、長さ210cm、幅36cmと推定できる。

［掘り方］掘り方底面は住居の壁周りが幅のある緩やかな溝状となり、溝幅は50～60cmで一定している。床面からの深さは周辺部で20cm、中央部で10cm程度である。

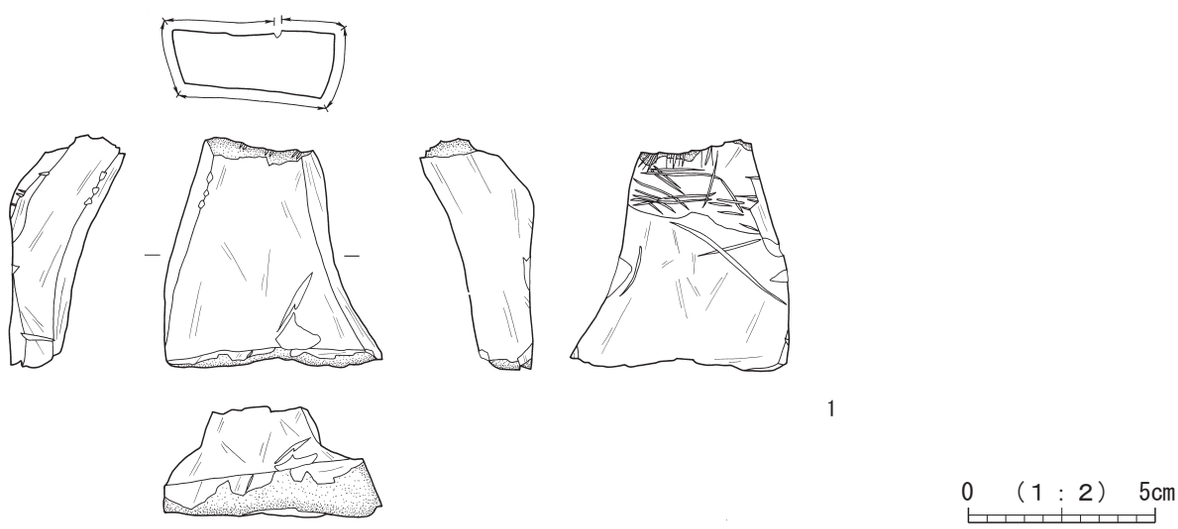
［出土遺物］　土師器の埦１点、坏１点、甕２点、紡錘車１点、砥石１点を掲載した。１は小型丸底の埦、２は口縁と体部の境目に段を持つ坏である。１・２ともに内面黒色処理の後、丁寧なヘラミガキ調整を施す。４は胴部下端を指頭調整し、底部に木葉痕を残す。５の紡錘車は、ヘラミガキによって最終調整が施されている。砥石は裏面上部には溝状痕が複数観察できる。




第76図　SI２竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-004 | SI02 | 埋土層上 | 土師器 | 埦 | (11.0)×-×(4.5) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 53 |
| 2 | C-006 | SI02 | 埋土層上 | 土師器 | 坏 | (16.4)×-×(3.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部下半～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 53 |
| 3 | C-007 | SI02 | 埋土層上 | 土師器 | 甕 | (10.3)×-×(6.5) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ、指頭圧痕 | 小型甕 | 53 |
| 4 | C-005 | SI02 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甕 | 14.1×9.4×12.9 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部外周指頭調整、木葉痕 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 53 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | P-01 | SI2 | 埋土 | 土製品 | 紡錘車 | 径5.2×厚3.8×孔径0.8 | 129.8 | ｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ | 53 |




第77図　SI２竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種別 | 器種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-008 | SI2 | 1層 | 2B | 石製品 | 砥石 | ⅡA2 | 6.0×5.7×2.4 | 81.50 | 砂岩 | 完形品、面取り、板状、無孔、自然面あり | 53 |

## SI３　竪穴住居跡（第78図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の北端部東側で確認した。東半部は撹乱により失われている。

［重複］　SI１を切る。

［規模・形態］　東半部を撹乱により失われており規模は明らかでないが、一辺３ｍ以上の方形の住居跡とみられる。

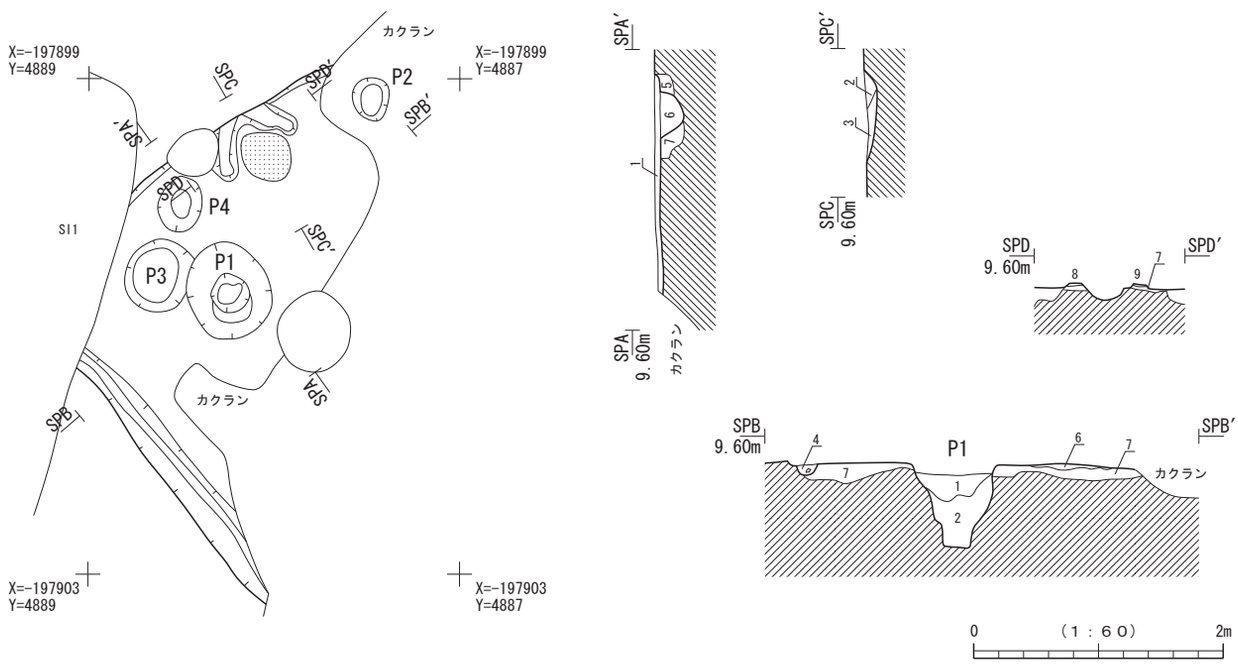
［方向］　カマドを北壁側とした場合の住居跡の南北軸はＮ-38°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　７層を確認した。床面上堆積土は１層のみで、２・３層はカマド内堆積土、４層は周溝内堆積土、６・７層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層、一部Ⅴ層を壁面とするが、削平が著しく、壁面の立ち上がりは南西壁でも５cm以内で、その状況も不明である。

［床面］　大部分が７層を床面としているが、一部６層及びⅤ層を床面としている。６層はにぶい黄褐色のブロックにより構成される貼床土と考えられる。

［柱穴］　４個のピットを確認した。このうちＰ１は規模・位置からみて住居北西側の主柱穴と考えられる。柱間寸法は不明である。径は75×65cm、深さ70cmで、堆積土は２層に分層されたが、柱痕跡は確認できなかった。他




第78図　SI３竪穴住居跡

SI３　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| カマド | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む、φ2cm内の焼土ブロックを多量含む |
| 周溝 | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 黒褐色土ブロック・褐色土ブロックを含む |
| 掘り方 | 5 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 6 | 10YR4/6　褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロックを含む |
| | 7 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| カマド・ソデ | 8 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 炭化物粒・酸化鉄斑を微量含む |
| | 9 | 10YR5/6　黄褐色 | シルト | |

SI３　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック・にぶい黄褐色土ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物・にぶい黄褐色土小ブロックを含む |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック・炭化物・焼土ブロックを含む |
| P3 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 褐色土ブロックを含む |
| | 2 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | 炭化物・焼土ブロック・褐色土ブロックを含む |
| P4 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒・にぶい黄褐色土小ブロックを含む |

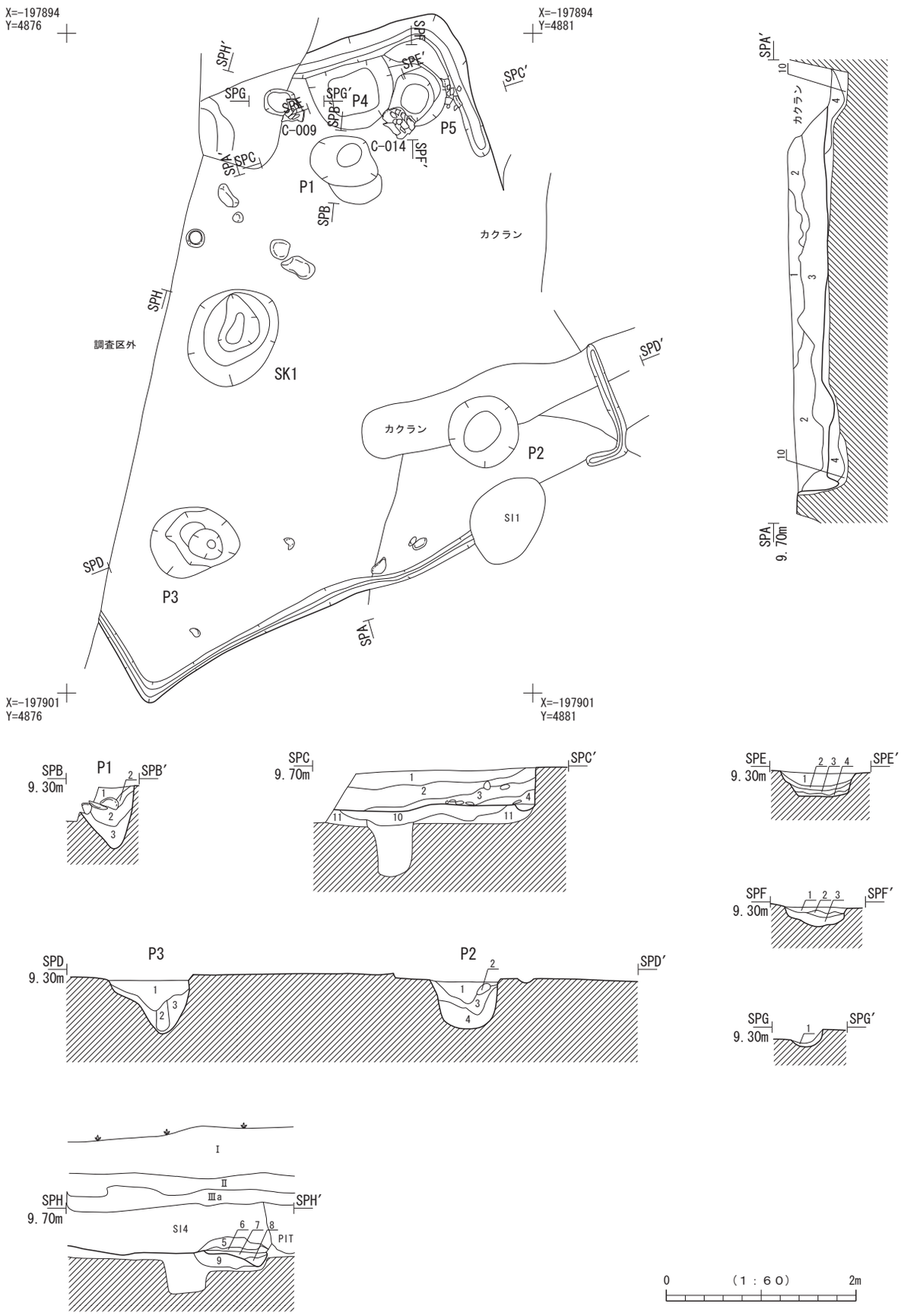
SI３　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×66 | 30 | |
| P2 | 円形 | 33×30 | － | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 円形 | 60×(48) | － | |
| P4 | 円形 | 42×36 | 18 | |

にＰ２～４の小ピットを確認したが、これらについては住居に付属しない可能性も考えられる。
［周溝］　南西壁側のみに確認し、カマド両側には確認できなかった。上端幅15cm、深さ10cm以内で、断面形は半円形である。一部で壁際より内側に入る箇所も認められる。堆積土中には黒褐色及び褐色土ブロックを含んでいる。
［カマド・煙道］　北西壁の中央部に付設されており、煙道は確認できなかった。袖部は直線的に開くもので、残存状況は極めて悪く、残存長は左側45cm、右側40cm、残存高は３cmである。外幅は75cm、奥壁側50cmで、カマド底面は床面より深いところで10cm程も低い。灰層は認められなかったが３層中には焼土ブロックが多量含まれている。また底面は弱く被熱していたが、袖部での焼面は認められなかった。カマド構築土は左側袖部が８層、右側袖部が９層で、目立った混入物はみられない。
［その他の施設］　確認できなかった。
［掘り方］　掘り方底面は周囲が幅のある溝状となり、深さは15cm程度で、カマド下部は部分的に20cm以上の深さとなっている。

SI４　竪穴住居跡（第79～80図）
［位置・確認面］　２Ｂ区と３Ａ区の調査区境界上で確認した。
［重複］SI１・２、SD６に切られる。
［規模・形態］　規模は北東-南西5.8ｍ、北西-南東5.46ｍで、形態は方形とみられる。
［方向］　主軸方位はＮ-26°-Ｗである。
［堆積土・構築土］　11層を確認した。１～３層は床面上堆積土で、１層中には他の住居跡にはみられない灰白色シルト質土ブロックが多量混入している。また堆積土下半は３層が占めている。５～９層は、壁面にて確認したカマド底面の被熱部位と焼土の堆積である。10・11層は掘り方埋土で、10層が掘り方周辺部の溝部分のみにみられるのに対し、11層は全面に広がる層である。
［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、ほぼ直立して立ち上がる。特に南東壁の残存が良好で、高さは30cm程度ある。北東壁はSI１や側溝により壁面が失われている。また南東壁中位はやや屈曲している。
［床面］　住居中央部では５層、周辺部では４層を床面としている。SI１との重複部分では床面が多少削平されているものとみられる。床面は周辺部がやや窪み加減ではあるがおおむね平坦である。南東壁際及び北西側床面上に径20～35cmの円礫や偏平な礫が複数置かれていた。
［柱穴］　５個のピットを確認した。Ｐ１～３は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は3.1ｍである。Ｐ１は壁際検出の為、詳細は不明だが、Ｐ２・３は径がそれぞれ75cm、90cm、深さ55cm、60cmで、Ｐ３には柱痕跡とみられるものを確認した。
［周溝］　南東壁及び北東壁南端で確認した。南東壁では直立する壁面から境目なく続き、上端幅が15cm、深さ10～15cmで、断面形はＵ字形である。断面観察のところ堆積土は住居内堆積土３層と区別できなかった。
［カマド・煙道］　撹乱によって失われており、調査区東壁で断面のみを確認した。北辺中央部に設けられていたものと考えられる。
［その他の施設］　住居中央の床面上に土坑を１基確認した。１号土坑は長軸105cm、短軸95cm、深さ８cmで、底面は平坦で壁面は緩く、大きさに比べ浅い土坑である。堆積土は単層で、Ⅳ層をブロック状に密に含むことから、住居機能時に人為的に埋められたものと考えられる。
［掘り方］　掘り方底面は中央に３×２ｍ程の楕円形状の範囲で島状に高まり、周辺部はかなり幅のある緩い溝状となっている。中央部と周辺低部との比高差は大きいところで28cmある。底面の起伏は少なく、工具痕跡は認められなかった。




第79図　SI4竪穴住居跡

SI４　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR2/1黒色ブロック状に混入 |
| | 3 | 2.5Y3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土粒若干混入 |
| | 4 | 2.5Y3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 7.5YR3/3暗褐色焼土粒混入、10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混入 |
| カマド | 5 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 5YR2/2黒褐色焼土ブロック混入 |
| | 6 | 7.5YR2/1　黒色 | 砂質シルト | 5YR2/2黒色焼土混入 |
| | 7 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 5YR3/3暗赤褐色焼土ブロック混入 |
| | 8 | 5YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土混層 |
| | 9 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混入(掘り方埋土) |
| 掘り方 | 10 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/1黒褐色小ブロック混、10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混 |
| | 11 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | |

SI４　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR2/2黒褐色がブロック状に混入 |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 10YR5/3にぶい黄褐色がブロック状に混入 |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 10YR5/3にぶい黄褐色が粒状に混入 |
| | 4 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 炭化物が若干混入、10YR5/3が若干混入 |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む、焼土粒を微量含む |
| | 2 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | 1コの大きなブロックである |
| | 3 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 中央部に、にぶい黄褐色のブロックを含む、2層との境あたりは、暗褐色の粘質土がもやもやと混在する |
| | 4 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 黒褐色の小ブロックを少量含む |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む、黒褐色のブロックを少量含む、2×4cm位の黄褐色のブロックを2つ含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR5/6　黄褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む、壁際に地山ブロックを含む |
| P4 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物が粒状に混入 |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土が粒状に混入 |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物が粒状に混入 |
| | 4 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| P5 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土粒斑状に混入 |
| | 2 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 層下部に焼土ブロック混入 |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土粒斑状に混入 |
| P6 | 1 | 5YR3/3　暗赤褐色 | 焼土ブロック層 | 炭化物混入、10YR4/3にぶい黄褐色ブロック状に混入 |
| SK1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の地山ブロックを密に含む |

SI４　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 不整形 | 80×61 | 70.4 | |
| P2 | 円形 | 72×72 | 56 | |
| P3 | 楕円形 | 91×70<br>柱痕跡12×30 | 62 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P4 | 半楕円形 | 49×37 | 27.8 | |
| P5 | 半楕円形 | (58)×(53) | 20.8 | |
| P6 | 楕円形 | (31)×29 | 16.8 | |
| SK1 | 楕円形 | 102×89 | 18 | |

［出土遺物］　土師器坏１点、甕３点を掲載した。１は内面ナデ調整を施す。丸底の底部から緩やかに立ち上がり、し口唇部に至る。３は、胴部下半に縦位のヘラケズリを施し、４は台状の底部から長い胴部を経てゆるやかに外反する口唇部にいたる。

## SI５　竪穴住居跡(第81～83図)

［位置・確認面］　２Ｂ区の北部中央で確認した。住居内にはSD７が横断し、また部分的な撹乱により床面が失われている箇所が多い。

［重複］　SI６を切り、SD７・９・10に切られる。

［規模・形態］　規模は南西-北東5.4～5.8ｍ、北西-南東5.6ｍで、形態は正方形である。

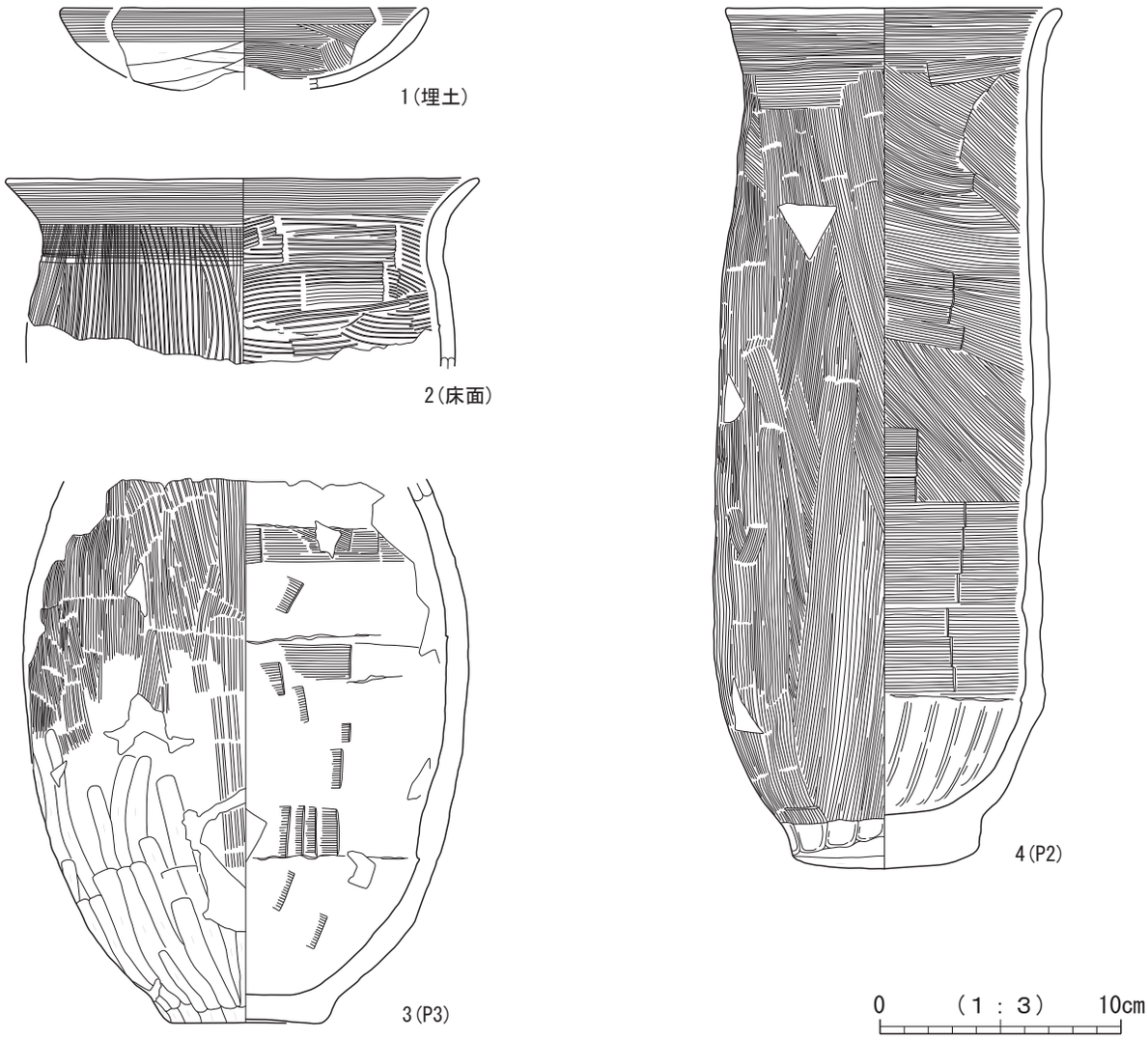
［方向］　北西壁を北壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-18°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１・２層は床面上堆積土で、大部分を占めるのは１層で、２層は南側のみの部分堆積である。両層ともⅣ層をブロック状に多量含むことから、人為的に埋められている可能性がある。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、急な立ち上がりを見せる。全体に残存は良好で、20～30cmの高さがある。南西壁の南半部は全体に西側に開いており、周溝との間には平坦面がみられる。

［床面］　４層を床面としており平坦である。但し住居中央を撹乱やSD７が切ることから床面が南北に分断されている。

［柱穴］　４個のピットを確認した。これらＰ１～４は規模・位置からみて全て主柱穴と考えられる。柱間寸法は




第80図　SI４竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-012 | SI04 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (15.0)×-×(3.8) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾅﾃﾞ | | 54 |
| 2 | C-010 | SI04 | 床面 | 土師器 | 甕 | 19.4×-×(7.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | | 54 |
| 3 | C-009 | SI04 | P3 | 土師器 | 甕 | -×6.2×(22.5) | 胴部ﾊｹﾒ、胴部下半～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 長胴甕 | 54 |
| 4 | C-014 | SI04 | P2 | 土師器 | 甕 | 13.9×7.6×35.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→指頭調整 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部指頭調整 | | 54 |

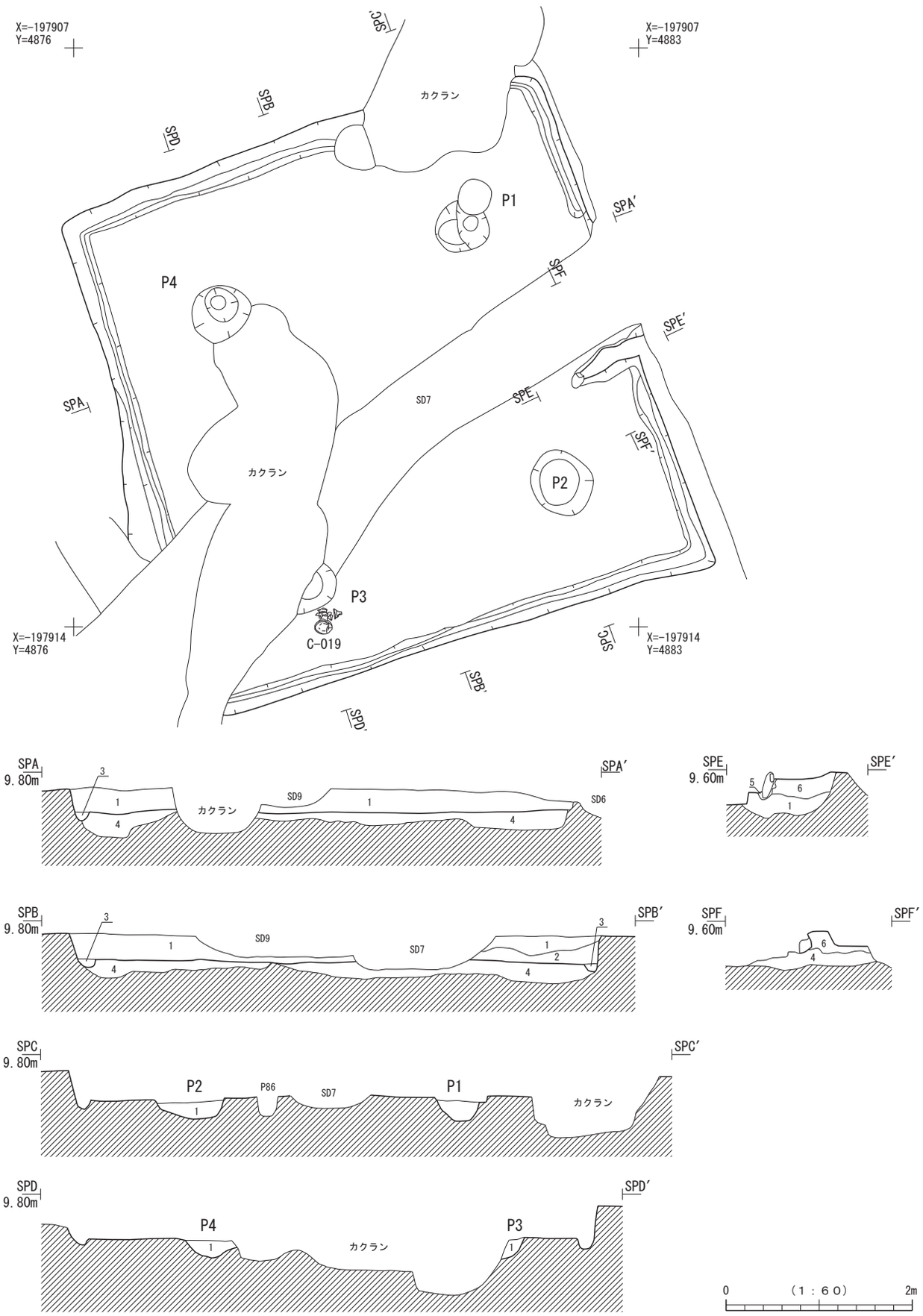
2.8～3.1ｍである。P３は撹乱により全体が明らかでないが、他は径が55～70cmの円形である。深さは全て20cm程度と平面形に比べ浅く、堆積土も単層で、柱痕跡が確認できたものは無かった。

［周溝］　壁面直下に全周して確認した。上幅は20～25cmで一定しているが、北西壁側が若干幅広である。深さは５～10cmと全体に浅い。

［カマド・煙道］　北東壁中央に付設されているが、煙道は失われている。SD６及び７により右側袖部分のみの残存で、残存長は75cm、残存高は15cm程度で、直線的に開くものである。焚口部には長さ30cm、幅10cm程の楕円形の円礫が袖石として立てられている。支脚はみられない。カマド幅や内部の焼面などは不明であるが、袖部内面は著しく被熱している。床面とカマド底面とのレベル差はほとんど無い。カマド構築土は５・６層で、６層がその大部分を占め、５層は袖石の掘り方埋土である。

［その他の施設］　特に確認できなかったが、撹乱、溝跡により失われている可能性もある。

［掘り方］　掘り方底面は周辺部が幅のある溝状となり、溝幅は70～170cmと差があり、特に南東壁側の幅が大き




第81図　SI５竪穴住居跡

SI5　埋土註記表

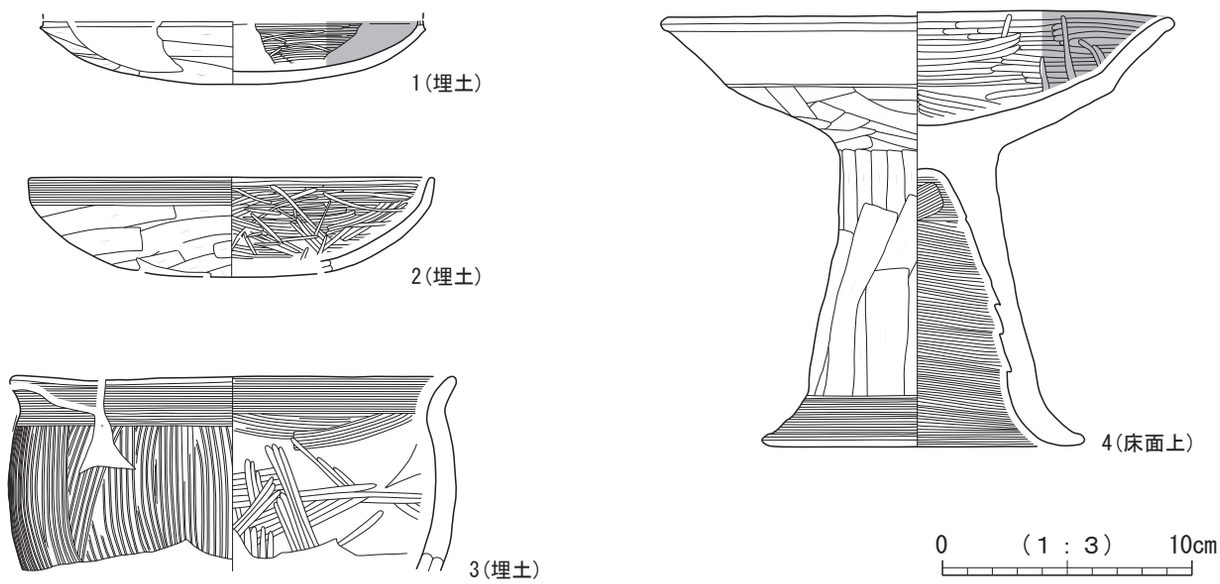
| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物粒・焼土粒を微量含む、炭化物層下面に一部あり |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物粒を微量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを微量含む |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを多量、φ2cm内の黒褐色シルトブロックを少量含む |
| カマド・ソデ | 5 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒を含む（袖石の掘り方埋土） |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 焼土ブロック・黒褐色の小ブロックを含む |

SI5　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 壁際にⅣ層ブロック・炭化物ブロックを少量、焼土粒・黄褐色土ブロックを微量含む |
| P2 | 1 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 炭化物粒・黄褐色土ブロック、黒褐色・灰黄褐色のブロックを少量含む |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを密に、φ2cm内の黒褐色シルトブロックを少量含む |
| P4 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック・炭化物ブロックを少量含む |

SI5　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 54×54 | 18 | |
| P2 | 円形 | 72×66 | 18 | |
| P3 | 円形 | (30)×(60) | 18 | |
| P4 | 円形 | 66×60 | 18 | |

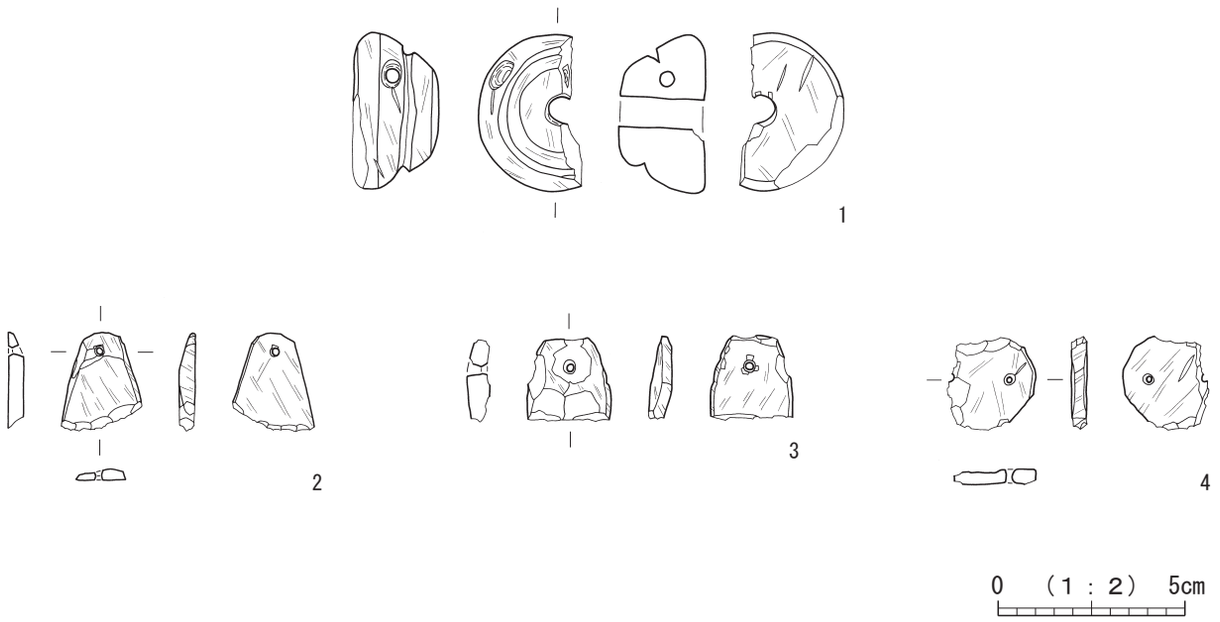



第82図　SI5竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-018 | SI05 | 埋土 | 土師器 | 坏 | -×-×(2.5) | 体部～底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 体部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面漆仕上げ | 54 |
| 2 | C-016 | SI05 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (16.2)×-×(3.8) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 54 |
| 3 | C-017 | SI05 | 埋土 | 土師器 | 甕 | (17.6)×-×(7.8) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 54 |
| 4 | C-019 | SI05 | 床面上 | 土師器 | 高坏 | 20.3×(13.0)×17.4 | 坏部口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～脚柱状部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ、脚裾部ﾖｺﾅﾃﾞ | 坏部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部ﾅﾃﾞ | 外面赤彩、坏部内面黒色処理 | 54 |

い。床面からの深さは中央付近で10cm以内なのに対し、周辺部は20～25cmで、この傾向はカマド下部についても同様である。また全体に緩やかな傾斜をみせるが部分的に急な箇所もある。底面の起伏は少なく、工具痕跡は認められなかった。

［出土遺物］　土師器坏２点、甕１点、高坏１点、紡錘車１点、石製模造品３点を掲載した。１は須恵器坏身模倣で内面漆仕上げ、２は丸底から立ち居上がり直立気味の口唇部にいたる。３は器形から台付となる可能性もある。４の高坏は、外面赤彩、内面は黒色処理され、ていねいなヘラミガキ調整を施される。紡錘車は全ての面に不規則な擦痕が観察でき、側面から穿孔を施している。石材は結晶片岩である。




第83図　SI５竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-011 | SI5 | 埋土 | 2B | 石製品 | 紡錘車 | — | 2.5×4.1×2.3 | 30.26 | 滑石 | 欠損品、最大径4.1cm、穿孔径0.9cm、側面に穿孔あり | 54 |
| 2 | Kd-009 | SI5 | 埋土 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅠA | 2.5×2.1×0.4 | 3.01 | 緑泥片岩 | 欠損品、剣形、単孔、穿孔径0.2cm | 54 |
| 3 | Kd-012 | SI5 | 1層 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅠA | 2.2×2.2×0.6 | 3.90 | 滑石 | 欠損品、剣形、単孔、穿孔径0.3cm | 54 |
| 4 | Kd-010 | SI5 | 埋土 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅡB3 | 2.1×2.3×0.4 | 3.30 | 緑泥片岩 | 欠損品、不定形、双孔、穿孔径0.2cm、孔間隔1.3cm | 54 |

## SI６　竪穴住居跡（第84～87図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の北部中央で確認した。北・南側をSI１と５により失われている他、東半部は全体に残存状況が極めて悪い。

［重複］　SI１・５やSD６～９に切られる。

［規模・形態］　規模は東西7.2ｍ、南北は南壁側がSI５により失われていることから不明であるが、7.2ｍ以上とみられ、形態は正方形である。

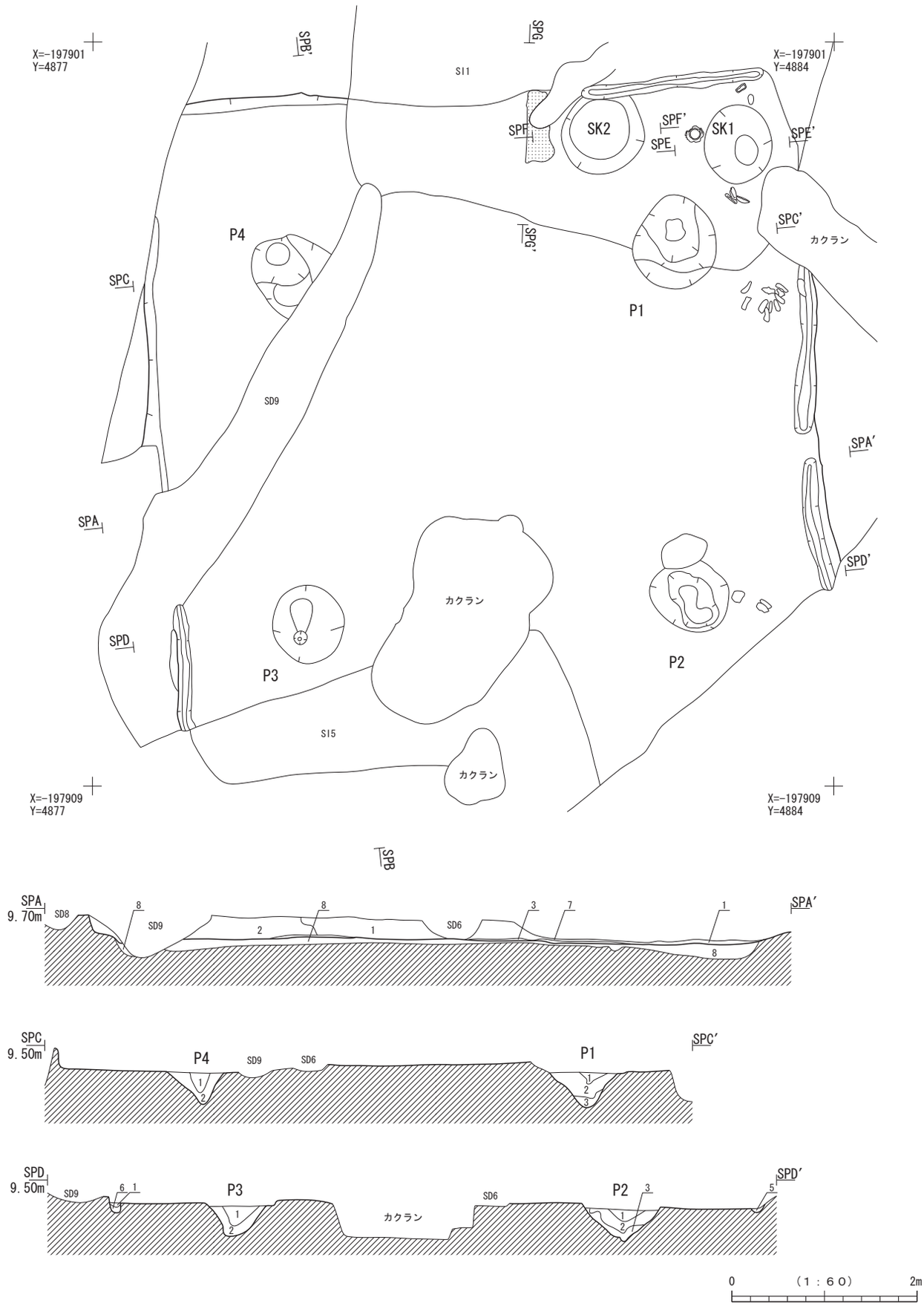
［方向］住居跡の南北軸はＮ-４°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　８層を確認した。１・２層は床面上堆積土で２層は住居南西部分にほぼ限定された堆積状況を示す。１層は褐色土、黒褐色土、Ⅳ層土によるブロックにより構成され、また２層もⅣ層をブロック状に多量混入することから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。３・４層は北壁中央やや東寄りの壁際にみられる焼土ブロック混入層で、位置的にみてカマド内の堆積土の残存と考えられる。５・６層は周溝内堆積土で、西壁側に５・６層両層、東壁際では５層のみの確認である。７層は床面の一部に断片的に確認できる褐色砂質シルト層で、層厚は厚い部分でも３cm程度であることから貼床土と考えられる。８層は掘り方埋土でⅣ層をブロック状に多量含んでいる。

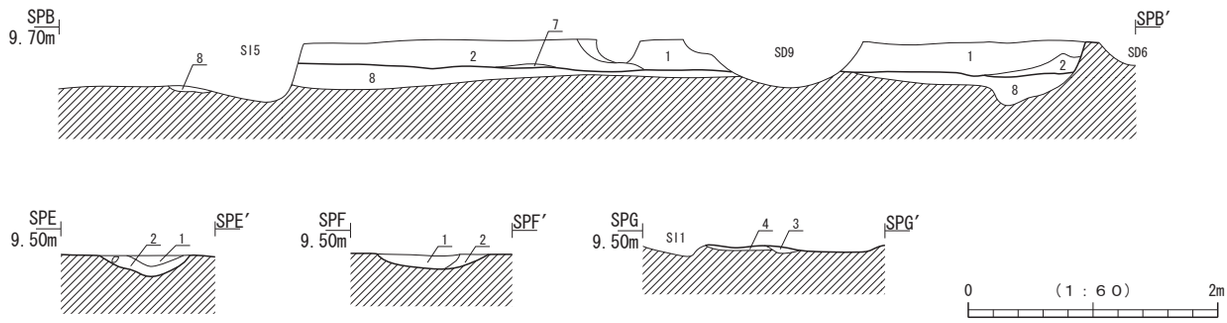
［壁面］　Ⅳ層を壁面としている。削平が著しく、壁面全体の状況は把握し難いが、残存良好な北・西壁の一部をみる限り、下部は緩やかで上部は直立気味となる。壁高は北壁西側で30cmを測り、住居東側全体に後世の削平が及ぶことから東壁・北壁東半部は残存しない。

［床面］　７・８層を床面としている。住居規模のわりには全体に平坦で、起伏は少ない。

［柱穴］　４個のピットを確認した。これらＰ１～４は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は4.0～4.3ｍで、住居規模同様大きなものである。規模が径70～100cmの円形、楕円形で、ほぼ同様の形状をもち住居




第84図　SI6竪穴住居跡(1)




第85図　SI6竪穴住居跡(2)

SI6　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のブロック土 |
| | | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | φ10cm内のブロック土　　これらの混合層 |
| | | 10YR6/4　にぶい黄橙色 | 砂質シルト | φ5cm内のブロック土 |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ5cm内の黒褐色土･にぶい黄橙シルトブロックを多量含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒を微量、褐色土ブロックを含む |
| カマド | 4 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物粒･焼土ブロックを含む |
| 周溝 | 5 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 暗褐色土ブロックを含む |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | シルト | |
| 貼床 | 7 | 7.5YR4/3　褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 8 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | φ3cm内のⅣ層ブロックを多量含む |

SI6　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 黒褐色土小ブロック･酸化鉄斑を含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を微量、にぶい黄褐色土ブロック、褐色土ブロックを少量含む |
| SK2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 黒褐色土･褐色土ブロックを含む |
| | 2 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 褐色土ブロックを含む |
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロックを微量含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを含む |
| P2 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックをまばらに含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック･黒褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 砂質土ブロックを含む |
| P3 | 1 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを上面中央、小ブロックを全体に含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 粘性のある黄褐色土ブロックを少量含む |
| P4 | 1 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 焼土粒を微量、黒褐色の粘質土を多く含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックをまばらに含む |

SI6　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 円形 | 84×72 | 15 | |
| SK2 | 円形 | 90×(78) | 12 | |
| P1 | 円形 | 102×90 | 36 | |
| P2 | 円形 | 84×72 | 30 | |
| P3 | 円形 | 84×78 | 30 | |
| P4 | 円形 | (72)×84 | 33 | |

四隅に配置されている。深さは35～45cmと浅めで、断面形はV字形となり壁面は直立せず底面は狭い。堆積土は２層ないし３層により構成され、明瞭に柱痕跡と判断できるものは無かった。また堆積状況がレンズ状となることから、柱が抜き取られている可能性も否定できないが、柱穴断面及び平面形からこれを裏付ける状況は確認できなかった。

［周溝］　北壁東半部、東壁中南部、西壁南半部で確認した。SI１や５による削平もあるが、これらとは関係しない住居北西側の壁面直下においても周溝は確認できなかった。残存部分からみると上端幅は10cm程度と狭く、深さも10cm以内で、断面形はU字形である。

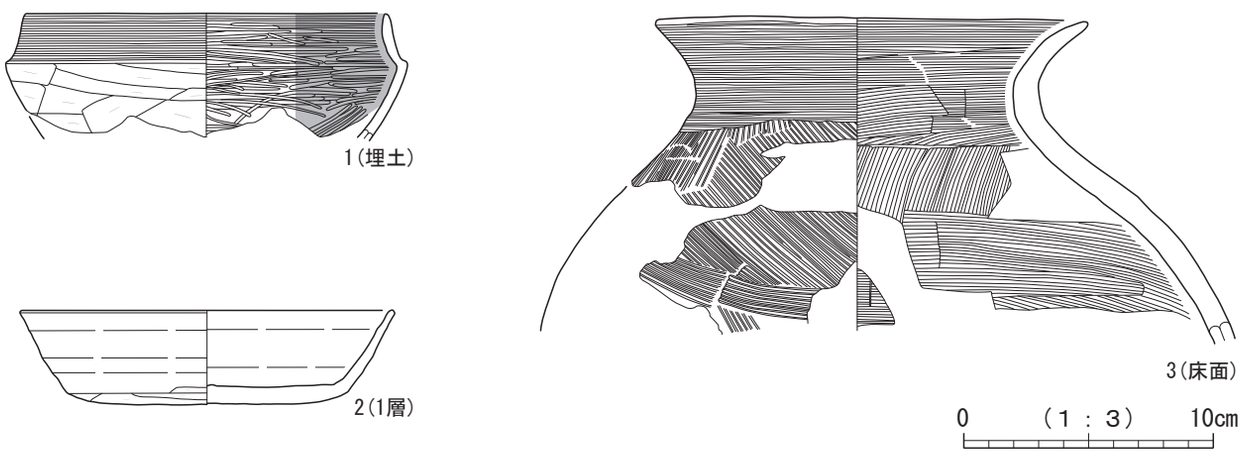
［カマド･煙道］　北壁側中央で壁際の焼土ブロック混入層を確認した。SI１によりカマド本体及び煙道は失われたものと考えられる。３･４層下に焼面などは認められず、また窪みや支脚などももたず、底面と同レベルである。

［その他の施設］　住居内床面上に土坑を２基確認した。１号土坑は北東隅に位置し、長軸85cm、短軸75cmのやや楕円形を呈し、深さ16cmの緩やかな壁面をもつ浅い土坑で、堆積土に特徴はみられない。２号土坑は焼土ブロック層東側の北壁際に位置し、径90cmの円形を呈し、深さ10cmの浅い土坑である。堆積土中にはブロック土が混入している。１号土坑は焼土ブロック層に近接し、また北壁側周溝と重複しており、これら施設との同時存在の

可能性は低いことから、１号土坑はカマドや周溝施設を造る際に埋め戻され、その機能を２号土坑が担ったことも考えられる。また東壁側の床面上に長楕円形や棒状の礫が散在する状況が認められ、特にＰ１の南西側には複数の礫が集積する箇所が認められた。この付近にはカマド施設等がみられないことから、礫群の性格については不明である。

［掘り方］　掘り方底面は中央に4.5ｍ四方の範囲で島状に高まり、中央部での底面からの深さは浅いところで３cm、周辺部では20cmを超える。特に北壁際は溝状に狭まり、深さも局部的に深くなる特徴がみられる。底面の起伏は少なく、一部に工具痕跡が認められた。

［出土遺物］　土師器の坏、甕、須恵器坏各１点、石製模造品２点を掲載した。１は関東系土師器で鬼高系土師器である。３は球胴で、直立する頸部から外反する口唇部にいたる。２は、器形・法量や調整から８世紀前半代の所産であろう。ただし、１・３の土師器と年代差があり、上部の遺構等からの紛れ込みと考えられ、遺構の帰属年代は６世紀後半までさかのぼる可能性がある。石製模造品１は、円形。２は楕円形、双孔で、鏡を模したものか。石材はいずれも緑泥片岩である。




第86図　SI６竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-020 | SI6 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (14.2)×-×(5.1) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理、関東系 | 55 |
| 2 | E-001 | SI6 | 1層 | 須恵器 | 坏 | 14.8×11.0×3.9 | ﾛｸﾛ調整、底部手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 55 |
| 3 | C-021 | SI6 | 床面 | 土師器 | 壺 | 17.2×-×(17.4) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 55 |

第87図　SI６竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-013 | SI6 | 埋土 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅡB1 | 2.3×2.6×0.4 | 4.03 | 緑泥片岩 | 完形品、円形、双孔、穿孔径0.2cm、孔間隔1.3cm | 55 |
| 2 | Kd-014 | SI6 | 埋土 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅡB2 | 2.7×3.1×0.2 | 2.97 | 緑泥片岩 | 完形品、長円形、双孔、穿孔径0.2cm、孔間隔1.7cm | 55 |

SI７　竪穴住居跡（第88～89図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の中央部北側の西壁際で確認した。住居西半部は調査区外となっている。

［重複］　SI９、SD７・10・11に切られる。

［規模・形態］　規模は北西-南東4.7ｍ、南西-北東は不明で、形態は方形である。

［方向］　通して残存する北東側壁面を東壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-18°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１・２層は床面上堆積土で全体を通してほぼ同様の層厚で水平堆積状況を示す。両層ともⅣ層がブロック状に混入し、特に１層中には顕著なことから、住居は人為的に埋め戻された可能性がある。３層は周溝内堆積土、４層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、直立気味に立ち上がる。東壁中心の残存であり、残存高は18～25cmである。

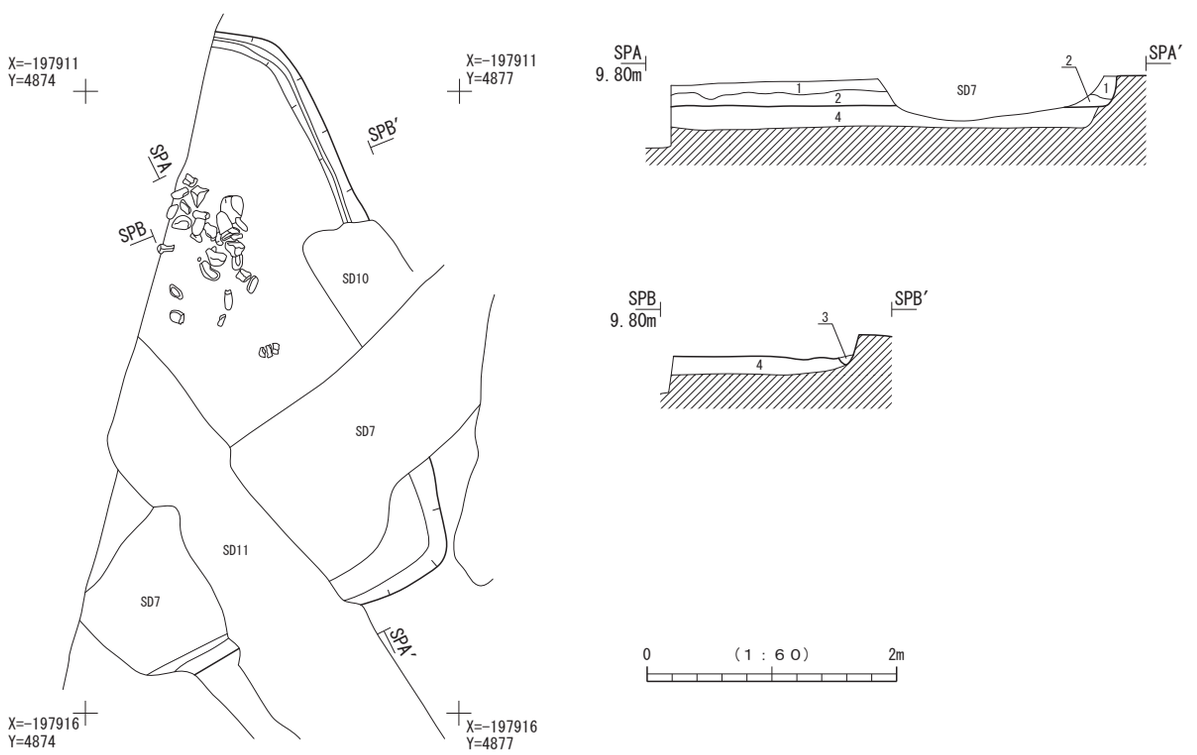
［床面］　４層を床面としている。南半部はSD７・11により失われており、残存部分をみる限り平坦な床面である。北東部床面上に最大で径20cm程の円礫がまとまりをもち多量出土した。これ自体で施設を形成するものではないが、住居内の施設の残痕或いは何らかの目的で持ち込まれたものと考えられる。

［柱穴］　確認できなかった。位置的に南東隅の柱穴はSD７に、他は調査区西壁の側溝により失われたものとみられる。

［周溝］　東壁北半から北壁に周る箇所のみに確認し、南壁側には確認できなかった。上端幅、深さとも10cm以内と小さく、断面形はＶ字形である。

［掘り方］　調査部分での掘り方底面は全体に平坦で、特に段や溝状を形成するものではない。床面からの深さは15～20cmで一定しており、東壁側は多少浅い傾向がある。工具痕跡などは認められなかった。

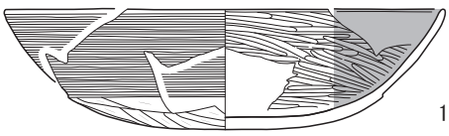
［出土遺物］　土師器坏１点を掲載した。平底状の底部で体部と底部の境目に弱い段を持つ。




第88図　SI７竪穴住居跡

SI７　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを多量、炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層極小ブロックを少量含む |
| 周溝 | 3 | 10YR4/4　褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロックを微量含む |
| 掘り方 | 4 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | φ5cm内のⅣ層・砂質シルトブロックを含む |



1（床面）

0　（１：３）　10cm

第89図　SI７竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-022 | SI07 | 床面 | 土師器 | 坏 | (17.6)×-×4.8 | 口縁部～体部上半ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 55 |

## SI８　竪穴住居跡（第90～91図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の中央部西壁際で確認した。西半部は調査区外となっている。

［重複］　SI９・10を切る。

［規模・形態］　規模は北西-南東５ｍ以上、南西-北東は不明で、形態は方形である。

［方向］　北東側壁面を東壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-18°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　３層を確認した。床面上堆積土は１層のみで、２層は周溝内堆積土、３層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、壁面下部のみの残存の為、立ち上がり状況は不明である。残存高は全体を通し10cm程度である。

［床面］　３層を床面としている。起伏は無く、平坦、水平である。

［柱穴］　１個のピットを確認した。Ｐ１は規模・位置からみて住居南東隅の主柱穴と考えられる。柱間寸法は不明である。Ｐ１は径が70cm程の円形で、深さは75cm程である。明瞭な柱痕跡が認められ、その下部が底面より８cm程低くなると共に西側にも一部窪む箇所がある。北東側の主柱穴は調査区西壁の側溝により失われたものとみられる。

［周溝］　東壁・南壁直下に確認した。上端幅は20cmと幅広で一定し、他の住居に比べ下端幅をもつ。深さは全体に15cm以上あり、断面形は逆台形である。

［掘り方］　調査部分での掘り方底面は多少の起伏を見せながらも全体に平坦で、特に段や溝状を形成するものではない。底面からの深さは15～20cmと周溝底面と同レベルで、一定している。また不明瞭であるが一部に工具痕跡が確認された。

［出土遺物］　刀子１点を掲載した。

## SI９　竪穴住居跡（第92図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の中央部北側の西壁際で確認した。南側はSI８により失われ、西半部は調査区外となっている。

［重複］　SI７・10を切り、SI８、SD７・10に切られる。

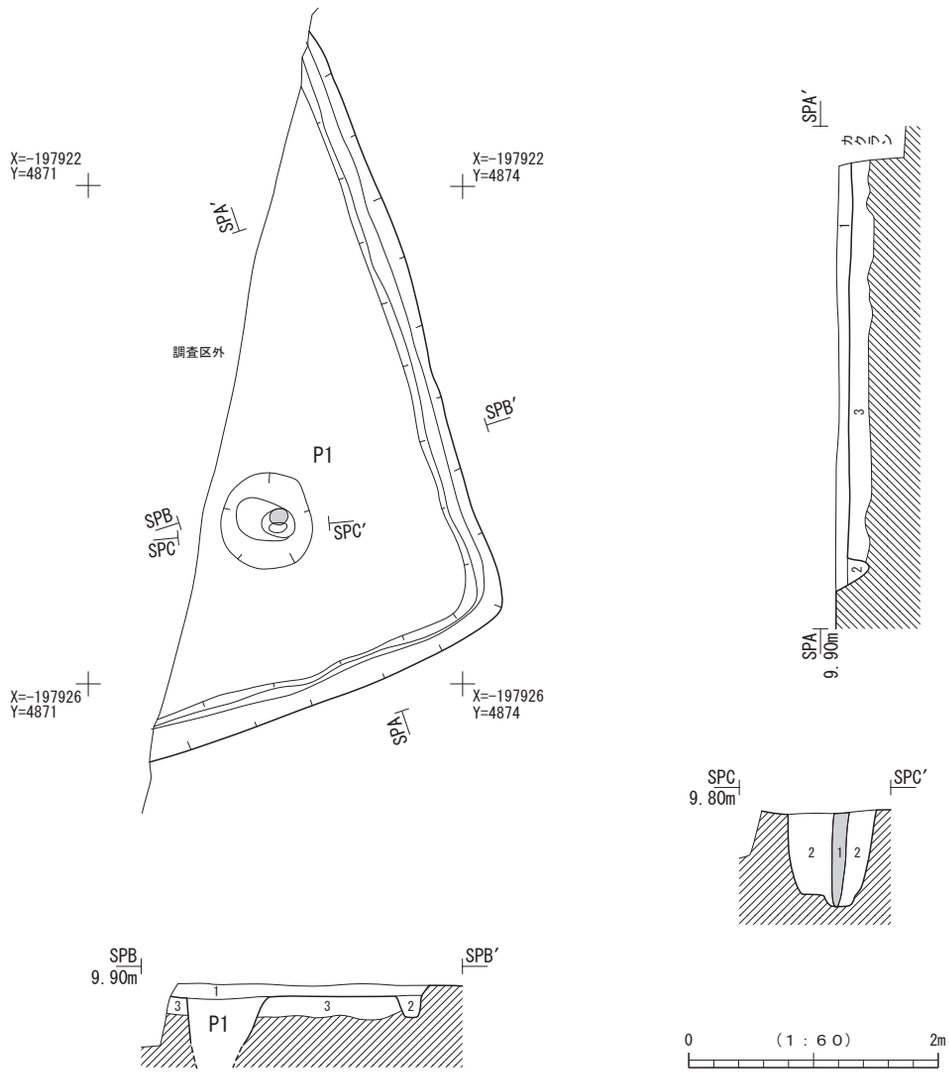
［規模・形態］　規模は北西-南東5.5ｍ以上、南西-北東5.5ｍ以上で、形態は方形とみられ、南東壁の中央部が多少外側に張り出している。

［方向］　北東側壁面を東壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-40°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１層は床面上堆積土で、Ⅳ層をブロック状に混入するが、自然堆積層と考え

られる。２層は周溝内堆積土、３層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、壁面下部のみの残存であるが急な立ち上がりをみせる。残存高は全体を通し10～




第90図　SI８竪穴住居跡

SI８　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒・褐灰色土ブロック・褐色のブロックを含む |
| 周溝 | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| 掘り方 | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |

SI８　施設埋土註記表

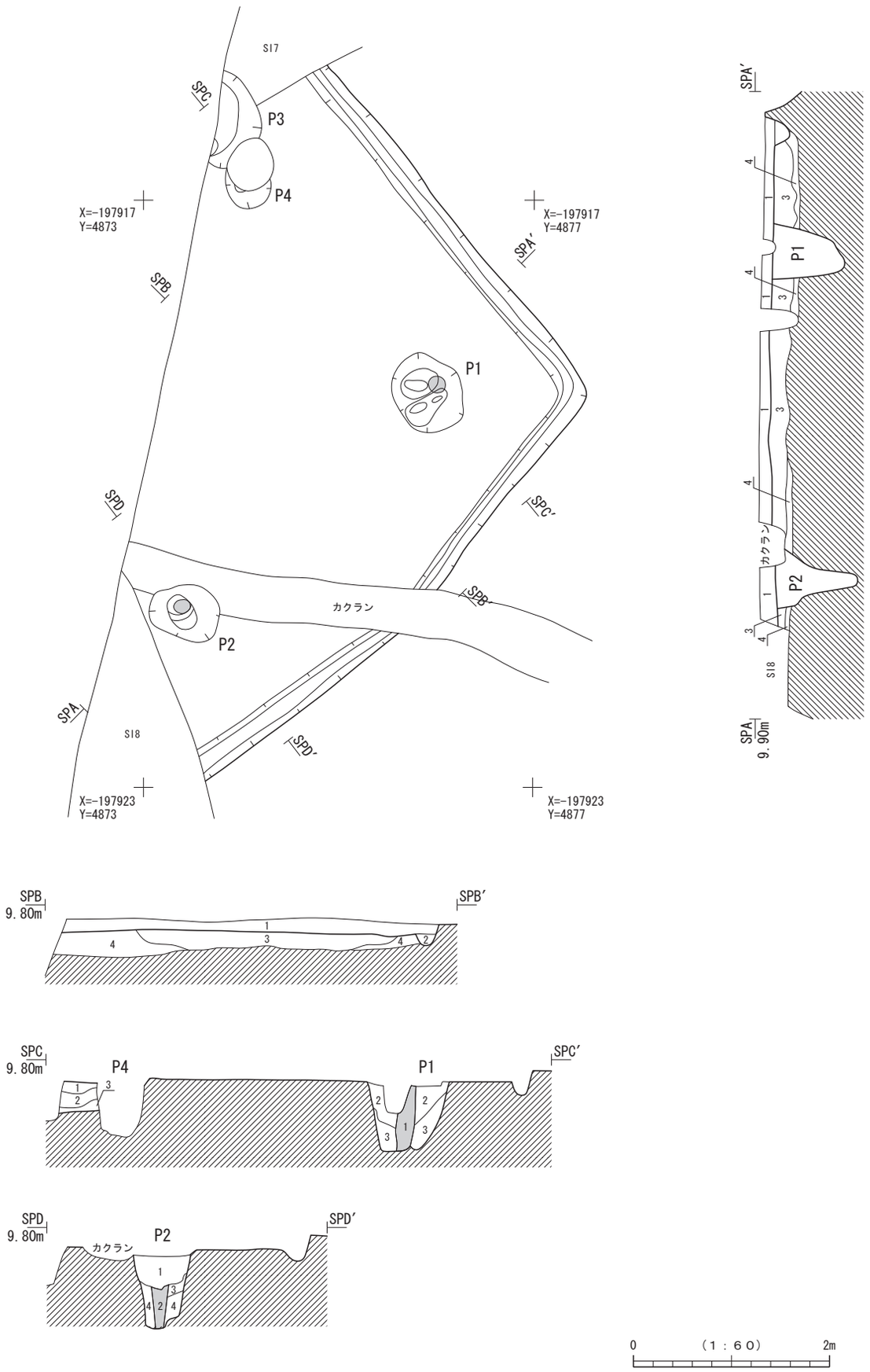
| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒を微量含む（柱痕跡） |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | φ2cm内の地山ブロックを多く含む |

SI８　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×72 | 72 | 柱痕跡あり |

第91図　SI８竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N-01 | SI8 | 1層 | 鉄製品 | 刀子 | 茎部、残存長4.7、幅0.7、厚0.3cm | 55 |




第92図　SI９竪穴住居跡

SI９埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層小ブロックを少量、炭化物粒を微量含む |
| 周溝 | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む |
| 掘り方 | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層・砂質シルトブロックを多量、炭化物粒を少量含む |
| | 4 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 下半はⅤ層に類似　暗褐色砂質シルトブロックを少量含む |

SI９　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒を微量、褐色土ブロックを含む（柱痕跡） |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を微量、黒褐色土・にぶい黄褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 黒褐色土ブロックを含む |
| P2 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 焼土粒・黒色土ブロックを少量、明黄褐色土小ブロックを含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 黒褐色土・褐色土の小ブロックを含む（柱痕跡） |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 黒褐色土ブロックを少量含む |
| | 4 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 焼土粒を微量、黄褐色土ブロックを含む |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物粒・焼土粒を微量含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒・褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロックを下部に含む |

SI９　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 84×66 | 72 | 柱痕跡あり |
| P2 | 円形 | 72×(54) | 72 | 柱痕跡あり |
| P3 | 円形 | (48)×(48) | | |

18cmである。

［床面］　3・4層を床面としている。起伏は少なく住居中央がやや高まる傾向がある。

［柱穴］　4個のピットを確認した。このうちP1～3は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は3.4mである。P3は西側側溝に切られ、全体は不明であるが、3基とも形状は円形基調で住居隅部に配置されている。径はP3が80cmとやや大型なのに対し、P2は長軸75cm、短軸55cmと小振りである。深さはP1が70cm、P2が75cmで、両者とも壁面下位に段を有する。またP1・2には明瞭な柱痕跡が確認できた。P4は床面で検出されたが住居跡に伴わない可能性もある。

［周溝］　東壁・南壁直下に確認した。上端幅は18～25cmと幅広で、深さは10～15cmを測るが本来はより深かったものと考えられる。断面形はU字形である。

［掘り方］　掘り方底面は周辺低部が広く中央部が狭い島状となる形状である。床面からの深さは中央部が15～20cm、周辺部が20～25cmで両者の比高差は少なく、段も緩やかで不明瞭である。周辺部の一部では4層のみが盛られている状況が認められる。底面に工具痕跡などは認められなかった。

## SI10　竪穴住居跡（第93～95図）

［位置・確認面］　2B区の中央部西側で確認した。住居跡の大部分はSI8・9により失われている。

［重複］　SI8・9に切られる。

［規模・形態］　規模は北西-南東は不明で、南西-北東が5.5m以上で、形態は方形である。

［方向］　南東側壁面を南壁とした場合の住居跡の南北軸はN-34°-Wである。

［堆積土・構築土］　7層を確認した。1～3層は床面上堆積土で、P1上部で各層がレンズ状に堆積しており、住居廃絶時にはP1は上部が開口していた可能性がある。4層は周溝内堆積土、5～7層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面としており、残存する東・南壁をみる限り、壁面の立ち上がりは直立気味で、残存高は20cm前後である。

［床面］　5～7層を床面としており、住居中央近くでは5層、周辺部では主として6層が床面を形成している。残存部分が狭い為、起伏は無く、平坦である。

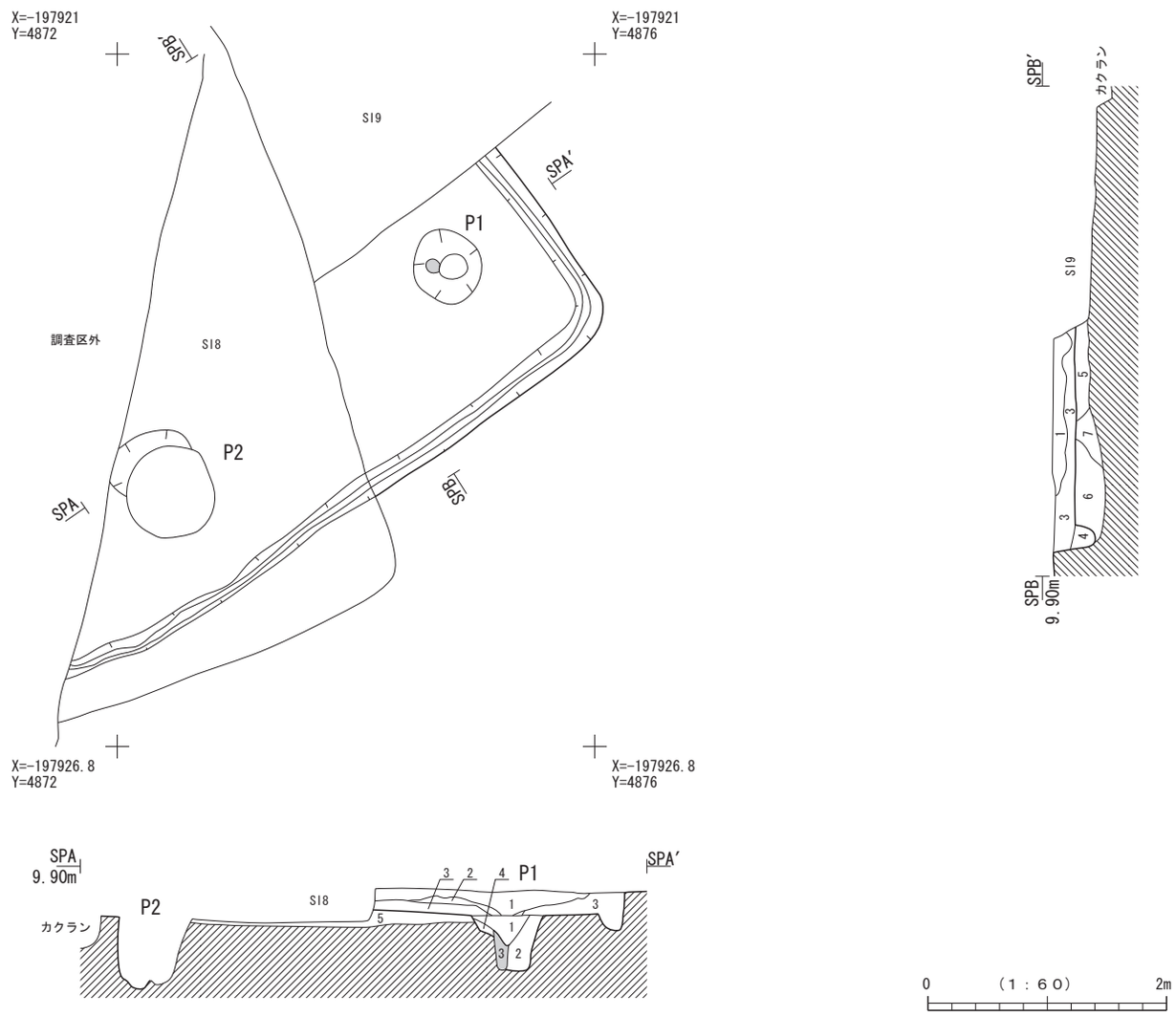
［柱穴］　床面上に1個、SI8掘り方底面に1個の計2個を確認した。P1・2は規模、位置からみて住居南辺側の主柱穴と考えられる。柱間寸法は2.9mである。P1は径60cm前後、深さ45cmで柱痕跡が確認された。埋土1層は住居堆積土3層と同一層の可能性がある。P2はSI8のP1に壊されており、径はP1同様で、深さ60cmで埋土

状況は不明である。

［周溝］　東壁・南壁直下に確認した。但しSI８との重複部分は周溝のみの確認である。上端幅は12～15cmで、幅に比して深さは15～18cmと深い。断面形は深いＵ字形である

［掘り方］　掘り方底面は南壁側が幅１ｍ前後で、浅い溝状になっている。床面からの深さは中央部で５～12cm、南壁側で25cm、東壁側で15cmである。中央部に５層が盛られているのに対し、南側低部には６・７層が盛られている。工具痕跡などは認められなかった。

［出土遺物］　土師器埦１点、砥石１点を掲載した。１は丸底の底部を持つ見込みの深い埦で、口唇部はわずかに外反する。２は面取り加工され、角柱状である。




第93図　SI10竪穴住居跡

SI10　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層を小ブロック状・暗褐色シルトブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| 周溝 | 4 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロック・黒褐色土ブロックを含む |
| 掘り方 | 5 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | シルト質の黒褐色土ブロックを少量、中央近くに黄褐色土ブロックを含む |
| | 6 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 炭化物粒・粘土質の黒褐色土ブロックを含む |
| | 7 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ2cm位の灰黄褐色土ブロックを少量含む |

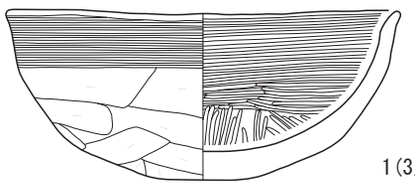
SI10　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 褐色土･黒褐色土小ブロックをまばらに含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 粘シルト | 黒褐色土ブロックを微量含む(柱痕跡) |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | シルト | |
| | 4 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック･酸化鉄斑を少量含む |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む |

SI10　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 66×60 | 42 | 柱痕跡あり |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P2 | (推)円形 | (78)×(78) | 60 | |

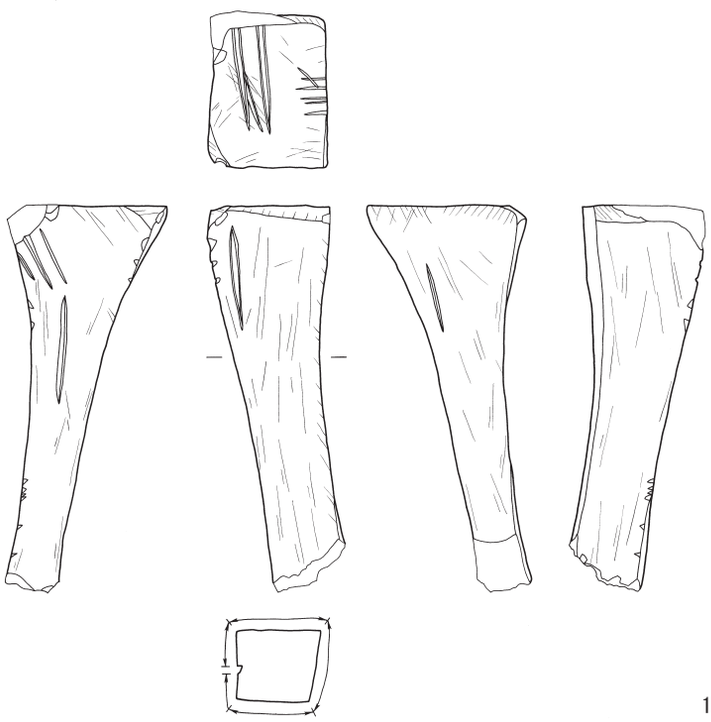


1(3層)

0　(1：3)　10cm

第94図　SI10竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-023 | SI10 | 3層 | 土師器 | 埦 | 15.9×-×6.7 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 55 |



1

0　(1：2)　5cm

第95図　SI10竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-015 | SI10 | 6層 | 2B | 石製品 | 砥石 | ⅡB2 | 10.4×3.2×4.1 | 122.63 | 砂岩 | 欠損品、面取り、柱状、無孔 | 55 |

## SI11　竪穴住居跡(第96図)

［位置･確認面］　2Ｂ区の中央部東側で確認した。東半部は撹乱により失われている。

［重複］　SI12を切る。

［規模･形態］　規模は北西-南東、南西-北東とも不明で、形態は方形とみられるが、北西隅部が105°と開く形状である。

［方向］　北西側壁面を北壁とした場合の住居跡の南北軸は北壁基準でＮ-36°-W、西壁基準でＮ-21°-Wである。

［堆積土･構築土］　2層を確認した。1層は床面上堆積土で、2層は掘り方埋土である。1層中にはⅣ層を小ブロ

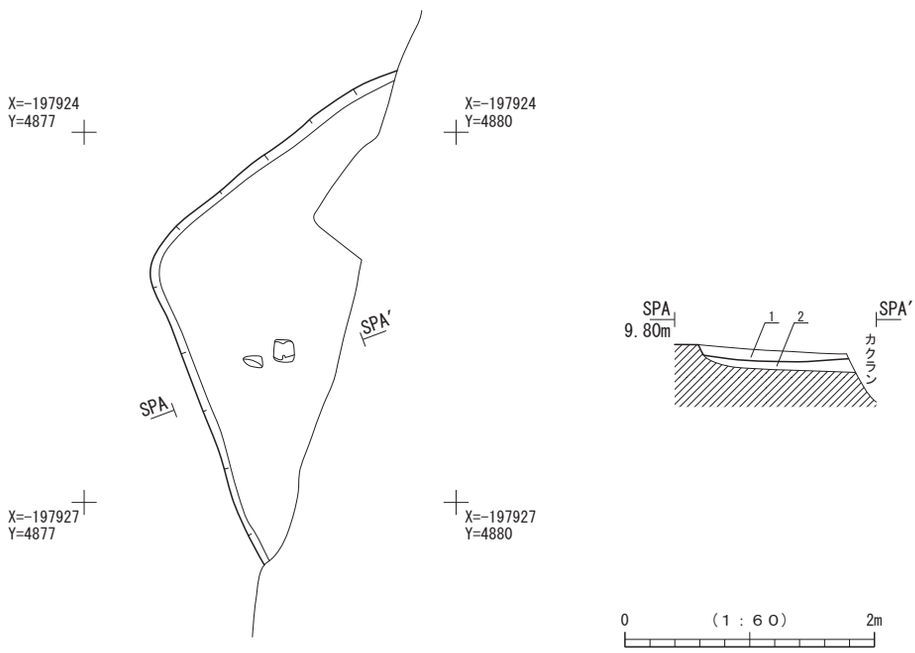
ック状に密に含むことから、人為的に埋め戻された可能性がある。

［壁面］ SI12堆積土を壁面としており、残存状況が悪く、壁面の立ち上がりは不明瞭である。

［床面］ ２層を床面としている。起伏があり、平坦ではあるがやや傾斜がある。

［掘り方］ 残存部分をみる限りでは掘り方底面はほぼ平坦で、段などは認められない。底面からの深さは住居周辺部では浅い傾向があり、３～10cmである。

［出土遺物］ 掲載した遺物はない。




第96図　SI11竪穴住居跡

SI11　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを密、炭化物粒・焼土粒を微量含む |
| 掘り方 | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを密、炭化物ブロックを微量含む |

## SI12　竪穴住居跡（第97～98図）

［位置・確認面］ ２Ｂ区の中央部東側で確認した。東半部は撹乱により失われている。

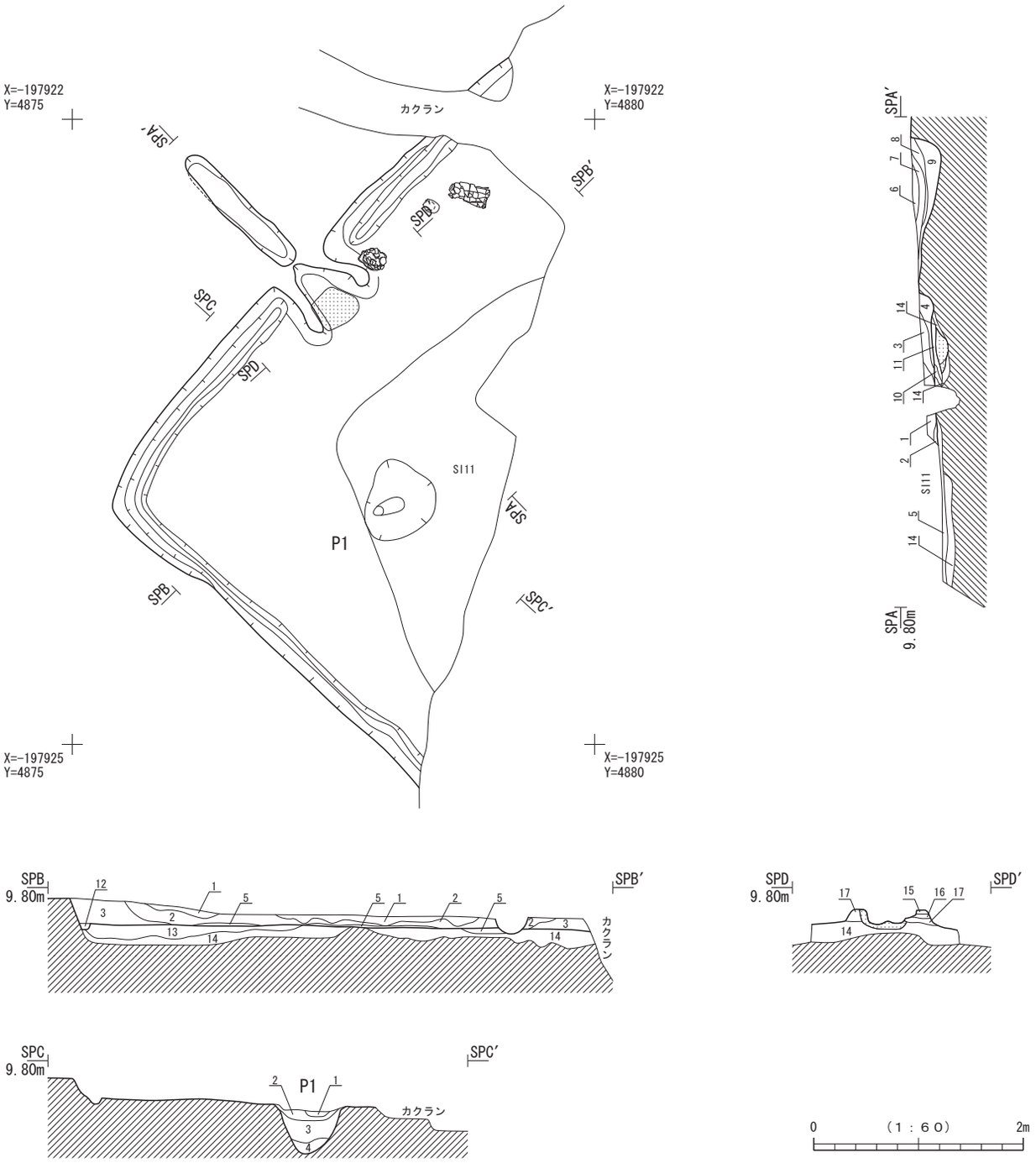
［重複］ SI11を切る。

［規模・形態］ 規模は北西-南東4.1ｍ以上、南西-北東5.6ｍ以上で、形態は正方形とみられる。

［方向］ カマドのある北西壁を北壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-48°-Ｗである。

［堆積土・構築土］ 14層を確認した。１～３層は床面上堆積土で、住居跡全体にレンズ状に堆積しており、周辺部の２・３層中にはⅣ層土がブロック状に多量混入している。４層はカマド内のみの堆積土で、床直上に貼られた貼床とみられ、床面の広範囲に確認された。６～９層は煙道内堆積土で６層中には焼土ブロックを密に含み、また８層はまとまった焼土ブロックがみられることから壁面の崩落土層とみられる。10・11層はカマド下部のみにみられる掘り方埋土で、10層中には炭化物を密に含み、また11層中には焼土ブロックを多量含んでいる。これに対し、13・14層は住居全体を占める掘り方埋土で、13層は住居周辺部にほぼ限定されるのに対し、大部分は14層である。また12層は周溝内堆積土である。

［壁面］ Ⅳ層を壁面とし、直立はせず、全体にやや傾斜をもって立ち上がる。この地区が東側に向かって削平が深くなることから、残存良好な西壁際側で25cm程である。




第97図　SI12竪穴住居跡

SI12　埋土註記表(1)

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物･焼土ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを多量含む　酸化鉄斑顕著 |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック･暗褐色土ブロックを多量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ5cm内の焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |
| 貼床 | 5 | 10YR5/2　灰黄褐色 | シルト | |
| カマド･煙道 | 6 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | φ2cm内の焼土ブロックを密に含む |
| | 7 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内の焼土ブロックを少量含む |
| | 8 | 10YR2/1　黒色 | シルト | 焼壁の崩落土層 |
| | 9 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の焼土ブロックを少量含む |
| カマド | 10 | 10YR2/3　黒褐色 | 粘シルト | 炭化物を全体に密に含む |
| | 11 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物小ブロックを少量、φ1cm程の焼土ブロックを多量含む |
| 周溝 | 12 | 10YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| 掘り方 | 13 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを密に含む |
| | 14 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックを密に含む |

SI12　埋土註記表(2)

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| カマド・ソデ | 15 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 16 | 7.5YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm程の焼土ブロックを密に含む |
| | 17 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを少量含む |

SI12　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR6/3　にぶい黄橙色 | 砂質シルト | 褐色砂質シルトブロックを多量含む |
| | 3 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを少量含む |
| | 4 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック土層 |

SI2　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×72 | 42 | |

［床面］　基本的に貼床層５層を床面としており、部分的に13・14層も床面となっている。床面はおおむね平坦であるが、全体に東側に傾斜している。

［柱穴］　１個のピットを確認した。壁面からの距離は多少あり、Ｐ１は規模、位置からみて北西側の主柱穴と考えられる。Ｐ１は上端形状が長軸75cm、短軸40～65cmの不整円形で、深さ45cm、壁面は直立せず底面は狭い。堆積土中には柱痕跡は確認できなかった。

［周溝］　確認した北及び西壁の壁面直下に確認した。上端幅は10～15cm、深さは10cm以内と浅く、断面形は舟底状である。カマド左側の北壁と北西隅部では壁面との間に稜をもっている。

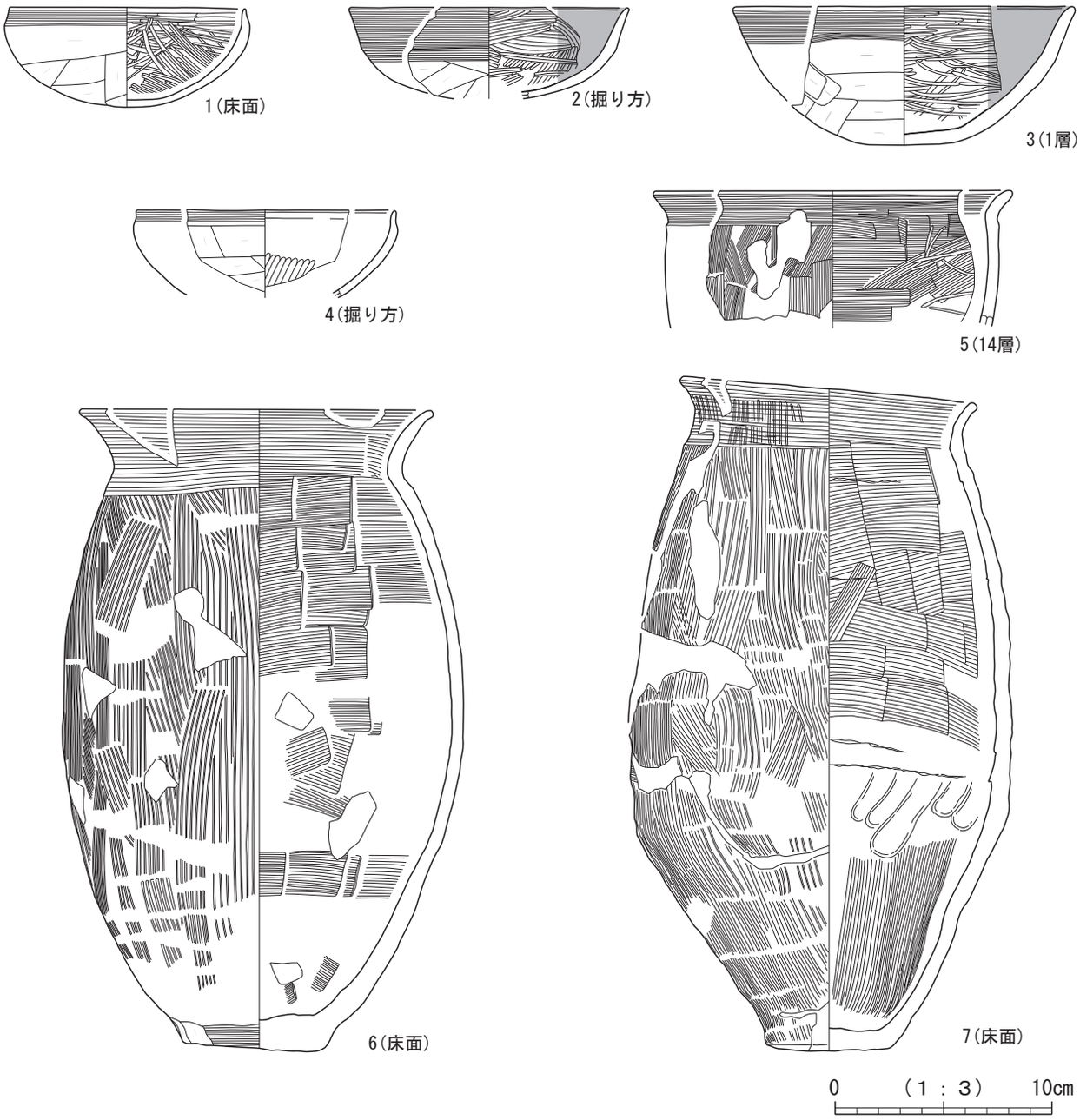
［カマド・煙道］　北壁ほぼ中央に付設されているものとみられる。袖部は直線的に開き、残存長は両袖とも75cm程で、残存高は左側袖で10cm、右側袖で15cmである。右側袖内側壁は崩落の為か、一部窪んでいる。両袖口に礫などの埋設物はみられない。外幅は奥壁側85cm、焚口側95cmで、燃焼部底面と住居床面とのレベル差は無い。奥壁には10cm以上の段がみられる。また燃焼部底面には径35cm程の焼面がみられ、カマド内部は特に左側袖の被熱が著しい。支脚などは無かった。カマド構築土は15～17層で、全て砂質シルト土で、特に16層中には焼土ブロックを密に含むことから、カマドは造り替えされているものと考えられる。

煙道は住居奥壁からの長さが140cmを測り、奥壁際の底面は削平されている。幅は太い箇所が25cm程で、住居側がかなり浅く緩やかに傾斜するのに対し、先端側は徐々に深くなり、ピット状とはならず、崩落の為か一部でオーバーハング気味である。先端部は深さ30cmで煙道部に焼面はみられなかった。

［その他の施設］　床面上に土坑等の施設は確認できず、SI11により失われた可能性もある。

［掘り方］　西壁側とカマド部分を除く北壁側が幅の広い溝状となっている。西壁側は幅1.4～1.8m、底面からの深さは20cmで、底面は平坦である。この結果住居中央は島状になるが、その南部では深さが10cmになる箇所もある。カマド燃焼部下では底面から15cm下がる土坑状を呈する窪みとなっている。掘り方底面一部には半月状の工具痕跡が明瞭に確認できた。

［出土遺物］　土師器坏３点、埦１点、甕３点を掲載した。１・４は丸底で口唇部が若干外反する土師器であり、いわゆる関東系土師器である。２は、丸底で体部と底部の境い目に弱い稜をもつ。３は小さい平底状の底部から外反し口唇部に至る。６・７は長胴甕で、胴部に外面縦位のハケメ整形を施す。




第98図　SI12竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-031 | SI12 | 床面 | 土師器 | 坏 | 11.0 × - × 4.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 55 |
| 2 | C-025 | SI12 | 掘り方 | 土師器 | 坏 | (12.8) × - × (4.2) | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 55 |
| 3 | C-028 | SI12 | 1層 | 土師器 | 埦 | (15.4) × - × 6.4 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 55 |
| 4 | C-024 | SI12 | 掘り方 | 土師器 | 坏 | (12.0) × - × (3.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 55 |
| 5 | C-026 | SI12 | 14層 | 土師器 | 甕 | (16.4) × - × (6.3) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ | 二次被熱顕著 | 55 |
| 6 | C-029 | SI12 | 床面 | 土師器 | 甕 | 16.3 × 6.6 × 29.5 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 55 |
| 7 | C-030 | SI12 | 床面 | 土師器 | 甕 | (13.4) × 5.6 × 31.2 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾕﾋﾞﾅﾃﾞ、胴部下半ﾅﾃﾞ | | 55 |

## SI13　竪穴住居跡（第99～100図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の中央部東側で確認した。東壁側は撹乱により失われている。

［重複］　SI21、SD12に切られる。

［規模・形態］　規模は北東-南西2.9m、北西-南東2.8mと小型で、形態は掘り方底面形状を考慮すると正方形と考えられる。

［方向］　南北方向に近い北西壁を西壁とした場合の住居跡の南北軸はN-30°-Eである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１・２層は床面上堆積土で両層の層理面は凹凸が著しい。また両層中にはⅣ層をブロック状に密に含むことから、住居跡は人為的に埋め戻された可能性がある。３層は周溝内堆積土、４層はほぼ単層の掘り方埋土である。

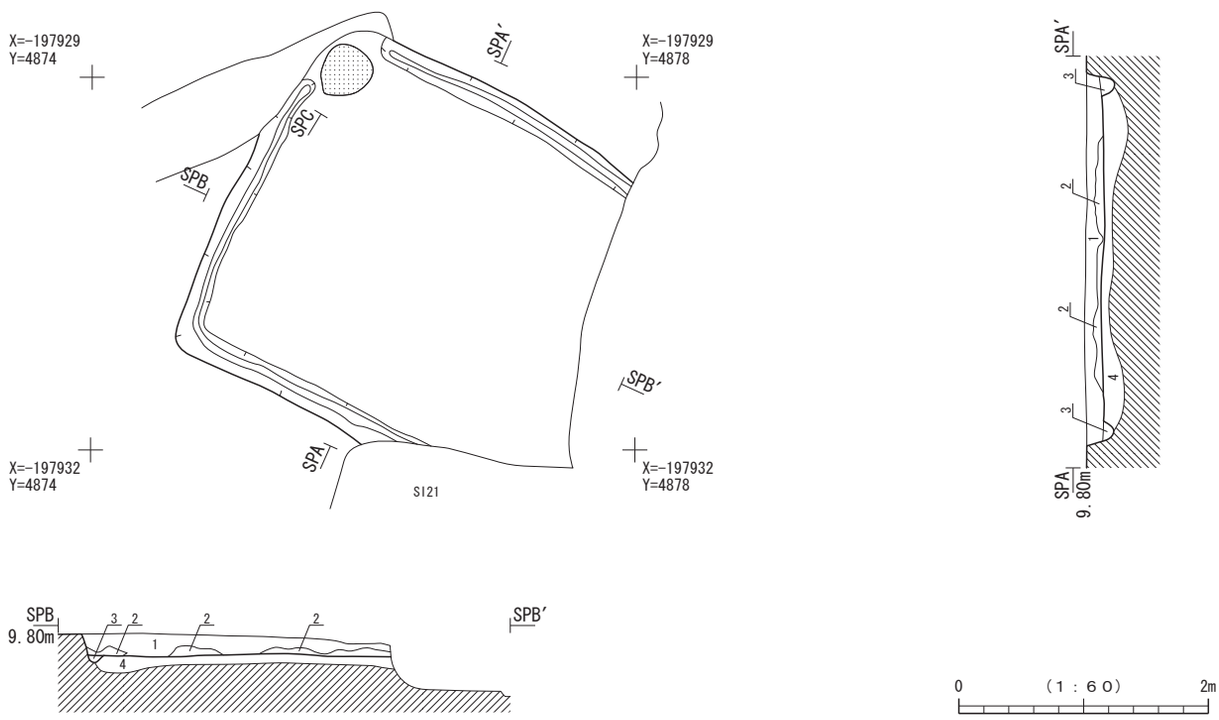
［壁面］　Ⅳ層を壁面としている。３面が残存しており、残存高は10～15cmで全体に急な立ち上がりである。

［床面］　４層を床面としており、平坦で水平である。

［柱穴］　床面上及び掘り方底面において主柱穴或いはピット状のプランは確認できなかった。

［周溝］　確認した壁面に沿ってほぼ全周して確認したが、北西隅部に位置する焼面両側で途切れている。上端幅は10～15cm、深さは西・南壁側で6～10cm、北壁側では全体に深めで12cmを測る。断面形は舟底形、U字形である。

［カマド・煙道］　カマド本体や煙道は確認できなかったが、住居に伴うとみられる焼面を北西隅の床面上に検出した。焼面は径40cmとやや広めの円形で、床面より４cm程度窪み、上部に住居堆積土１層が堆積している。被熱面は掘り方埋土４層で、被熱の程度は強いものではなく、部分的に焼土ブロックの混入がみられる。焼面は本来カ




第99図　SI13竪穴住居跡

SI13　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを密に含む |
| 周溝 | 3 | | | |
| 掘り方 | 4 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを密に含む |
| 被熱部位 | 被熱部位 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 焼土ブロックを全体に、褐色土ブロックを含む |

マド内の燃焼面で、後にカマドが取り壊された可能性も否定できないが、位置的に住居隅部で、また周溝が近接するなどの観点から、この焼面はカマドに伴うものでは無く、単体で機能したものと考えられる。

［掘り方］　掘り方底面は周辺が幅広の溝状となり、中央部は不整形の島状に高まる形状となっている。溝幅は西壁側で、70cmと狭いのに対し、東半は全体に広い。床面からの深さは中央部で５～10cm、周辺部で15～20cmとなり、間は緩やかな傾斜面となっている。底面の起伏は少なく、工具痕跡は認められなかった。

［出土遺物］　土師器甕１点を掲載した。球胴の大型の甕である。

第100図　SI13竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-032 | SI13 | 床面 | 土師器 | 甕 | -×7.0×(28.2) | 頸部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 頸部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ | | 56 |

SI14　竪穴住居跡（第101～103図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の南半部北側で確認した。SB１・２の柱穴により数箇所部分的に失われている。

［重複］　SI15・23を切り、SB１・２、SK４に切られる。

［規模・形態］　規模は北西-南東4.0m、南西-北東4.3mで、形態はほぼ正方形である。

［方向］　カマドが付設される北西壁を北壁とした場合の住居跡の南北軸はN-45°-Wである。

［堆積土・構築土］　８層を確認した。１～４層は床面上堆積土で大部分は１・３層が占め、間に薄い２層を挟んでいる。全ての層中にはⅣ層をブロック状に多量含むことからみて、この住居は人為的に埋め戻された可能性がある。５層はカマド内堆積土で炭化物ブロックを多量、焼土ブロックを密に含んでいる。また６層は周溝内堆積土、７・８層は掘り方埋土で、８層が掘り方全体に入れられるのに対し、７層は周辺低部のみにみられ、層中にはⅣ層ブロックが密に含まれている。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、全体に直立して立ち上がる。残存高は20～30cmと残りが良い。

［床面］　中央部では主に８層、周辺部では７層を床面としている。多少の起伏はあるが、おおむね平坦で水平である。

［柱穴］　４個のピットを確認した。P１～４は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は1.8～2.0m

と狭い。形状はいずれも円形で住居の四隅に配置されている。径はＰ１～３が65～70cmなのに比べＰ４は短軸で48cmとやや小型である。深さは27～35cmと浅く、壁面はＰ１が全周して直立気味で底面が平坦なのに対し、他は緩やかで明瞭な底面はみられない。４つの柱穴の堆積土中に明瞭な柱痕跡は確認できなかったが、Ｐ１・３の底面の一部が窪むことから、これらには柱痕跡が残存していた可能性がある。

［周溝］　壁面直下に全周して確認した。上端幅は北・西壁側で20cm、東・南壁側はやや広く25cmで、深さは平均して15cm、断面形は舟底状となり、底面と壁面の境は不明瞭である。

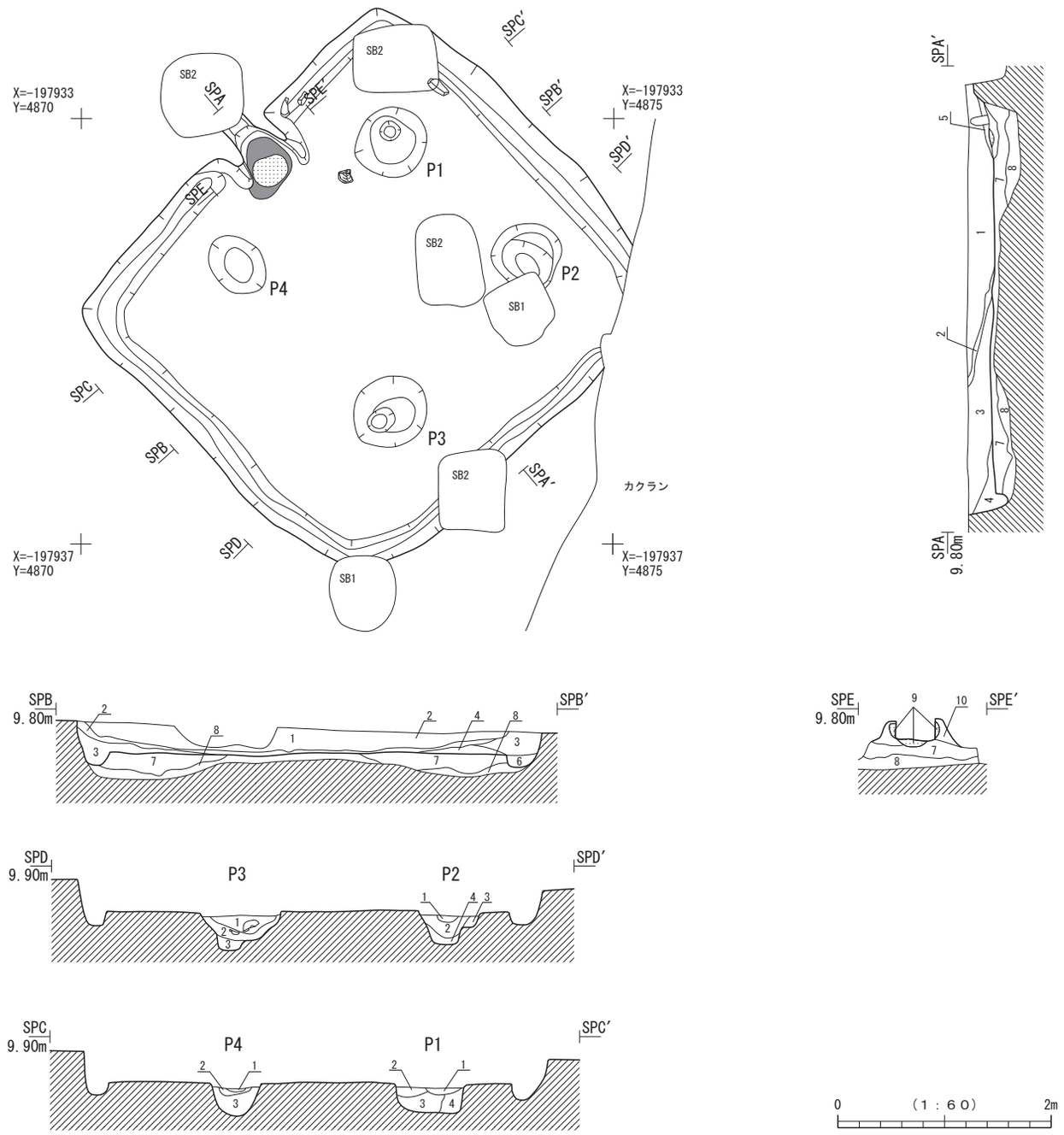
［カマド・煙道］　北壁ほぼ中央に付設されている。右側袖部をみる限り内側に湾曲しており、両袖部とも先端部は失われているものとみられ、袖口に礫などの埋設物はみられない。残存長は左側袖45cm、右側袖62cm、残存高は両袖とも20cmと他の住居跡に比べ良好である。カマドの外幅は奥壁側70cm、焚口側60cmと推定され、燃焼部底面は床面より若干高まっているが、段などはみられない。また煙道部との境には高さ10cm程の緩やかな段がみられる。カマド構築土は９・10層で、９層は内面側で固く焼け締まる底面の焼面同様のもので、10層は砂質シルトで炭化物粒が混入している。右側袖部に焼土ブロックが含まれることからみてカマド内面は壁面が造り直されているものと考えられる。カマド内部には底面全面にわたり径55×45cmの焼面がみられ、さらに中央部の35×25cmの範囲は硬化の度合いが大きい。硬化面の奥側には底面からの高さ18cm程の楕円形状の円礫による支脚がやや前傾して左側袖寄りに設置されている。内面壁は全体に被熱しており、基部側の被熱が特に著しい。また底面上に灰層、炭化物層などは認められなかった。カマド設置面は下部に土坑状の窪みは特に見られず、周辺同様に掘り方埋土７層上の平坦面に設置されている。

煙道はカマド本体との接続部分のみが残存しており、先端側はSB２のＰ１により失われている。推定される長さは90cm以内と短く、残存部での幅は25cmの浅いものである。

［その他の施設］　床面のほぼ全体が残存しているにも関わらず、付属土坑などは確認できなかった。

［掘り方］　掘り方底面は中央に1.5m四方の狭い範囲で島状に高まり、周辺部が幅広の溝状に落込む形状で、他の住居跡よりその度合いが大きい。床面からの深さは中央部で４～８cmと極めて浅く、これとは逆に周辺部は20～25cmと深くなり、その境も全周して傾斜を持ち、深浅が明らかである。底面に明瞭な工具痕跡などは認められなかった。

［出土遺物］　土師器坏４点、甕３点、土錘１点、刀子１点、砥石２点を掲載した。１は、口縁と体部、２は体部と底部の境目に稜を持つ。４は、小型で見込みの深い坏である。甕は、７の長胴甕が出土している。




第101図　SI14竪穴住居跡

SI14　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより構成　暗褐色砂質シルトブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより構成　暗褐色砂質シルトブロックを多量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより構成　炭化物ブロックを少量含む |
| | 4 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより構成 |
| | 5 | 7.5YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物ブロックを多量、φ1cm内の焼土ブロックを密に含む |
| 周溝 | 6 | 6YR4/4 | 砂質シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| 掘り方 | 7 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックが主体　炭化物粒を少量含む |
| | 8 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| カマド・ソデ | 9 | 5YR3/4　暗赤褐色 | 砂質シルト | 一部は橙色を呈し著しく焼け締まる |
| | 10 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む |

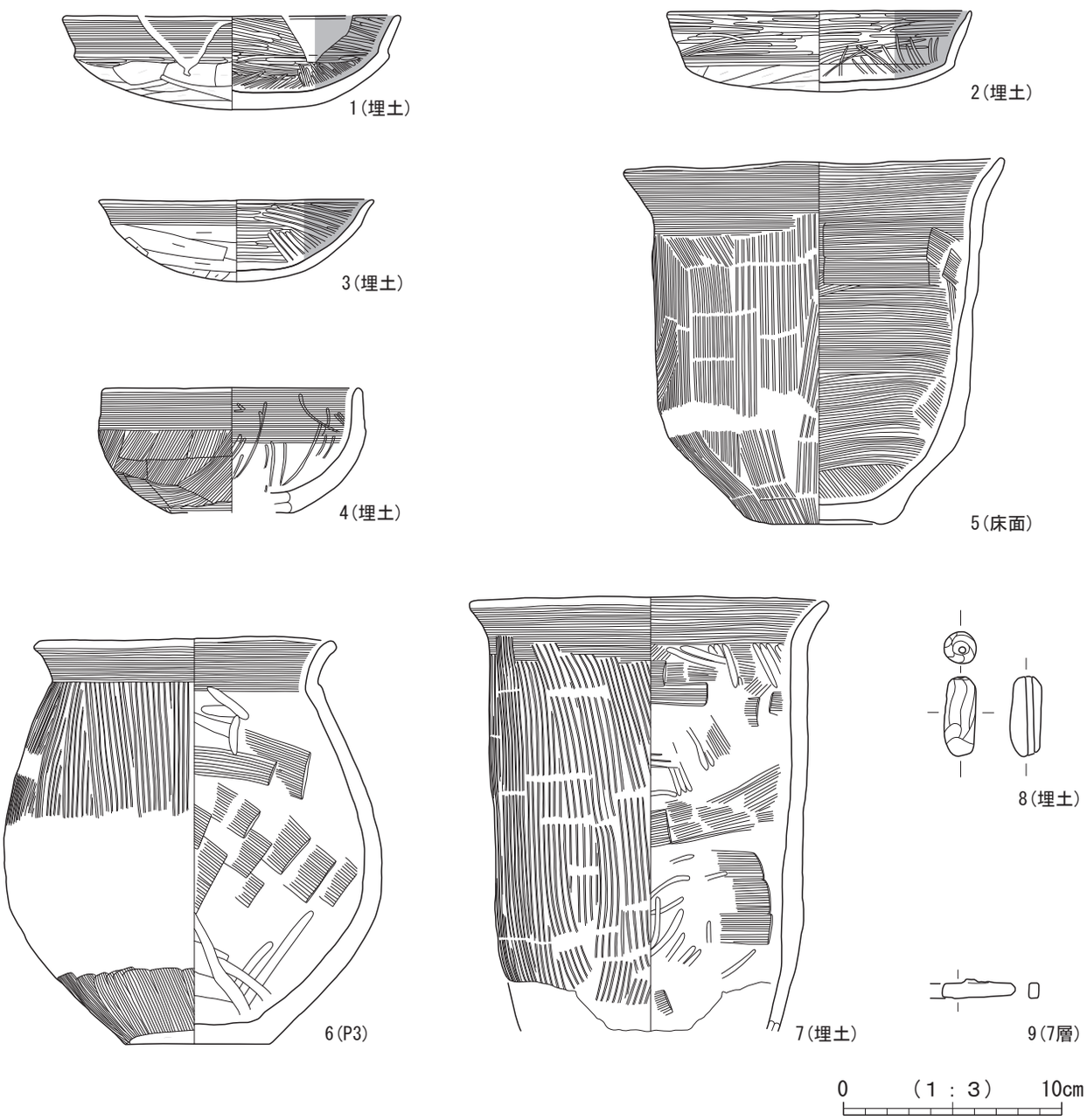
SI14　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量、黒褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | 粘シルト | 一部炭化物層がみられる　にぶい黄褐色土ブロックを含む |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | シルト | にぶい黄褐色土ブロックを含む |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 暗褐色土ブロックをまばらに含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 黒褐色土を小ブロック状に含む |
| P3 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒・黒褐色粘質土を含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒・黒褐色土ブロックを含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒・黒褐色土ブロックを微量含む(柱痕跡?) |
| P4 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を全体に含む |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量、褐色土ブロックを含む |

SI14　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 66×66 | 24 | |
| P2 | 円形 | 60×60 | 24 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 円形 | 72×66 | 60 | |
| P4 | 円形 | 60×48 | 24 | |

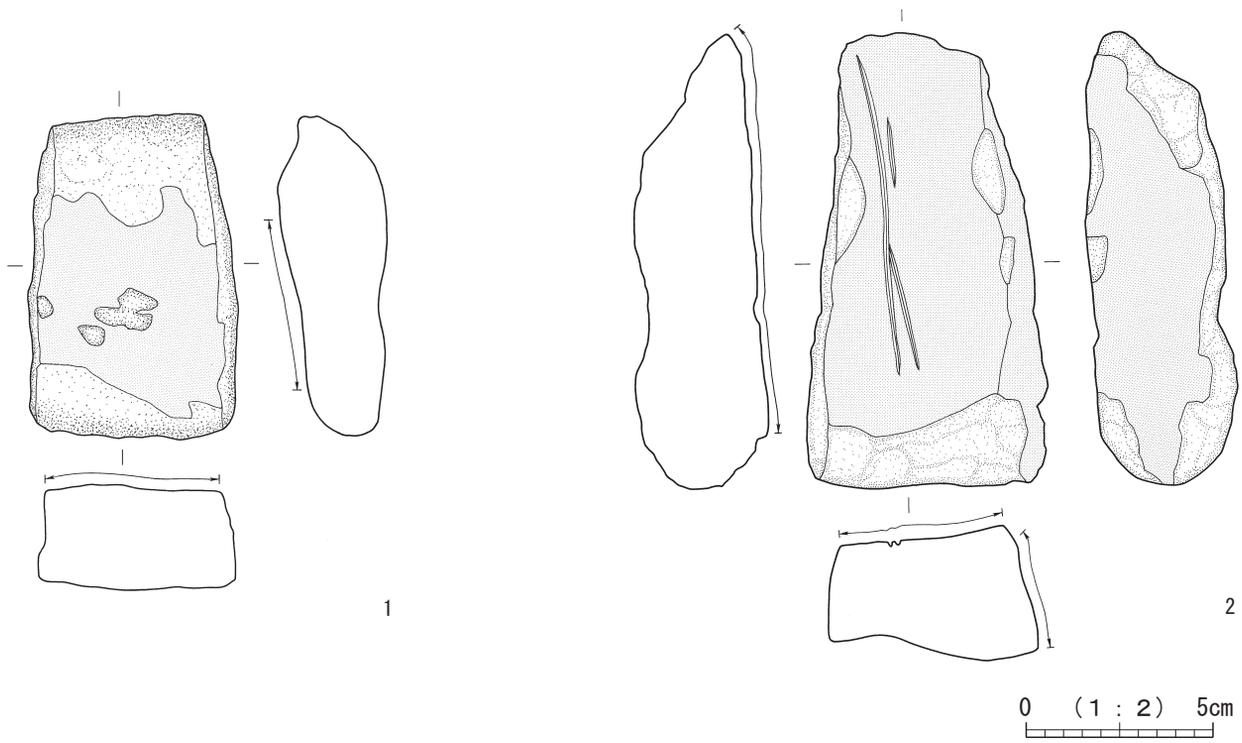



第102図　SI14竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-036 | SI14 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (15.5)×-×4.3 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→一部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 56 |
| 2 | C-037 | SI14 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (13.9)×-×3.7 | 口縁部～体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 56 |
| 3 | C-038 | SI14 | 埋土 | 土師器 | 坏 | 12.6×-×3.8 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 56 |
| 4 | C-039 | SI14 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (11.6)×(5.5)×5.7 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 56 |
| 5 | C-033 | SI14 | 床面 | 土師器 | 甕 | 17.4×6.0×16.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 56 |
| 6 | C-034 | SI14 | P3 | 土師器 | 甕 | 13.4×6.6×18.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部ﾅﾃﾞ | | 56 |
| 7 | C-035 | SI14 | 埋土 | 土師器 | 甕 | 15.8×-×(19.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ | | 56 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | P-02 | SI14 | 埋土 | 土製品 | 土錘 | 3.7×径1.5×孔径0.3 | 8.8 | ナデ | 56 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | N-02 | SI14 | 7層 | 鉄製品 | 刀子 | 残存長3.3、最大幅0.7、厚0.5cm | 56 |




第103図　SI14竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種別 | 器種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-016 | SI14 | 床層 | 2B | 石製品 | 砥石 | ⅠA2 | 8.8×5.5×3.0 | 112.06 | 砂岩 | 完形品、自然礫、板状、無孔、自然面あり | 56 |
| 2 | Kd-017 | SI14 | 床層 | 2B | 石製品 | 砥石 | ⅠB2 | 12.1×6.4×3.6 | 197.75 | 砂岩 | 完形品、自然礫、柱状、無孔、自然面あり | 56 |

## SI15　竪穴住居跡（第104～106図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の南半部で確認した。南半部をSI16・17に、また東側を撹乱により失われている。

［重複］　SI14・16・17、SB１・２、ＳＫ３に切られる。

［規模・形態］　規模は南西-北東5.0ｍで、北西-南東は主柱穴の位置から推察して５ｍ以上で、形態はほぼ正方形とみられる。

［方向］　カマドが付設される北西壁を北壁とした場合の住居跡の南北軸はＮ-41°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　18層を確認した。１～６層は床面上堆積土で全層ともレンズ状の堆積状況をみせる。大部分を占めるのは１層で、この層は褐色と黒褐色の砂質シルトブロック土により構成される。また３層もⅣ層をブロック状に含むことから、この住居は廃絶時または埋没途中で人為的に埋め戻された可能性がある。７層は東半部の一部にみられる層厚３～４cmのにぶい黄褐色砂質シルトの薄い層で、床面上の貼床の可能性が考えられる。８～15層

はカマド内及び煙道内堆積土で、カマド上部の10層は層上面が焼面となり11・13・15層中には焼土ブロックが多量混入している。断面観察からみて17層上面で検出した焼面については住居当初のもので、後に崩落或いは造り替え等による理由でカマド内がかさ上げされることで、最終的には煙道内堆積の11層上にのる10層上において焼面が形成される結果となったことがわかった。８・12層は煙道先端部のみの堆積土である。また16層は周溝内堆積土、17・18層は掘り方埋土で、その大部分は17層が占めている。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、下半部が湾曲しながらもほぼ直立気味に立ち上がる。残存高は25～30cmと深い。

［床面］　基本的に７層を床面としていたものと考えられるが、現況では主として17層を床面としている。床面は平坦で起伏は無く、ほぼ水平である。

［柱穴］　床面上とSI 16掘り方底面、撹乱土中で４個のピット（Ｐ１～４）、掘り方埋土の掘り下げ途中にＰ１～４の南側に各１個の計４個のピット（Ｐ５～８）を確認した。Ｐ１～４は規模、位置からみて住居最終段階の主柱穴で、Ｐ５～８はその前段階の主柱穴と考えられる。柱間寸法は前後者ともが2.８～3.0ｍである。Ｐ１～４の形状は円形で、住居の四隅に配置されており、Ｐ２・３は上半部を削平されており全体に小振りである。床面から残存するＰ１・４は深さ55～60cmと深く、壁面は直立気味でＰ１壁面には一部段差がみられる。堆積土はいずれも２層であるが、明瞭な柱痕跡は認められなかった。

Ｐ５～８は各々の確認状況は異なるが、径は全体にＰ１～４より小さい。壁面は直立し、Ｐ５のみに明瞭な柱痕跡が確認された。抜き取り穴等により掘り方形状が大きく壊されている状況はみられない。Ｐ５～８に関しては床面精査の時点において確認できず、掘り方埋土を除去する際に確認できたことから、柱穴の造り替えの際に同時に床面のかさ上げを行ったとも推定されるが、断面によりこれを裏付けることはできなかった。

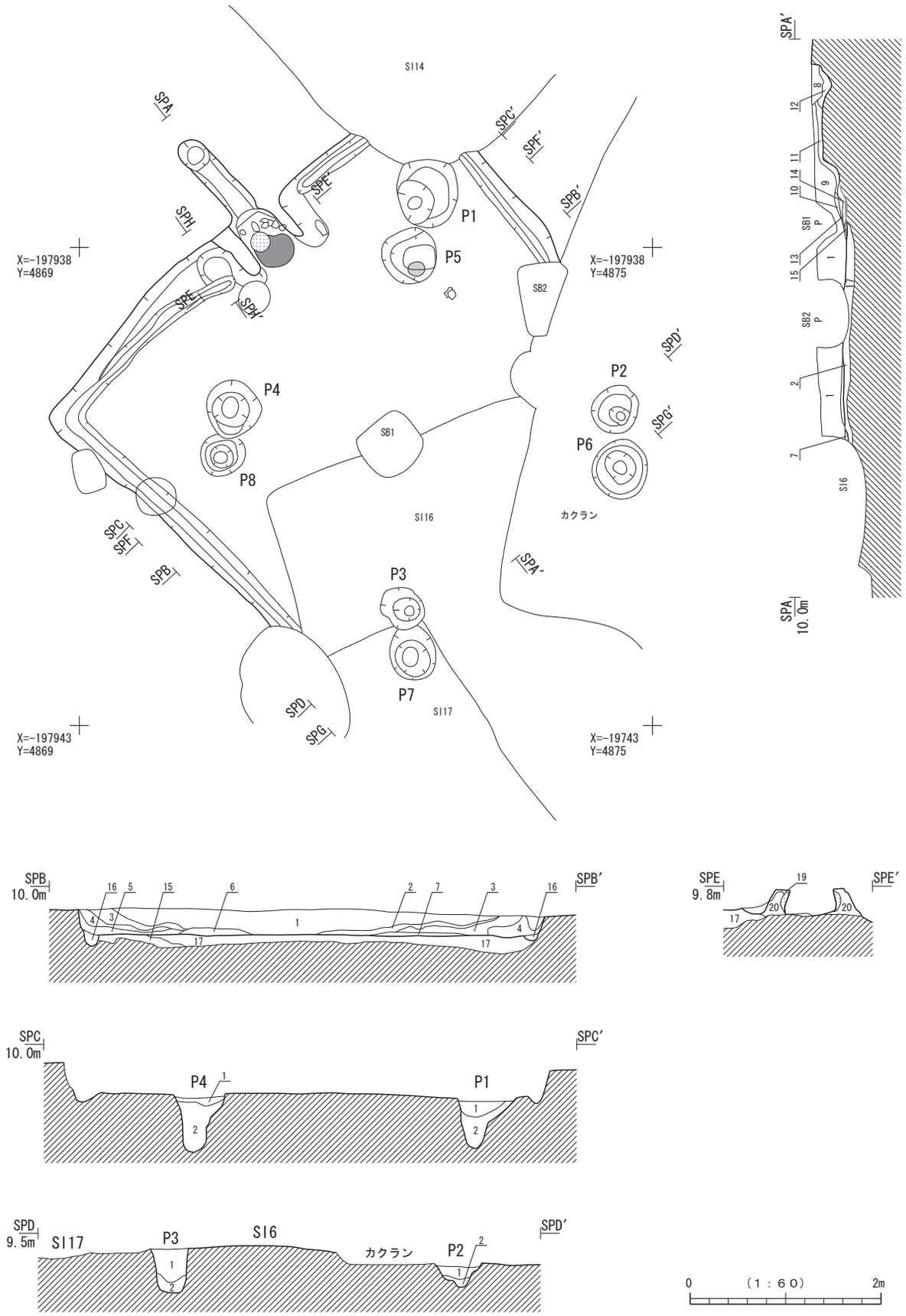
［周溝］　検出した壁面直下に確認した。カマド西側の北壁では周溝が内側に入り込む形状となる。この部分はカマド西側で確認した焼面プランを切ることから、住居周溝の一部では造り替えが行われていることも考えられる。上端幅は西壁側で15～20cm、東壁側で10～15cm、深さも西壁側が深くなっている。断面形は舟底形やＵ字形である。

［カマド・煙道］　北壁ほぼ中央に付設されている。袖部は奥壁側から平行して直線的に延び、袖口に礫などの埋設物はみられない。残存長は両袖とも70cmで、片袖幅は30～35cmと他の住居に比べ大きい。残存高は右側袖で30cmと良好である。またカマド外幅は全体を通し110cmと幅がある。カマド内の高さは17層上面の焼面では住居床面より若干低く、10層上面の焼面では10cm程度高くなっている。袖部構築土は19・20層の２層で、大部分は黄褐色砂質シルトの20層が占め、奥壁と共に両層とも内面の被熱の度合いは著しい。煙道部との境には高さ15cm程の段差がみられる。17層上面のカマド燃焼部には径40cm程の円形の焼面がみられ、その奥側は著しく焼け締まり硬化している。

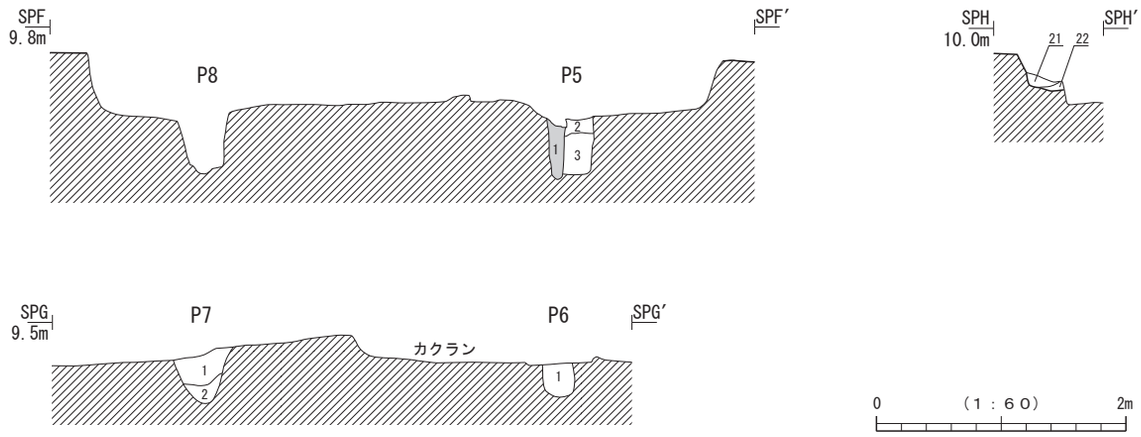
カマド内には支脚はみられず、奥壁際に径10cm以内の偏平な円礫が７個置かれている状況が確認できたが、これらは袖部に埋設されたものとは考え難く、その性格は不明である。また焼面上には14層の灰層や灰と焼土ブロックが混在する13層が載り、これらの量からみてカマドの使用頻度が高かったことが推定される。またカマド本体は掘り方埋土である17層上ではなく、地山面であるⅣ層中に直接構築されており、その下部に土坑状の窪みなどはみられない。

煙道は長さ95cm、幅25～30cmで、奥壁側は深さ10cm程度で水平を保つが、先端部は深さ26cmの浅いピット状の窪みとなっている。壁面はカマド本体に近い部分のみが焼壁面となっており、これ以外の壁面の多くは崩落したものと考えられる。

［その他の施設］　カマド西側の壁面際に焼面を伴う窪みが確認された。当初このプランは前段階のカマドと考えられたが断面観察の結果、焼面上の堆積土がカマド構築土上に載ることから、窪みはカマドと同時存在していた何ら




第104図　SI15竪穴住居跡(1)




第105図　SI15竪穴住居跡(2)

SI15　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 2つのφ5cm内のブロックにより構成 |
| | | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| | 3 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| | 5 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを少量含む |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 7 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | |
| カマド・煙道 | 8 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |
| | 9 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物ブロックを少量含む |
| | 10 | 5YR4/6　赤褐色 | シルト | 層下半はφ1cm程のブロック、上半は焼面となる |
| | 11 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 赤褐色焼土ブロックを多量含む |
| | 12 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物ブロックを微量含む |
| カマド | 13 | 10YR4/2　灰黄褐色 | シルト | 灰まじり　炭化物粒を少量、φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| | 14 | 10YR6/3　にぶい黄橙色 | シルト | 灰　微小焼土ブロックを少量含む |
| | 15 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内の焼土ブロックを多量含む |
| | 16 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 17 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の小ブロックにより構成　一部暗褐色シルト土を含む |
| | 18 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| カマド・ソデ | 19 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 20 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を微量含む　内側は焼面となる |
| カマド左側 | 21 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 22 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |

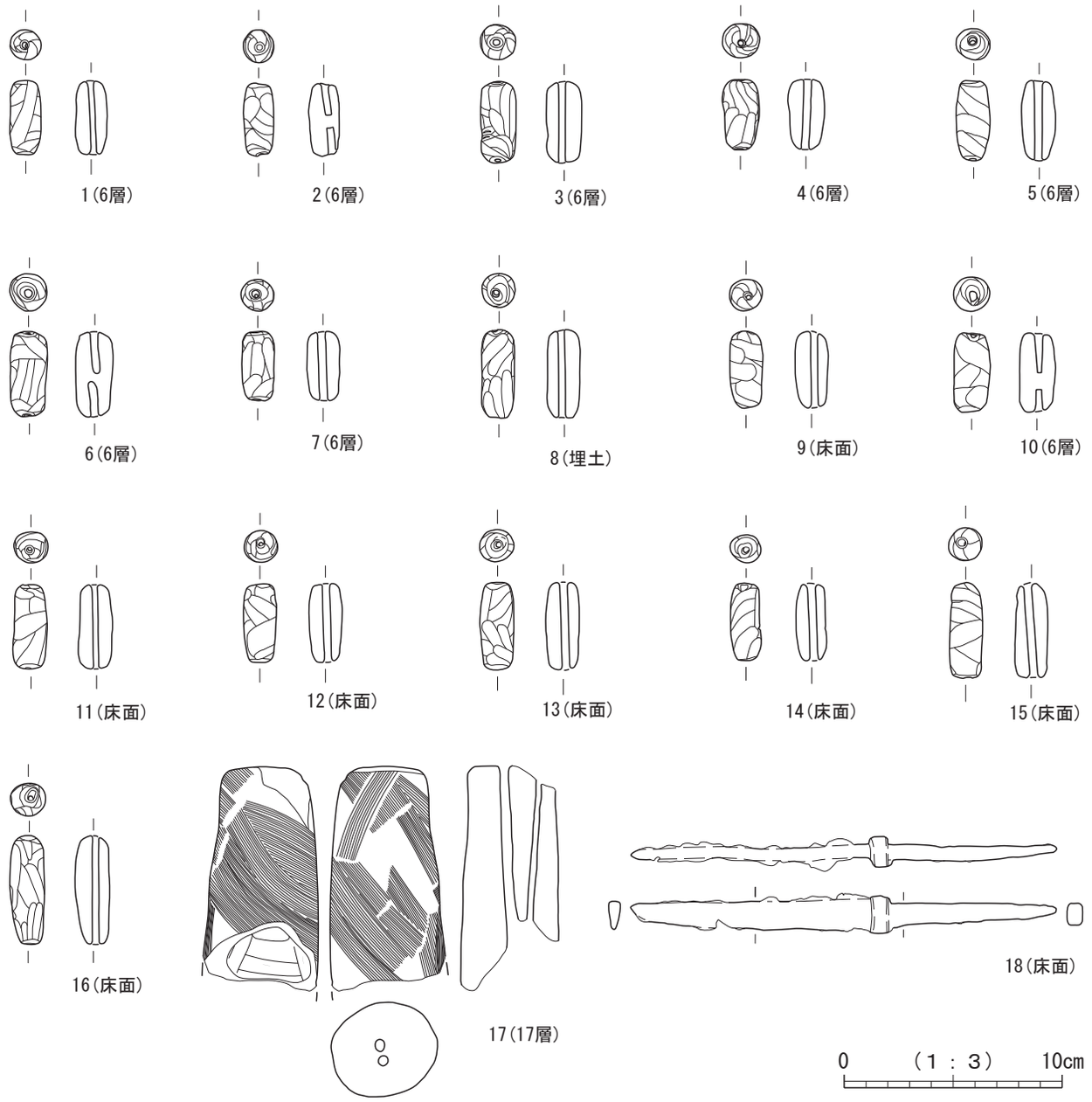
SI15　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを密に含む |
| | 2 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを密に含む |
| P2 | 1 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックやや多い　焼土ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 層下面がにぶい黄橙色でグライ化(柱痕跡) |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを密に含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックを密に含む |
| P4 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 2 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層を多量、暗褐色シルトブロックを少量含む |
| P5 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロック、φ2cm内の暗褐色シルトブロックを多量含む(柱痕跡) |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックをやや多く含む |
| P6 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| P7 | 1 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックを少量含む |
| P8 | 1 | | | |

SI15　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×66 | 42 | |
| P2 | 円形 | 54×42 | 21 | |
| P3 | 円形 | (60)×48 | 48 | |
| P4 | 円形 | 60×54 | 100 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P5 | 円形 | 60×60 | 48 | 柱痕跡あり |
| P6 | 円形 | 60×60 | 30 | |
| P7 | 円形 | (54)×48 | 42 | |
| P8 | 円形 | 48×42 | 42 | |




第106図　SI15竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | P-03 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.4×径1.4×孔径0.3 | 7.8 | ナデ | 57 |
| 2 | P-04 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.35×径1.4孔径0.3 | 7.8 | ナデ、赤彩、孔が貫通していない | 57 |
| 3 | P-05 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.8×径1.6×孔径0.3 | 11.5 | ナデ | 57 |
| 4 | P-06 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.2×径1.7×孔径0.4 | 9.5 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 5 | P-07 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.7×径1.6×孔径0.4 | 9.2 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 6 | P-09 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.9×径1.2×孔径0.4 | 13.3 | ナデ、赤彩、孔が貫通していない | 57 |
| 7 | P-10 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.2×径1.5×孔径0.4 | 8.0 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 8 | P-11 | SI15 | 埋土 | 土製品 | 土錘 | 4.1×径1.5×孔径0.3 | 11.8 | ナデ、全面赤彩 | 57 |
| 9 | P-13 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 4.0×径1.5×孔径0.3 | 8.6 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 10 | P-08 | SI15 | 6層 | 土製品 | 土錘 | 3.7×径1.7×孔径0.4 | 10.8 | ナデ、赤彩、孔が貫通していない | 57 |
| 11 | P-15 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 3.9×径1.6×孔径0.3 | 10.5 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 12 | P-16 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 3.6×径1.6×孔径0.4 | 9.3 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 13 | P-17 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 4.1×径1.6×孔径0.4 | 10.7 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 14 | P-18 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 3.6×径1.4×孔径0.4 | 7.5 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 15 | P-14 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 4.4×径1.5×孔径0.4 | 11.9 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 16 | P-12 | SI15 | 床面 | 土製品 | 土錘 | 5.0×径1.6×孔径0.3 | 13.1 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 17 | P-50 | SI15 | 17層 | 土製品 | 支脚 | (10.3)×径5.2×孔径0.2 | 224.3 | ナデ、ヘラケズリ | 57 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | N-03 | SI15 | 床面 | 鉄製品 | 刀子 | ほぼ完形、最大長15.5、最大幅1.7、厚1.4cm | 57 |

かの燃焼施設と考えられる。窪みは上半部を削平した為、残存状況が悪く、深さ10cm程度となっているが、本来は住居検出面からの深さは30cmもあったことが伺える。壁面の被熱程度はカマド内部などとは異なり弱く、底面は焼けていない。堆積土に特徴はみられず、前面が周溝により失われていることから、全体の形状は明らかでない。またこの窪みに伴う煙道等は確認できなかった。

［掘り方］　基本的に周辺部が幅のある溝状となり、中央部の高まる形状であるが、この高まりは北壁のカマド下部に延び、カマドはこの上部に構築されている。床面からの深さは中央部が10cmで、SI 14のような明瞭な段差をもたず周辺部へと下り、深いところでは20cm程度である。底面に明瞭な工具痕跡などは認められなかった。

［出土遺物］　土錘16点、支脚１点、刀子１点を掲載した。支脚は、外面がナデ整形され、中央に双孔を持つ。

SI16　竪穴住居跡（第107～108図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の南半部で確認した。南西部をSI17に、また東半部を撹乱により失われている。

［重複］　SI15を切り、SI17、SB１、ＳＫ３に切られる。

［規模・形態］　規模は南北3.1m、東西3.3m以上で、形態は掘り方底面状況を考慮すると東西がやや長い方形と考えられる。

［方向］　カマドが付設される壁面を南壁とした場合の住居跡の南北軸はN-20°-Wである。

［堆積土・構築土］　８層を確認した。１・２層は床面上堆積土で、１層がカマド上部のみに堆積するのに対し、大部分を占めるのは２層である。２層中にはⅣ層や小ブロック状に多く混入することから、住居は廃棄時より時を経ずに人為的に埋め戻されている可能性もある。３層は僅かに残存する煙道内堆積土、４層は煙道部先端ピット内の堆積土、５層は周溝内堆積土、６～８層は掘り方埋土で、８層が底面上、７層がほぼ全域、６層が周辺部に限定された堆積状況をみせる。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、各壁面ともほぼ直立する。残存高は20～25cmである。

［床面］　住居中央部は７層、周辺部では６層を床面としている。全体に平坦ではあるが西半部がやや窪み加減で、また南壁側が僅かに高まっている。

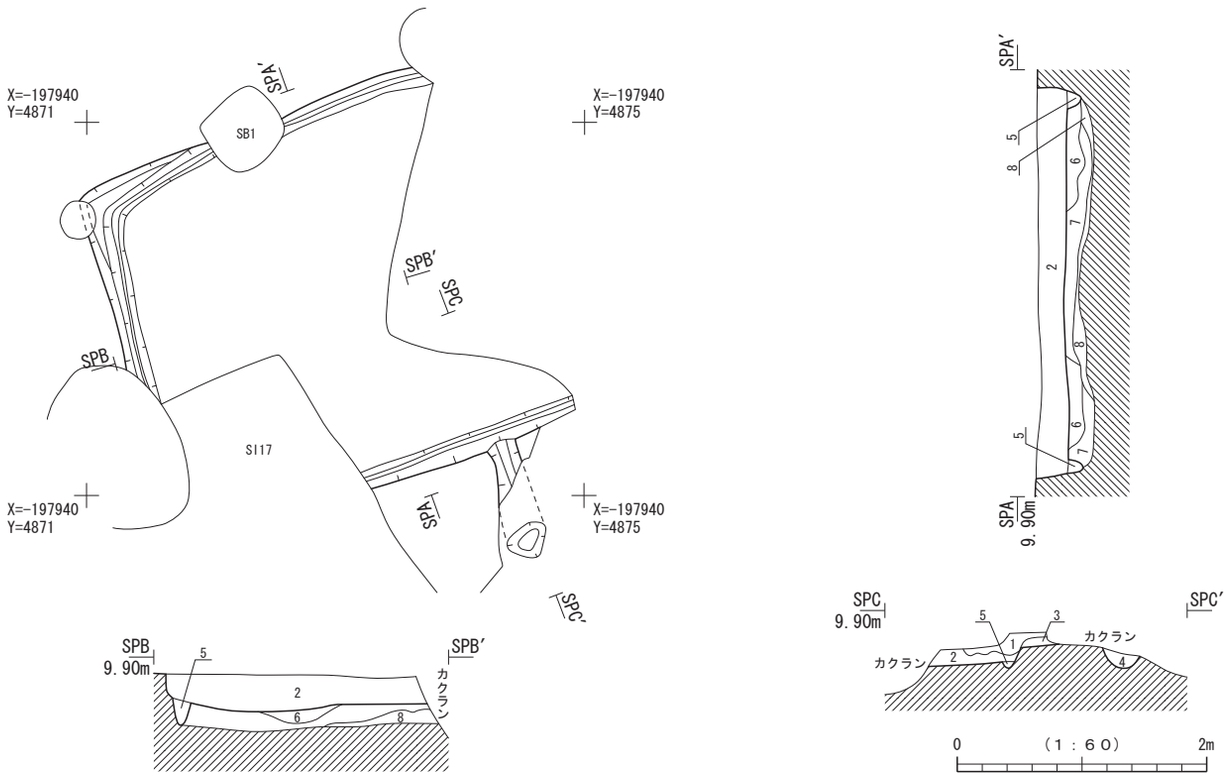
［柱穴］　床面上及び掘り方底面に柱穴やピットは確認できなかった。

［周溝］　北・西・南壁直下に確認した。北西隅部では壁面との間隔が空いている。上端幅は10～15cmと全体に狭く、深さは西壁側で20cm、南壁側では５cmと差がみられる。断面形は底部幅のないU字形である。

［カマド・煙道］　南壁の東寄りの住居外に煙道を確認した。住居内にはカマドが想定できるような施設、堆積土等は一切認められず、南壁を通して周溝が巡っている。煙道部は南端部が撹乱により失われているが、長さ１m、壁際の幅は25cm程度で、先端部はピット状となる。また煙道内に焼面、また堆積土中にも焼土等の混入は認められなかった。煙道部の存在から想定されるカマドは後に壊され、そのまま別な場所に造られなかったか、或いは東壁側に造られた可能性があると同時に、当初からカマド本体が造られなかった可能性も否定できない。

［掘り方］　掘り方底面は住居中央部のみが径90cmとごく狭い範囲で島状になる形状である。高まりは南壁の煙道残存側には延びない。底面からの深さは中央部で10cmであるのが明瞭な段差をもたず、緩やかに傾斜し、周辺部では平均して20cm程度となる。周辺部底面は平坦で起伏が少なく、工具痕跡等は認められなかった。

［出土遺物］　土錘３点を掲載した。




第107図　SI16竪穴住居跡

SI16　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | φ1cm内のⅣ層ブロックを少量、炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを少量、炭化物粒・φ1cm内の黒褐色シルトブロックを微量含む |
| | 3 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | |
| カマド・煙道 | 4 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | 上半部に焼土壁ブロックを少量含む |
| 周溝 | 5 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | Ⅳ層ブロックを微量、炭化物ブロックを少量含む |
| 掘り方 | 6 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒を微量、褐色土ブロックを全体に含む |
| | 7 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 北側に焼土ブロック、黄褐色土ブロックを全体に、黒褐色土ブロックを微量含む |
| | 8 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | にぶい黄褐色土ブロックを含む |

第108図　SI16竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | P-19 | SI16 | 5層 | 土製品 | 土錘 | 3.5×径1.5×孔径0.4 | 9.2 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 2 | P-20 | SI16 | 5層 | 土製品 | 土錘 | 3.5×径1.6×孔径0.4 | 9.5 | ナデ、赤彩 | 57 |
| 3 | P-21 | SI16 | 5層 | 土製品 | 土錘 | 3.3×径1.5×孔径0.3 | 8.5 | ナデ、赤彩 | 57 |

## SI17　竪穴住居跡（第109～111図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の南半部で確認した。北壁の一部がSK３により、また南東隅部が撹乱により失われている。

［重複］　SI15・16を切り、SK３に切られる。

［規模・形態］　規模は北西-南東4.0～4.5m、南西-北東4.7mで、形態は西壁に比べ東壁の長い歪んだ正方形である。

［方向］　カマドが付設される北西壁を北壁とした場合の住居跡の南北軸はN-30°-Wである。

［堆積土・構築土］　カマド・煙道堆積土を除き７層を確認した。１・２層は床面上堆積土で、上層の１層は住居中央

にレンズ状に堆積している。２層下で床面との間には壁際などに別層はみられない。両層ともⅣ層をブロック状に含むことから、この住居は人為的に埋め戻された可能性がある。３・４層は現煙道東側に検出した前段階の煙道内堆積土で、３層中には住居内堆積土同様、Ⅳ層ブロックが多量混入している。５層は周溝内堆積土である。また６・７層は掘り方埋土で、その殆どは６層であるが、カマド前側のみに７層が僅かに盛られているのが確認できた。カマド・煙道内堆積土は８・10・12・13層が煙道と先端部ピットの堆積土で、特に８・12層は天井部の崩落に伴う焼壁が多量混入している。10・11層はほぼカマド燃焼部内に限られみられる層で、特に３層中には多量の焼土ブロックが混入し、いずれの層とも住居廃棄後の煙道部側からの自然流入層と考えられる。

［壁面］　Ⅳ層を壁面としている。全周して残りは良好で、上半部では急な立ち上がりとなるが、直立するほどではない。残存高は30 ～ 40cmを測り、住居跡群の中でも最も残りが良好である。

［床面］　全域で６層を床面としている。僅かな起伏はあるが、水平な平坦面となっている。

［柱穴］　SI 15同様に、床面上に４個のピット（Ｐ１～４）、掘り方埋土の掘り下げ途中にＰ１～３の北側に各１個の計３個のピット（Ｐ５～７）を確認した。

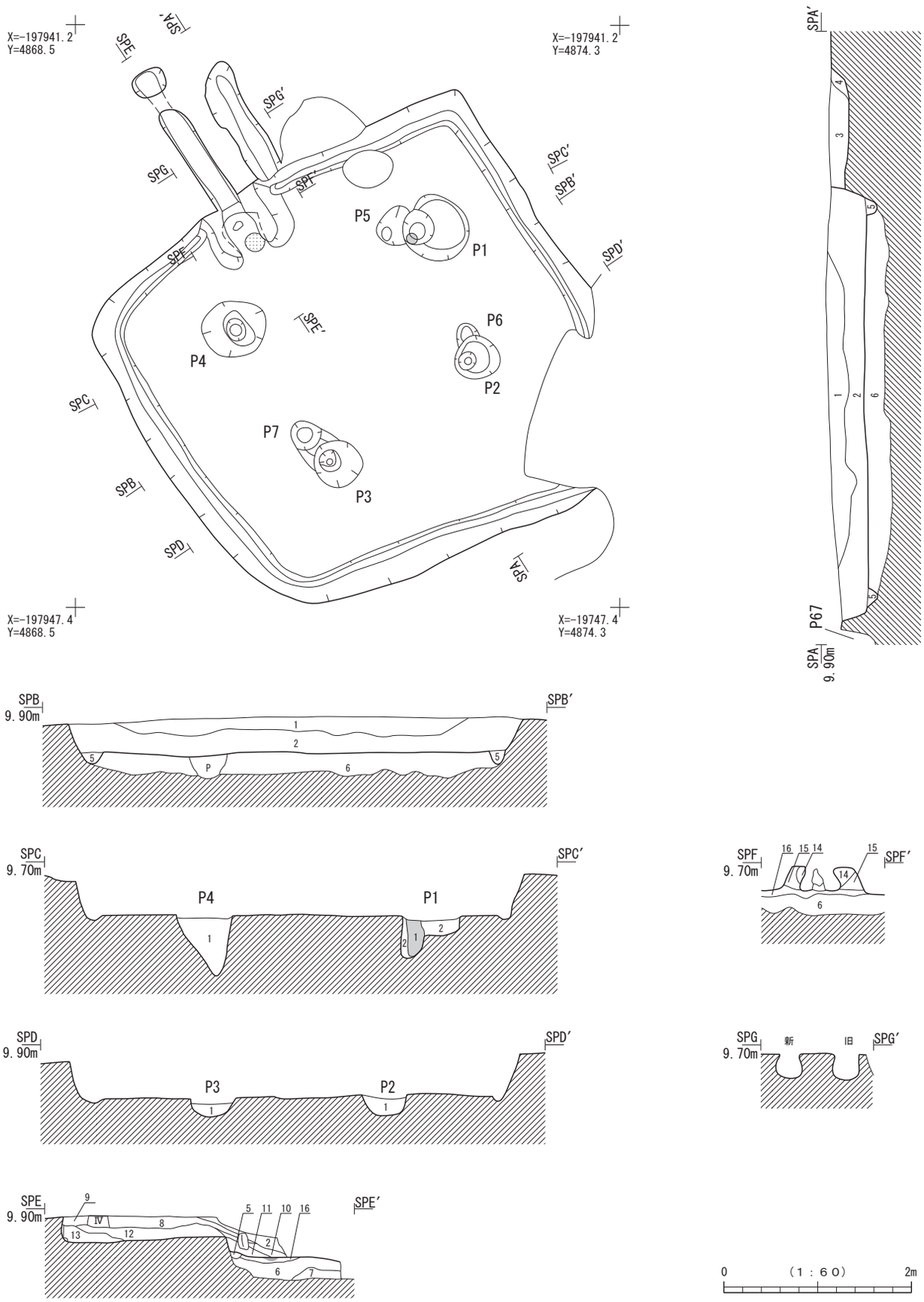
Ｐ１～４は規模、位置からみて住居最終段階の主柱穴で、Ｐ５～７はその前段階の主柱穴と考えられる。柱間寸法は前者が1.4 ～ 2.2m、後者が1.4 ～ 2.0mとばらつきがあり、住居規模に比して全体に狭いものである。またＰ４は径が他より大きいことを考慮すると、本来Ｐ４により失われた前段階の北西側の柱穴が存在していたものと考えられる。Ｐ１～４は全体に壁面から離れ、中央寄りに配置されており、形状はＰ１・４が60 ～ 70cm、深さはＰ１が45cm、Ｐ４が65cmなのに対し、南側のＰ２・３は径45 ～ 50cm、深さは20cm程度の浅いものとなっている。壁面形状は様々で、Ｐ４はＶ字形で底面をもたず、またＰ１は東側がテラス状に中位に平坦面をもつ形状となる。堆積土はみな単層で、Ｐ１のみに明瞭な柱痕跡が確認できた。またＰ１・４の堆積土中にはＰ２・３に比べブロック土の混入量が多い。

Ｐ５・７は検出面が異なることもあってか、径が30cm程度の不整円形のものである。南側に位置するＰ６・７と南壁との距離は1.８～ 2.1mと幅がある。堆積土中に柱痕跡は確認できず、抜き取られた状況を示すものも特にみられない。Ｐ５～７についてはSI 15同様に床面上では確認できず、掘り方埋土を除去する際に検出したことから、柱穴の造り替えの際に同時に多少の床面上の盛土を行った可能性も考えられるが、掘り方埋土断面によりこれを裏付けることはできなかった。

［周溝］　ほぼ全周して壁面直下に確認した。上端幅は20cm前後でほぼ一定しており、深さは床面精査を重ねたことから10 ～ 15cmの浅いものとなったが、本来はより深かったと考えられる。断面形は舟底状である。

［カマド・煙道］　北壁西よりに付設されている。またその東側に前段階のカマドに伴うとみられる煙道部のみが確認された。袖部は奥壁側から多少内湾しながらも直線的に延び、袖口に礫などの埋設物はみられない。残存長は左側袖65cm、右側袖72センチで、袖幅は25cmと38cmと差がみられ、残存高は両壁とも25cmと良好である。カマド外幅は90cmを超え、この幅は奥壁側でも同じである。燃焼部底面は住居床面より僅かに低く、ほぼ同レベルで、これに対し煙道部との間には高さ15cmの段差がみられる。袖部内側は大きく抉られた形状で、全体にオーバーハングしている。また奥壁際にはカマド構築前に掘られた周溝が確認できた。

カマド構築土は14 ～ 16層で、15・16層には焼土・炭化物が混入し、特に15層には焼土ブロックがみられ、壁面の貼り直しが行われたものと考えられる。また16層は袖下部を形成するのみならず、燃焼部底面から外側にかけて厚さ３～ 10cmで貼られている明黄褐色砂質シルト土であり、カマド構築前に入念な基礎地業を行っている。燃焼部手前にはさほど硬化していない径20cmの焼面がみられ、この焼面と奥壁との間には底面より25cmの高さで先細りの円礫による支脚が立てられていた。支脚は全面が著しく被熱していたが、燃焼部内壁の被熱程度は弱い。焼面上に灰層などはみられなかった。




第109図　SI17竪穴住居跡

SI17　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む |
| カマド・煙道(旧) | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量、炭化物を少量、焼土ブロックをやや多く含む |
| | 4 | 10YR5/6　黄褐色 | シルト | Ⅳ層の崩落土 |
| 周溝 | 5 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | 暗褐色シルトブロックを少量含む |
| 掘り方 | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを密に、炭化物ブロックを少量、黒褐色シルトブロックを一部に含む |
| | 7 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | |
| カマド・煙道 | 8 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを少量含む(天井崩落土) |
| | 9 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ5cm内の焼土ブロックを下半層に密に含む |
| | 10 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内の焼土ブロックを多量含む |
| | 11 | 10YR2/1　黒色 | 砂質シルト | 炭化物ブロック・φ2cm内の焼土ブロックを少量含む |
| | 12 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼けた天井及び壁面ブロックを多量含む |
| | 13 | 10YR1.7/1　黒色 | シルト | Ⅳ層ブロック・炭化物ブロックを少量含む |
| カマド・ソデ | 14 | 7.5YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の赤褐色焼土ブロックを少量含む |
| | 15 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を微量含む |
| | 16 | 10YR6/6　明黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む |

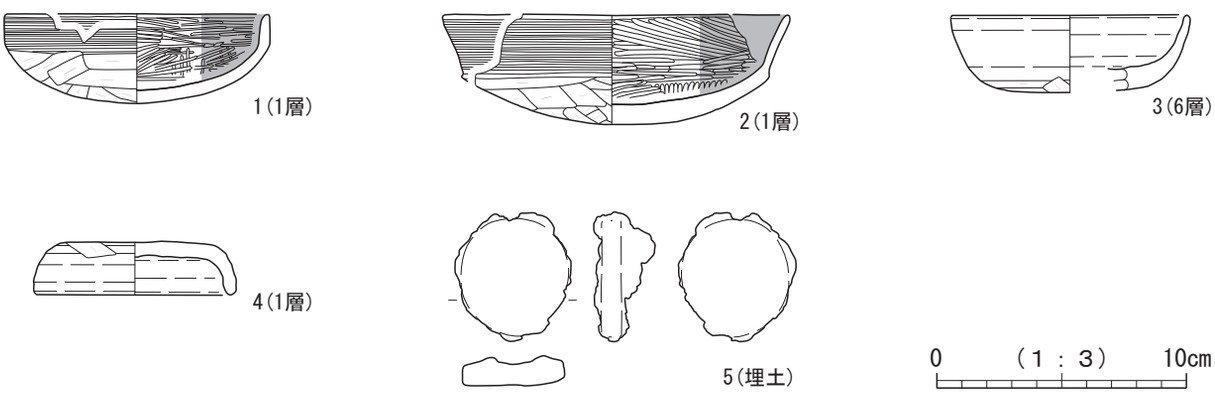
SI17　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅴ層ブロックを少量、炭化物ブロックを微量含む(柱痕跡) |
| | 2 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 大きめのⅤ層ブロックを多量含む |
| P2 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅴ層ブロックを少量、炭化物ブロックを微量含む |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅴ層ブロックを少量、炭化物ブロックを微量含む |
| P4 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ5cm内のⅤ層ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |

SI17　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×72 | 42 | 柱痕跡あり |
| P2 | 円形 | 48×42 | 18 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 円形 | 42×42 | 12 | |
| P4 | 円形 | 66×60 | 60 | |




第110図　SI17竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-044 | SI17 | 1層 | 土師器 | 坏 | 10.5×-×3.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 57 |
| 2 | C-045 | SI17 | 1層 | 土師器 | 坏 | (13.8)×-×4.4 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 57 |
| 3 | E-002 | SI17 | 6層 | 須恵器 | 坏 | (9.4)×-×(3.1) | ﾛｸﾛ調整、体部下端～底部手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 57 |
| 4 | E-003 | SI17 | 1層 | 須恵器 | 蓋 | (7.9)×-×2.1 | ﾛｸﾛ調整、天井部ｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | 内外面自然釉 | 57 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | N-04 | SI17 | 埋土 | 鉄製品 | 不明 | 径4.5、厚0.8cm | 57 |

第111図　SI17竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-018 | SI17 | 埋土 | 2B | 石製品 | 石製模造品 | ⅡB2 | 2.4×2.6×0.4 | 3.46 | 緑泥片岩 | 完形品、長円形、双孔、穿孔径0.2cm、孔間隔1.2cm | 57 |

煙道部は長さ160cmと長く、幅は一定して25cm前後で直線的に延びるものである。煙道部は奥側手前で20cm程度の天井が残存しており、この残存部より奥が煙突部分とみられる。天井部の厚さは12cm程度で、断面観察の結果、この土層がⅣ層或いは構築土であるかの判断はできなかった。煙道底部は先端部に向かい僅かに下っているが、ほぼ水平で、先端はピット状とはならない。

前段階の煙道は長さ135cmで天井は残存せず、幅は35cmとやや広めであるが、燃焼部底面の断面形状は新しいものと類似している。両煙道とも壁面が弱く熱を受けている状況が認められた。しかしながらこの煙道の住居内側にかつてのカマドの残痕などは全く認められなかった。

［掘り方］　掘り方底面は住居中央部が220×130cmで楕円形状の島状になっており、周辺部は僅かに低く、溝状とはならない。底面からの深さは中央部で20cm、周辺部でも25cm程度で、全体に起伏があり、ほぼ全域にわたり半月状の工具痕跡が明瞭に確認できた。

［出土遺物］　土師器坏２点、須恵器坏１点、蓋１点、円盤状鉄製品、石製模造品１点を掲載した。１は、関東系土師器である。６は、円形、双孔で鏡を模倣したと考えられる。

### SI18　竪穴住居跡（第112～113図）

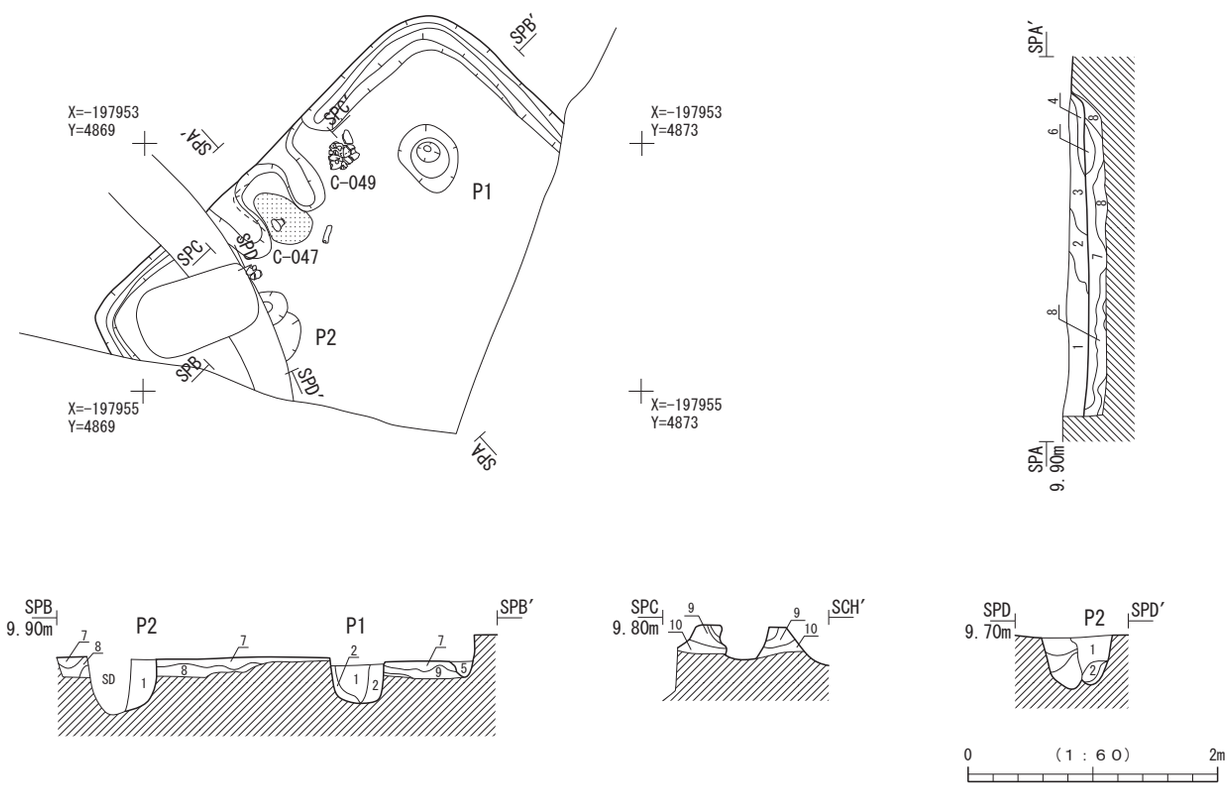
［位置・確認面］　２Ｂ区の南壁際で確認した。東半部は撹乱により失われ、また南半部は調査区外となっている。

［重複］　SI24を切り、SD15に切られる。

［規模・形態］　規模は南西-北東3.9m、北西-南東は不明で、形態は方形である。

［方向］　北西壁を基準とした主軸方位はN-43°-Wである。

［堆積土・構築土］　８層を確認した。１～４層は床面上堆積土で住居中央に堆積する１層中にはⅣ層をブロック状に多量含んでいる。４層は焼土ブロックを多量含むカマド内堆積土である。２～４層はいずれも北西側からの流入




第112図　SI18竪穴住居跡

SI18　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより形成　暗褐色土ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック・焼土粒を少量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内の焼土壁ブロックを多量含む |
| 周溝 | 5 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロック・焼土ブロックを少量含む |
| 掘り方 | 6 | 7.5YR3/4　暗褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを含む |
| | 7 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを含む |
| | 8 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 褐色土ブロックを含む |
| カマド・ソデ | 9 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 内面被熱　焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |
| | 10 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 黒褐色土ブロックを含む |

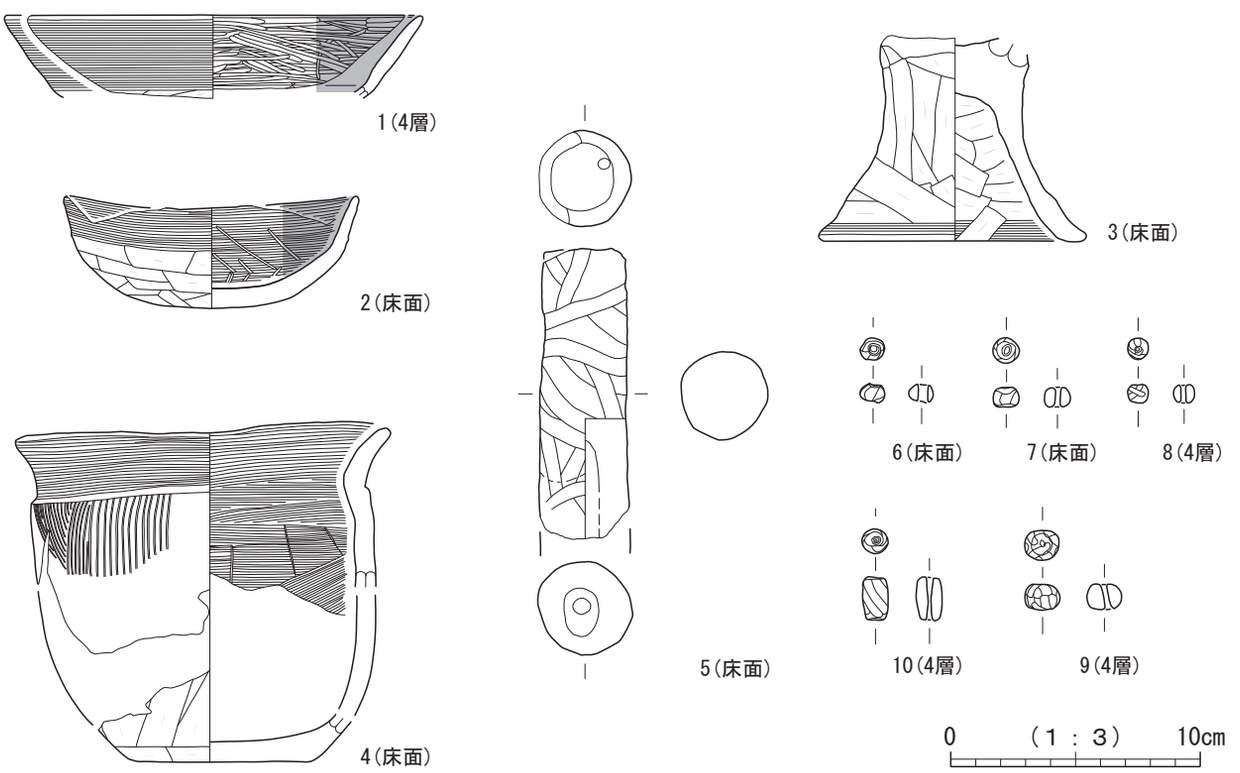
SI18　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより形成、炭化物ブロック・焼土ブロックを壁際に少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | φ2cm内のⅤ層ブロックを多く含む |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 黒褐色シルトブロックを含む |
| P3 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物を多量、焼土ブロックを少量含む |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質土 | |

SI18　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 54×42 | 30 | |
| P2 | 円形 | 60×(18) | 45 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 円形 | | | |




第113図　SI18竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-046 | SI18 | 4層 | 土師器 | 坏 | (16.6)×-×(3.3) | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 57 |
| 2 | C-050 | SI18 | 床面 | 土師器 | 坏 | (11.6)×-×4.5 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 57 |
| 3 | C-047 | SI18 | 床面 | 土師器 | 高坏 | -×10.5×(8.1) | 脚柱状部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、脚裾部ﾖｺﾅﾃﾞ | 脚柱状部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、脚裾部ﾖｺﾅﾃﾞ | | 57 |
| 4 | C-049 | SI18 | 床面 | 土師器 | 甕 | 14.5×7.3×13.6 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、胴部下半～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 57 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | P-27 | SI18 | 床面 | 土製品 | 支脚 | (11.6)×径3.6 | 174.9 | ナデ、指頭圧痕、被熱痕強い、 | 57 |
| 6 | P-23 | SI18 | 床面 | 土製品 | 丸玉 | 0.8×径1.0×孔径0.4 | 0.6 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、赤彩 | 57 |
| 7 | P-22 | SI18 | 床面 | 土製品 | 丸玉 | 0.8×径1.1×孔径0.2 | 0.9 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、赤彩 | 57 |
| 8 | P-25 | SI18 | 4層 | 土製品 | 丸玉 | 0.8×径0.9×孔径0.2 | 0.6 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、赤彩 | 57 |
| 9 | P-26 | SI18 | 4層 | 土製品 | 丸玉 | 1.1×径1.4×孔径0.2 | 1.9 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、赤彩 | 57 |
| 10 | P-24 | SI18 | 4層 | 土製品 | 土錘 | 1.8×径1.0×孔径0.3 | 2.0 | ナデ、赤彩 | 57 |

土と考えられ、１層の状況からこの住居は埋没途中に人為的に埋め戻された可能性もある。５層は周溝内堆積土、６～８層は掘り方埋土であるが、６層はカマド下部のみの部分堆積で、７・８層は層厚が同様の水平堆積状況を示している。

［壁面］　Ⅳ層を壁面としている。北壁及び東西壁の一部の残存であるが、残存良好な北東壁側では壁面は直立し、20cm程の残存高である。但し調査区南壁面では住居跡壁面は部分的に30cm以上残存している状況が伺える。

［床面］　７層を床面としており平坦で水平である。

［柱穴］　北東隅に１個（Ｐ１）、北西隅に２個のピット状プラン（Ｐ２）を確認した。これらは位置的なことから北壁側の主柱穴と考えられる。柱間寸法は1.8m程である。Ｐ１は径が50×40cmの楕円形状で、深さ35cmで壁面は直立気味で、底面に平坦面がみられる。堆積土は２層で、柱痕跡はみられなかった。Ｐ２は南北に重複する２つのプランで、西側をSD 15により失われており、大きさは不明であるが、深さは北側が40cm、南側がやや浅めである。これらは柱穴の造り替えによるものとも考えられるが、Ｐ１の堆積土状況も考慮するとＰ１と共に新しいプランは柱の抜き取り穴の可能性もある。

［周溝］　確認した壁面直下にみられたが、カマド右側袖部手前で途切れている。上端幅は東・北壁側で20cm、深さ15cm程度、断面形はＵ字形で、内壁側上半部が緩い傾斜面となっている。

［カマド・煙道］　北壁中央に付設されている。袖部はやや内湾気味に開き、残存長は両袖とも60cm、残存高は20～25cm、袖幅は25～30cmである。両袖口に礫などの埋設物はみられない。またカマド外幅は95cm、焚口幅は35cm程で、燃焼部底面と住居床面とのレベル差は殆ど無く、カマド奥壁の高は10cmである。袖部内側は全体に抉られた形状で、オーバーハングしており、手前部分が全体にわたり被熱している。また燃焼部底面には50×30cmの楕円形状の硬化した焼面がみられるが、支脚の埋設は無かった。カマド構築土は上部が９層、下部が10層である。10層中には両袖とも焼土ブロクを多少含む層が挟まれており、このことから内壁部分は貼り直されているものとみられる。カマド下部には掘り方埋土である６層がみられ、この層はカマド構築時の基礎地業と考えられる。住居跡外側に煙道部は確認できなかった。

［掘り方］　他の住居跡は掘り方底面の形状が周辺部で浅い溝状となるのに対し、この住居跡についてはカマド下部とその周辺部のみが高まる形状となっている。これらのレベル差は僅かで、底面からの深さはカマド前面で10cm以内、低位部では深くとも15cm程で、これらの境は不明瞭である。底面に工具痕跡は確認できなかった。

［出土遺物］　土師器坏２点、高坏１点、小型の甕１点、支脚１点、丸玉４点、土錘１点を掲載した。

### SI19　竪穴住居跡（第114～115図）

［位置・確認面］　２Ｂ区南半部西壁際で確認した。西側の大部分は調査区外となっている。

［規模・形態］　規模は南北3.1m、東西は不明で、形態は方形とみられる小型の住居跡である。

［方向］住居跡の南北軸はＮ-９°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　２層を確認した。１層は床面上堆積土、２層は掘り方埋土で、１層中にはⅣ層ブロックを多量含むことから、この住居跡は人為的に埋め戻された可能性がある。また２層は褐色の砂質シルト土で、混入物が殆ど含まないⅣ層に極めて類似する層である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、立ち上がりは急で、残存高は20～25cmである。

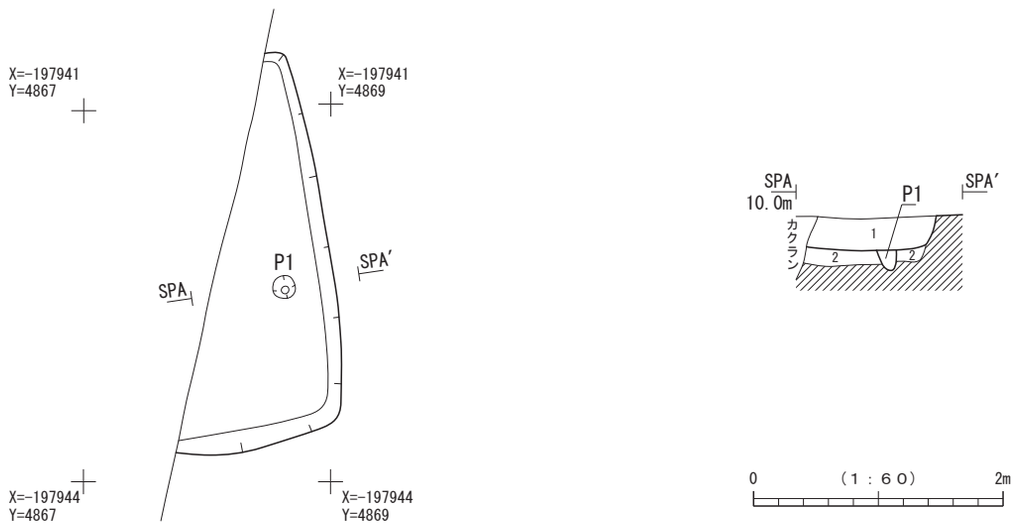
［床面］　２層を床面としている。狭い範囲での検出であるが平坦で水平である。

［柱穴］　床面上で１個のピットを確認した。Ｐ１は径18cmの円形で深さは15cmあり、断面形はＶ字形の小さく、位置的なことからもこれを主柱穴とみることはできない。内壁面に白色土の付着があり木根痕の可能性もある。

［掘り方］　調査部分での掘り方底面はほぼ平坦で水平で、住居跡中央が島状に高まる可能性がある。底面からの深

さは平均して20cm程である。底面に工具痕跡等は確認できなかった。

［出土遺物］　土師器坏１点を掲載した。１は、関東系土師器である。器形は丸底から外傾し、直立する口唇部にいたる。口縁と体部の境目に稜を持つ。




第114図　SI19竪穴住居跡

SI19　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | φ5cm内のⅣ層ブロックを多量、焼土粒を少量含む |
| 掘り方 | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 黒褐色砂質シルトを少量含む |

SI19　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | 白色土が壁際に集積 |

SI19　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 18×18 | 15 | |

第115図　SI19竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-051 | SI19 | 1層 | 土師器 | 坏 | (16.4)×-×(3.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部磨耗 | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 57 |

## SI20　竪穴住居跡（第116図）

［位置・確認面］　２Ｂ区南端部西壁際で確認した。西側の大部分は調査区外となっている。

［重複］　SD15を切り、方形の柱穴とみられるP74・92に切られる。

［規模・形態］　方形の住居跡とみられるが、規模は不明である。

［方向］　直線的である南壁を基にした住居跡の南北軸はN-20°-Wである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１・２層は床面上堆積土で、１層が大部分を占め、２層は西壁側の部分的な堆積である。１層中にはⅣ層がブロック状に多量含まれることから、人為的に埋め戻された可能性がある。

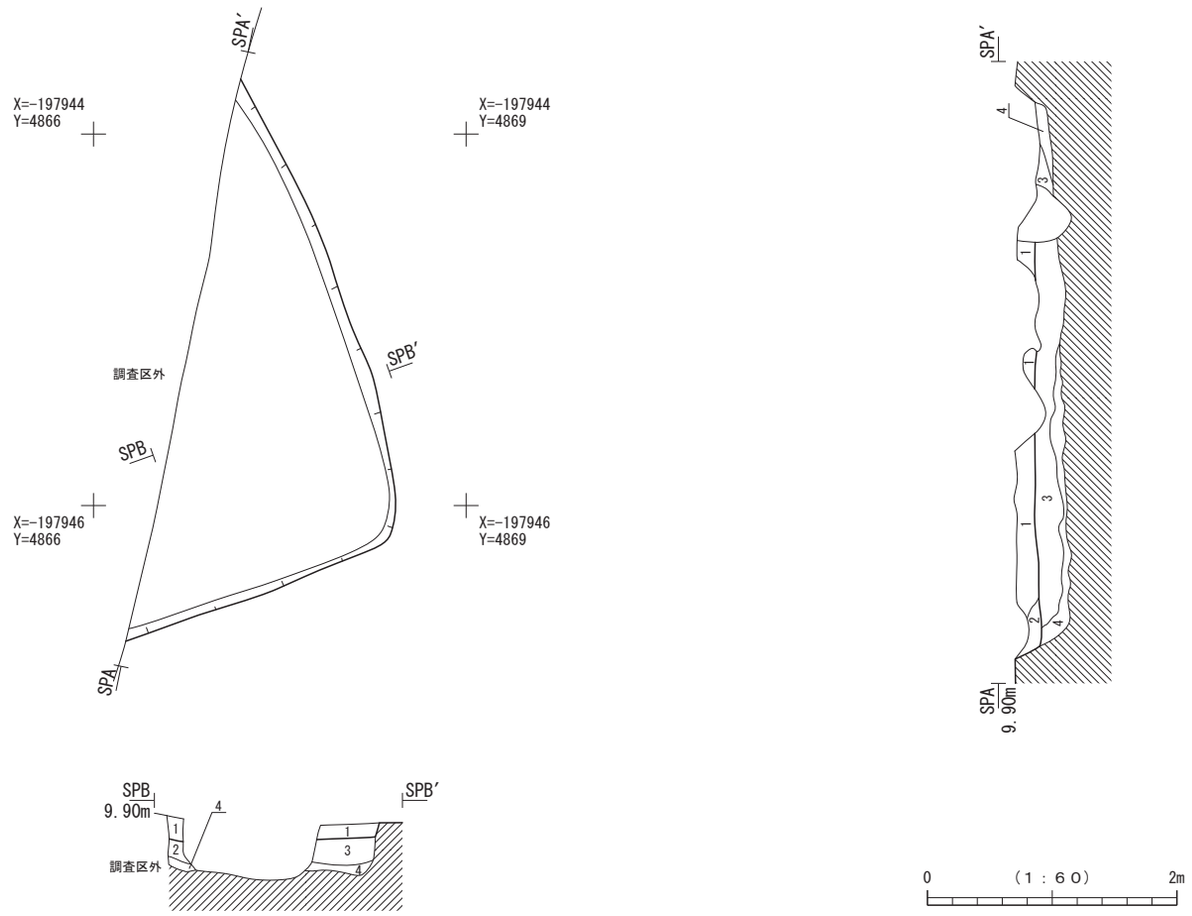
［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、壁面の立ち上がりは部分的に急な箇所と緩やかな箇所がある。残存高は10～15cmである。

［床面］　大部分で３層が床面となっている。底面は中央部がやや高まり、周辺部は低い傾向がみられる。

［柱穴］　確認できなかった。P92により失われた可能性がある。

［掘り方］　調査部分での掘り方底面は北側が高く、南側が低い。床面からの深さは北側が20cm、南側が25cmで、下面の起伏が著しく、工具痕跡らしきものが確認できたが不明瞭であった。

［出土遺物］　堆積土、床面から出土したが掲載した遺物はない。




第116図　SI20竪穴住居跡

SI20　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ2cm内のⅣ層ブロックを多量含む |
| 掘り方 | 2 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 南壁際のみの部分堆積 |
| | 3 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 上半に褐色シルトブロックをやや多く含む |
| | 4 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 黄褐色砂質シルトブロックを少量含む |

## SI21　竪穴住居跡（第117図）

［位置・確認面］　２Ｂ区中央部東側で確認した。大部分は撹乱により失われている。

［重複］　SI13を切る。

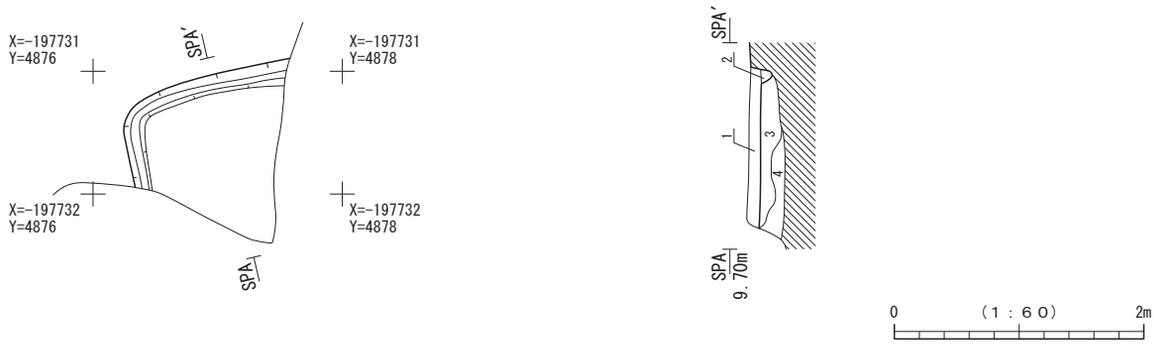
［規模・形態］　北西隅部のみの検出の為全体は明らかでないが、方形の住居跡とみられ、規模は不明である。

［方向］　確認長の長い北壁を基にした住居跡の南北軸はN-12°-Wである。

［堆積土・構築土］　４層を確認した。１層は床面上堆積土、２層は周溝内堆積土、３・４層は掘り方埋土で、１層中には径３cm内のⅣ層をブロック状に多量含んでいるが、これが人為的に埋められたものかは不明である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、残状況が悪いことから立ち上がりは不明瞭であるがほぼ直立する壁面とみられる。残存高は10cm程度である。

［床面］　確認部分では３層を床面としており平坦である。住居中央部では４層が床面となっているものとみられる。




第117図　SI21竪穴住居跡

SI21　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ3cm内のⅣ層ブロックをやや多く含む |
| 周溝 | 2 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを多量含む |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層によるブロック層 |

［柱穴］　撹乱の為、確認できなかった。

［周溝］　壁面直下に確認した。上端幅が10～15cmと狭いもので、深さは10cm程度、断面形はU字形である。

［カマド・煙道］　確認できなかったが、北壁中央に付設されていた可能性が高く、撹乱の為失われたものとみられる。

［その他の施設］　残存部分が少ない為か確認できなかった。

［掘り方］　調査部分での掘り方底面は特に起伏は認められず、床面からの深さは15～20cmである。工具痕跡らしきものは確認できなかった。

［出土遺物］　掲載した遺物はない。

SI22　竪穴住居跡（第118～120図）

［位置・確認面］　２Ｂ区の中央部北側で確認した。東及び南壁側が撹乱により失われている。

［重複］　SD６・９・10を切る。

［規模・形態］　住居の北・西壁のみの残存の為、全体は明らかでないが、主柱穴の位置から推定して、東西・南北とも6.5ｍ程度の正方形の住居跡と考えられる。他の住居跡に比べ壁面は直線的に延び、隅部は直角であまり丸みをもたない。

［方向］　住居跡の南北軸はＮ-20°-Ｗである。

［堆積土・構築土］　８層を確認した。１・２層は床面上堆積土で層中に焼土・黒褐色土ブロックを含んでおり、他の住居跡に比べ色調が明るいのが特徴的である。３・４層は周溝内堆積土でその中でも３層は部分的堆積である。５層は貼床層とみられる硬く締まった層で、住居のほぼ全域に認められ、色調は黄橙色で、層厚は２～３cmと薄く、堆積土・掘り方埋土とは明瞭に区別できる層である。６～８層は掘り方埋土で、大部分は７・８層が占め、中でも住居中央に７層、周辺に８層が限定的にみられる。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、北壁側がほぼ直立気味なのに対し、西壁側はやや緩やかである。残存高は25cm程度であるが、これはプラン確認の為掘り下げを重ねた結果のことで、本来は30cm以上残存していたものとみられる。

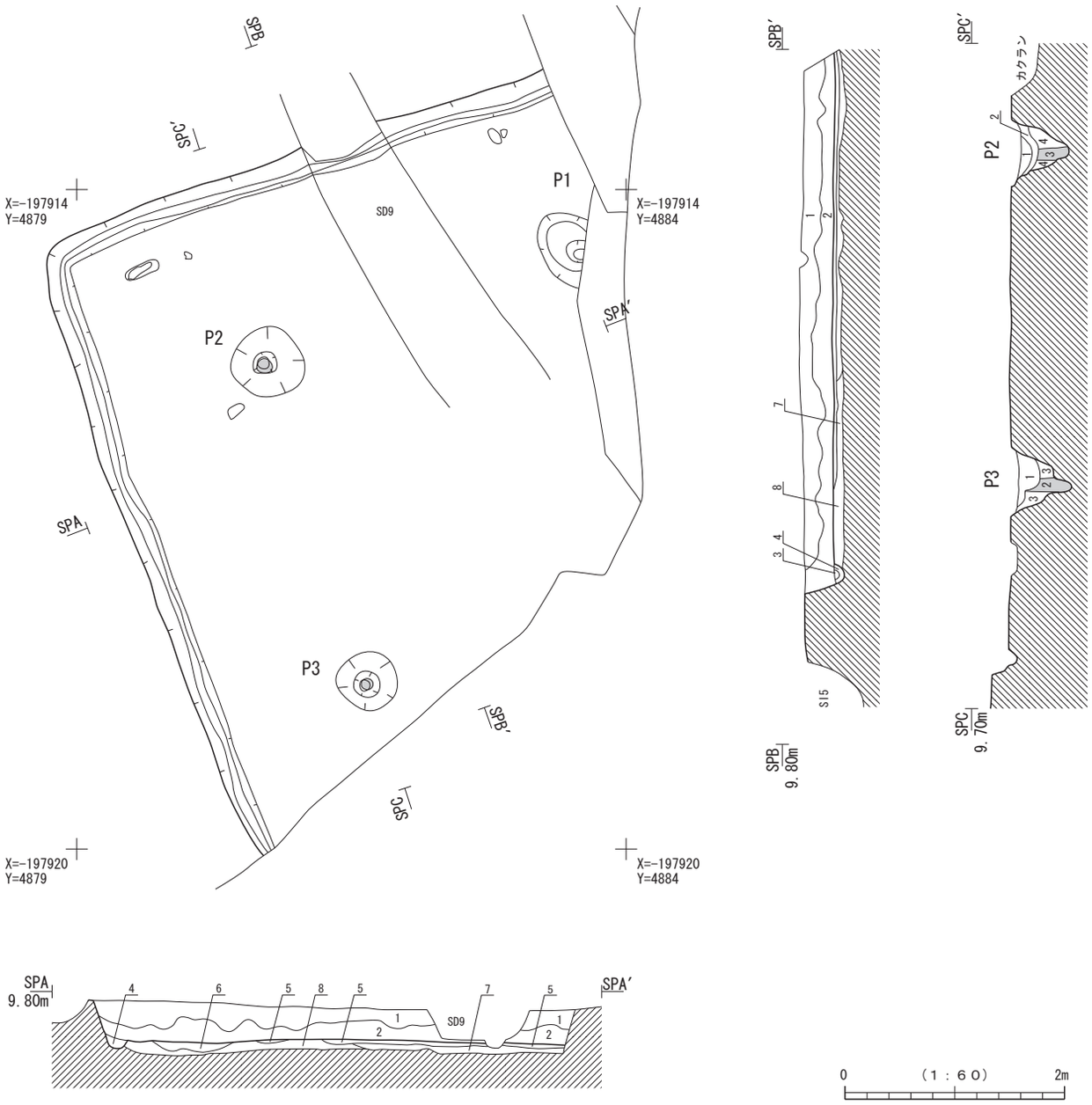
［床面］　５層は貼床層と考えられ、５層下には７・８層が敷かれている。床面は西壁側が僅かに低くなっているが、全体に平坦・水平である。

［柱穴］　３個のピットを確認した。これらＰ１～３は規模・位置からみて主柱穴と考えられる。柱間寸法は3.0ｍで揃っている。形状はいずれの円形で、Ｐ２は径55cm、深さ50cm、Ｐ３は径65cm、深さ55cmで、両ピットと

も柱痕跡が確認され、柱痕跡底面が一部窪んでいる。また柱痕跡は柱穴上半部には確認できず、そこには柱穴の掘り方埋土以外の堆積土が流入することからみて、住居廃棄時には柱は抜き取られ、その基部のみが残存している可能性がある。

［周溝］　確認した北・西壁直下に確認した。上端幅は15～20cmで一定しており、深さは10cmと浅く、断面形は舟底状を呈する。

［カマド・煙道］　確認できなかった。住居構造、堆積土、出土遺物など、この住居跡は他の住居跡と多くの相違点




第118図　SI22竪穴住居跡

SI22　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土ブロック・黒褐色土ブロックを含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | シルト | 焼土ブロック、黒褐色土ブロックをまばらに含む |
| 周溝 | 3 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物粒を含む |
| 掘り方 | 5 | 10YR6/4　にぶい黄橙色 | 砂質シルト | 酸化鉄斑を多量含む |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| | 7 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | 層下面起伏著しい |
| | 8 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | にぶい黄褐色ブロックを少量含む |

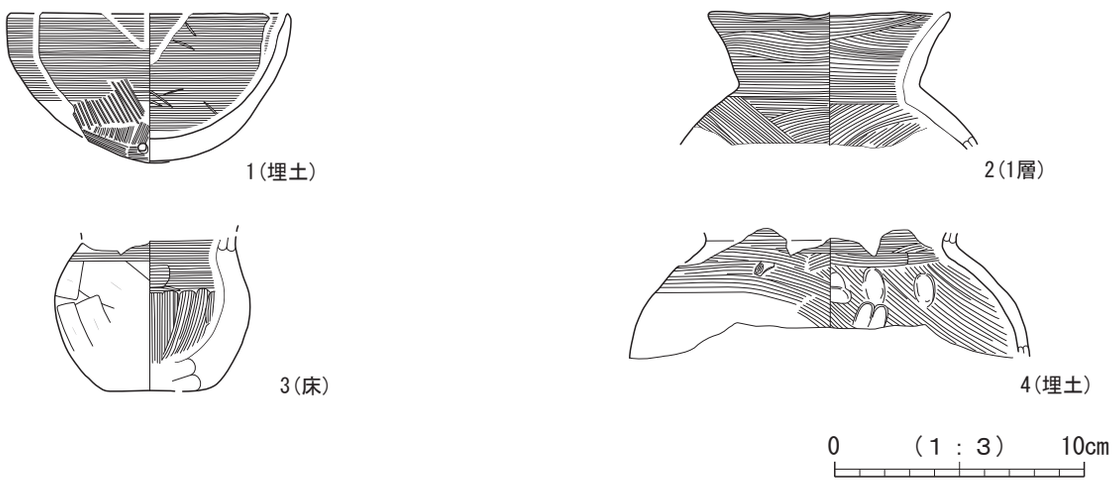
SI22　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P2 | 1 | 10YR4/6　褐色 | | |
| | 2 | 10YR6/4　にぶい黄橙色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを密に含む |
| | 3 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | | (柱痕跡) |
| | 4 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | | Ⅳ層ブロックを少量含む |
| P3 | 1 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックを少量含む(柱痕跡) |
| | 3 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | |

SI22　施設観察表

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P2 | 円形 | 66×66 | 42 | |

| 遺構名 | 平面形 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 円形 | 54×54 | 48 | |




第119図　SI22竪穴住居跡出土遺物(1)

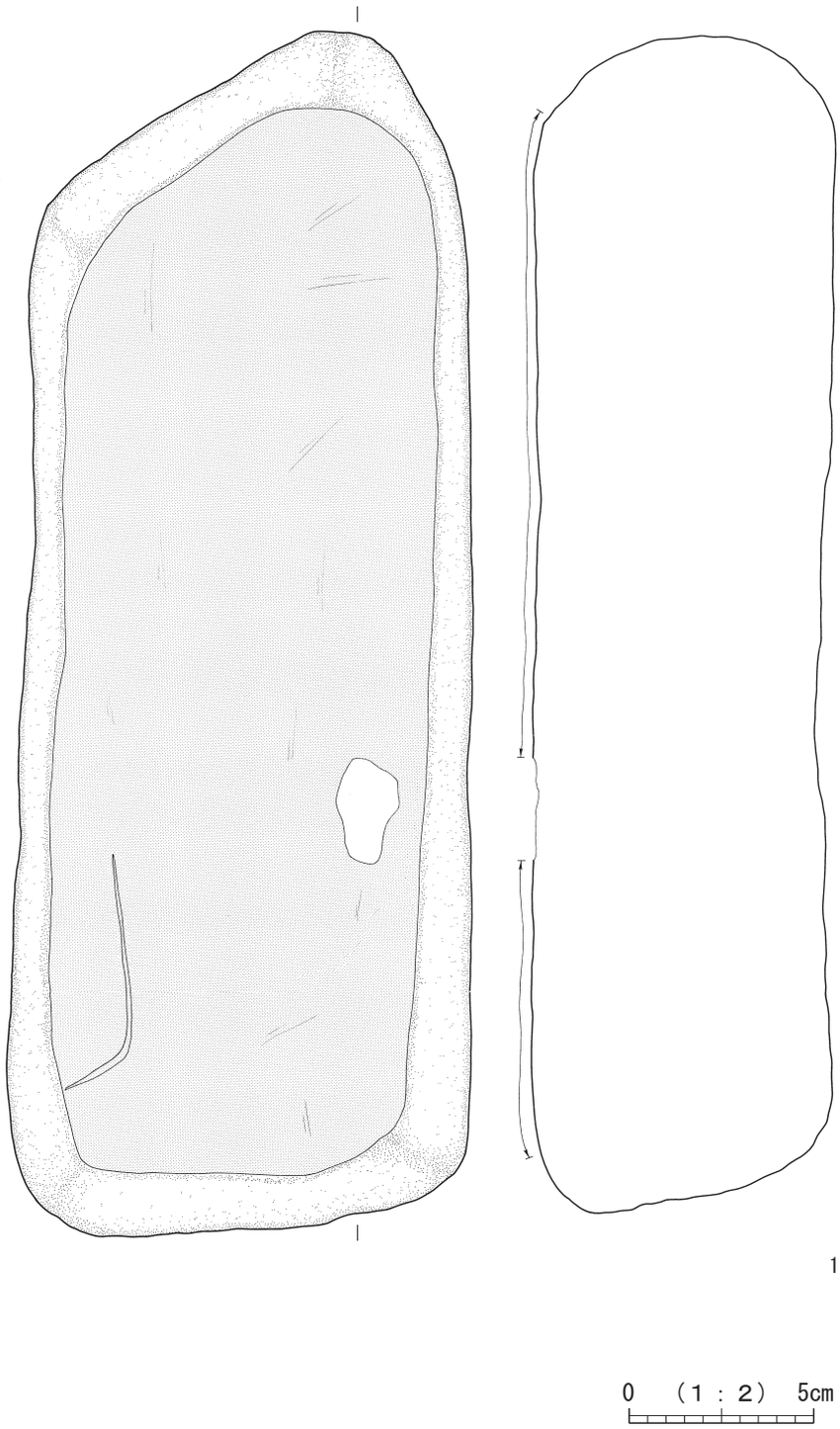
| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-054 | SI22 | 埋土 | 土師器 | 埦 | (13.2)×-×6.0 | 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、体部～底部ハケメ | 口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ | | 57 |
| 2 | C-053 | SI22 | 1層 | 土師器 | 壺 | (9.6)×-×(5.5) | 口縁部ヨコナデ、胴部ナデ | 口縁部～胴部ナデ | | 57 |
| 3 | C-052 | SI22 | 床 | 土師器 | 壺 | -×(4.0)×(6.0) | 頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ | 頸部～胴部ヘラナデ | | 57 |
| 4 | C-055 | SI22 | 埋土 | 土師器 | 甕 | -×-×(5.8) | 胴部ナデ | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、指頭圧痕 | 胴部外面に炭化した籾遺存、壺の可能性 | 57 |

が認められ、時期が異なると考えられることから、本来、住居にカマドは存在しなかったものとみられる。

［その他の施設］　床面に土坑等の付属施設はみられなかった。

［掘り方］　掘り方底面形状は床面同様にほぼ平坦で、西・南壁側が僅かに低い傾向があるが、中央が高まる形状とはならない。床面からの深さは５～12cmと全体に浅い。

［出土遺物］　土師器埦１点、壺２点、甕もしくは壺１点、砥石１点を掲載した。１は、丸底の見込みの深い埦である。底部外面にハケメ整形を施す。２・３は小型の壺である。３は特にていねいな整形が施されている。



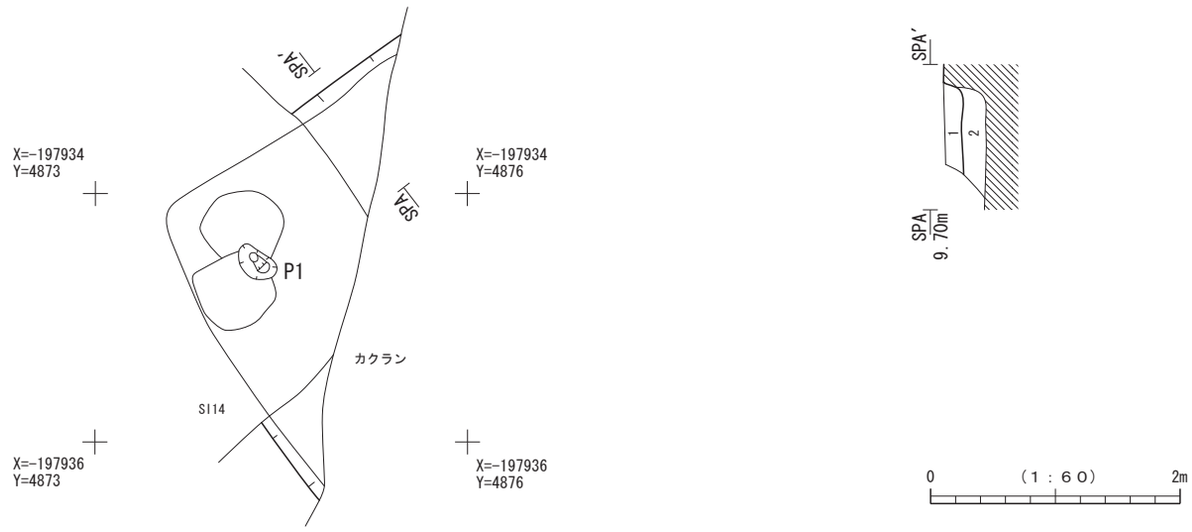

第120図　SI22竪穴住居跡出土遺物(2)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-019 | SI22 | 床層 | 2B | 石製品 | 砥石 | ⅠB2 | 30.3×12.5×8.1 | 6184.59 | 砂岩 | 完形品、自然礫、柱状、無孔、自然面あり | 57 |

## SI23　竪穴住居跡（第121図）

［位置・確認面］　２Ｂ区南半部北側で確認した。東側の殆どは撹乱により失われている。

［重複］　SI14・SB１に切られる。




第121図　SI23竪穴住居跡

SI23　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 灰白色砂質シルトブロックを少量含む |
| 掘り方 | 2 | 10YR5/6　黄褐色 | 砂質シルト | Ⅳ層ブロックにより構成 |

［規模・形態］　北西隅部のみの検出で、かつSI 14に切られることから全体は明らかでないが、方形の住居跡とみられ、規模は不明である。

［方向］　僅かに残存する北・西壁を基にした住居跡の南北軸はN-36°-Wである。

［堆積土・構築土］　２層を確認した。１層は褐色砂質シルトの床面上堆積土で灰白色砂質シルトブロックを少量含み、他の住居に比して色調がやや明るいがこれが人為堆積かは判断できなかった。２層は掘り方埋土である。

［壁面］　Ⅳ層を壁面とし、ほぼ直立する壁面となっている。

［床面］　２層を床面としているが、確認部分が狭い為、全体形状は不明である。

［柱穴］　北西隅部のSI 14の掘り方底面上において、SI 14のＰ２とSB１のＰ46に切られる形で楕円形状の小ピットを確認した。長軸は35cm程度のものだが、位置的に隅部に近く、これを主柱穴と判断するには至らなかった。

［周溝］　断面観察では北壁際が僅かに窪むのが観察できるが、これを周溝として平面的に確認することはできなかった。

［カマド・煙道］　確認できなかった。北壁残存部の東端でもカマドの痕跡が確認できず、他の多くの住居跡同様に北壁に付設されたかは不明である。

［その他の施設］　残存部分が少ない為か確認できなかった。

［掘り方］　北側残存部で底面からの深さが20cm掘り方を確認した。底面形状については不明である。

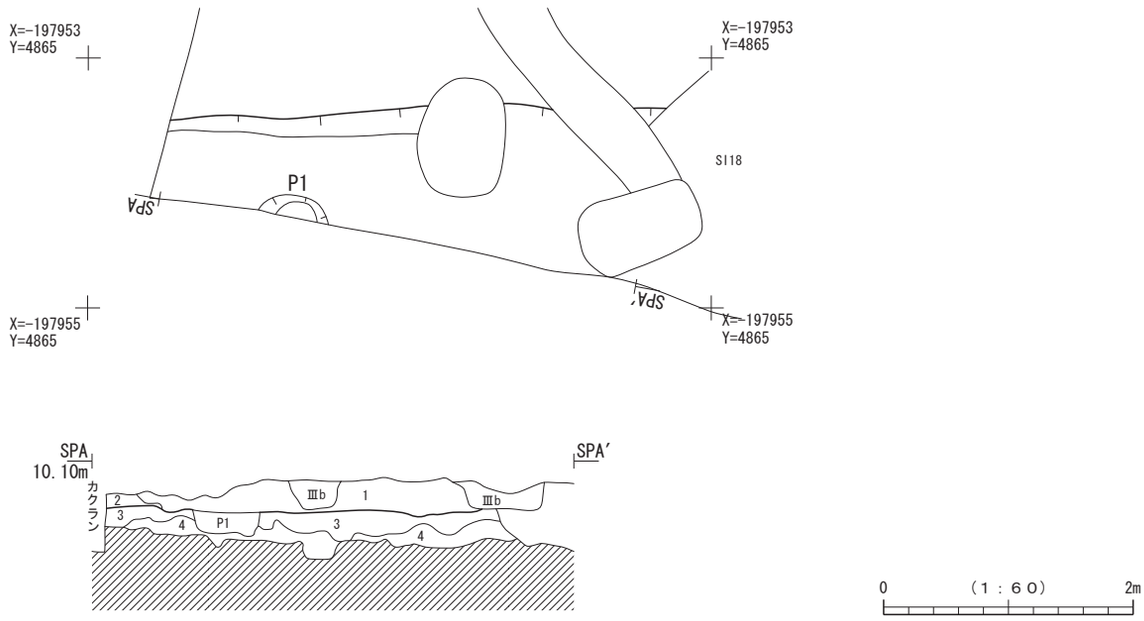
［出土遺物］　堆積土から遺物が出土した。掲載した遺物はない。

### SI24　竪穴住居跡（第122図）

［位置・確認面］　２Ｂ区南壁際で住居の掘り方のみを確認した。東側をSI 18により失われ、また南側は調査区外となっている。

［重複］　SI18・SD15に切られる。

［規模・形態］　北壁とみられる立ち上がりの確認であり、規模・形状は不明であるが、掘り方や後述の焼面位置からみて一辺が５m以上の方形の住居跡とみられる。




第122図　SI24竪穴住居跡

SI24　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | にぶい黄褐色砂質シルト小ブロックを層下半にやや多く含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| 掘り方 | 3 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 暗褐色砂質シルトブロックを一部含む　西端上面一部が被熱 |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質土 | Ⅳ層を少量含む |

［方向］　掘り方の北壁を基にした住居跡の南北軸はN-2°-Wである。

［堆積土・構築土］　調査区南壁部分において４層を確認した。１層は床面上堆積土でにぶい黄褐色砂質シルトブロックを層下半に多く含んでいる。２層は西端のみに確認でき、１cm内の焼土ブロックを多量含んでいる。３・４層は掘り方埋土とみられ、２層下の３層面が被熱しており、これはカマド内の燃焼部であった可能性が高い。このことから２層はカマド内堆積土とみられる。

［壁面］　壁面自体の確認箇所が無く不明であるが、Ⅳ層を壁面としている。

［床面］　断面からみて３層を床面としており、平坦で水平な床面だったとみられる。

［柱穴］　南壁際に１個を確認した。断面からみても床面上からの掘り込みであることから、住居に伴う主柱穴と考えられる。径は50cm以上あるが深さは不明である。柱痕跡は確認できなかった。

［周溝］　削平されており確認できなかった。

［カマド・煙道］焼面の存在からカマドは西端に残存していたものとみられる。

［その他の施設］　確認できなかった。

［掘り方］　底面の全体形状は不明で、底面には起伏がみられる。床面からの深さは西側で20cm、東側で30cm程度である。

［出土遺物］　掲載した遺物はない。

## SI25　竪穴住居跡（第123～124図）

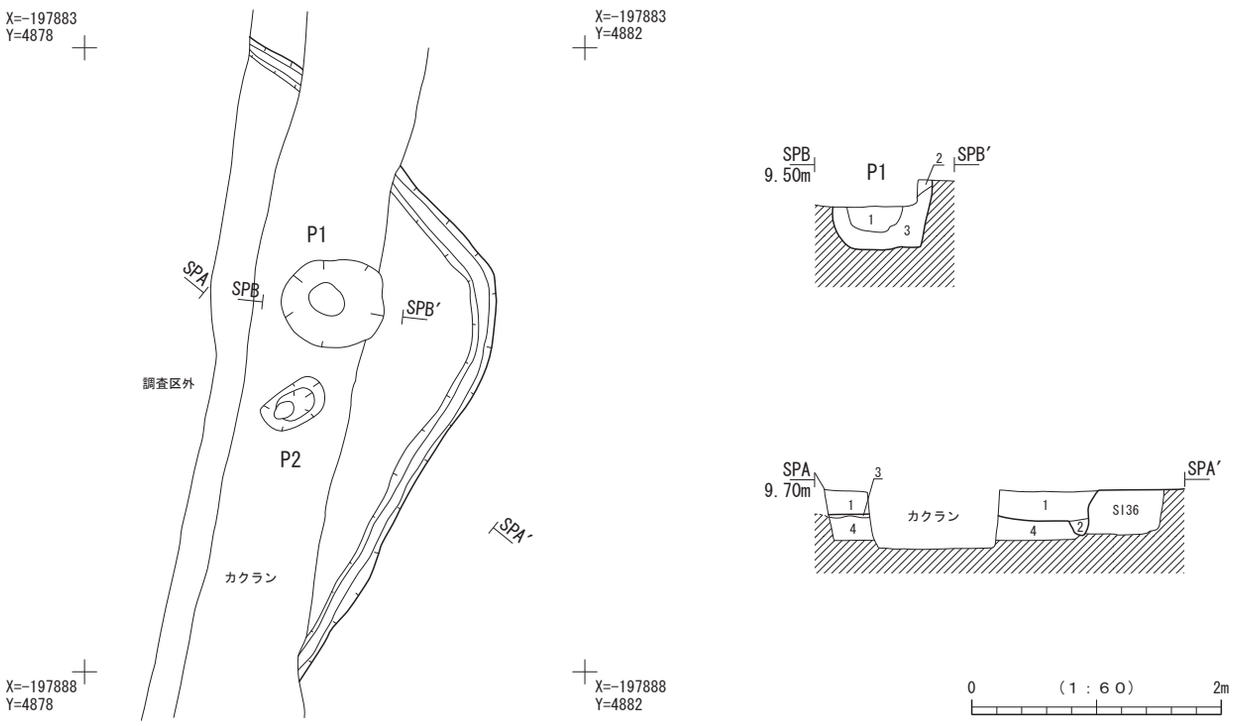
［位置・確認面］　３Ａ区南端付近、調査区の西壁沿いで確認した。溝状の撹乱によって大きく破壊を受けていた。

［重複］　SI36を切り、SI27に切られる。

［規模・形態］　残存部の規模は東西1.85m、南北4.5m、形態は隅丸方形と推定される。

［方向］　主軸方位は東辺を基準としてN-28°-Eである

［堆積土・構築土］　４層に分層した。この内、１層は住居埋土、２層は周溝内にのみ認められる埋土、３層は貼り床、これ以下で検出された４層は掘り方の埋土と考えられる。




第123図　SI25竪穴住居跡

SI25　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む、地山ブロックなどの混入物ほとんどなし |
| 周溝 | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| 貼床 | 3 | 10YR5/2　灰黄褐色 | シルト | 地山小ブロックを少量含む |
| 掘り方 | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の地山ブロック・黒褐色ブロックを多量含む |

SI25　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭粒を微量含む、抜取り跡の可能性あり |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ3cm内の地山ブロックやや多く含む |
| P2 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | ほとんど地山ブロック土によって構成 |

SI25　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 80×70 | 58 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P2 | 楕円形 | 52×32 | 30 | |

第124図　SI25竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N-05 | SI25 | 1層 | 鉄製品 | 釘？ | 長8.4、幅0.6、厚0.9cm | 58 |

［壁面］　上位が削平されているため壁の立ち上がりは明瞭ではない。壁高は東側で14cm ～ 15cm、北側で25cm ～ 29cmが残存するのみである。

［床面］　　床面はⅣ層中に構築されているものと考えられるが、大部分が撹乱を受けている。

［柱穴］　２基を確認した。円形のＰ１は上位を大きく撹乱によって失っているが、検出位置から、主柱穴と推測することができる。

［周溝］　東側で幅11cm ～ 16cm、深さ７cm、北側では幅８cm ～ 11cm、深さ15cmとなり、残存部では全周にわたって確認された。

［掘り方］　床面のプランに沿った垂直に近い掘り込みが確認された。特に北側を大きく掘り込んでいる。

［出土遺物］　棒状鉄製品を１点掲載した。釘の可能性がある。

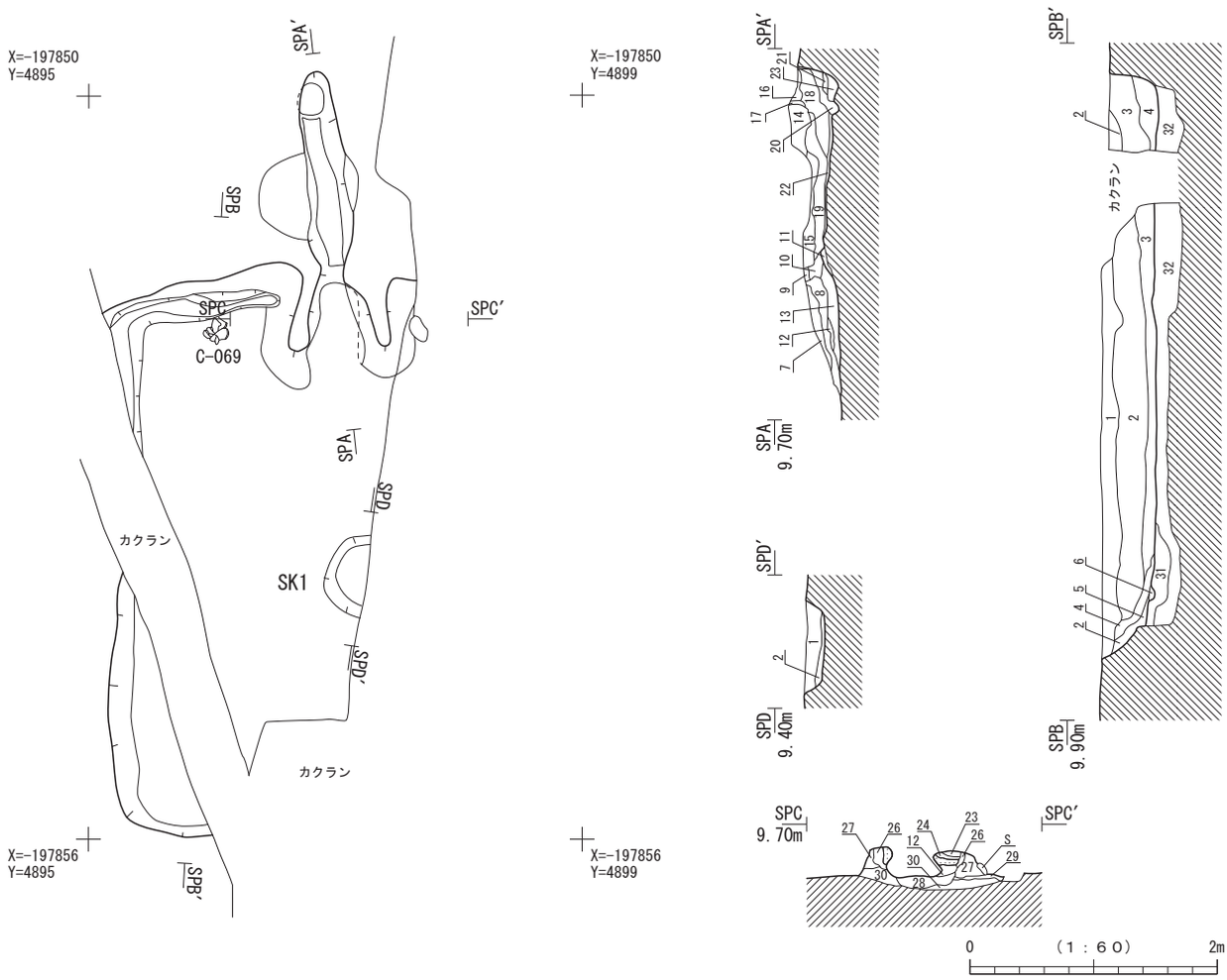
### SI26　竪穴住居跡（第125～ 126図）

［位置・確認面］　３Ａ区南半で確認した。

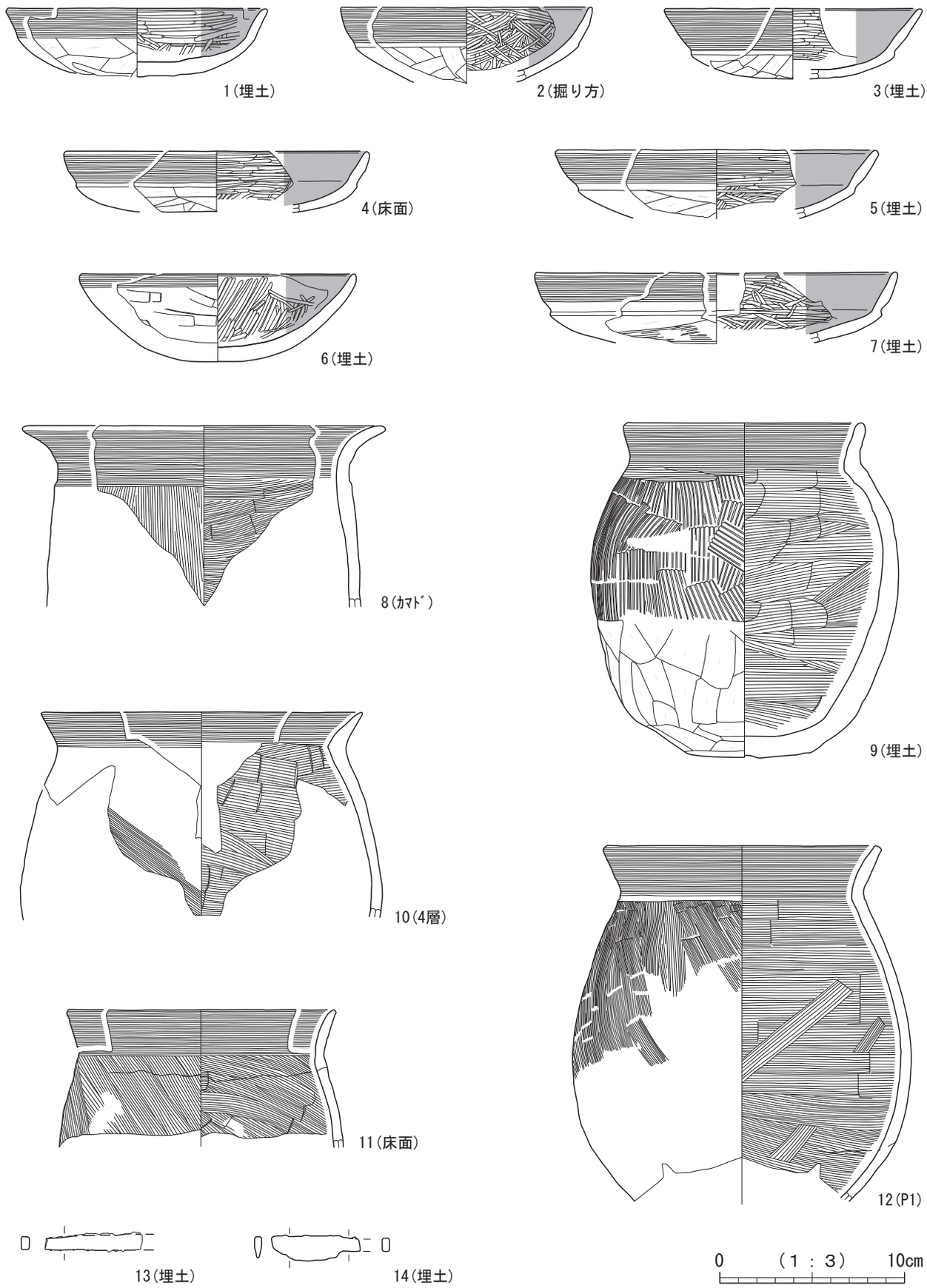
［規模・形態］　南北は4.5ｍで、撹乱を受けている東西は2.5ｍが残存する。平面形は隅丸方形を呈する。

［方向］　主軸方位はほぼ真北、N-9°-Wである。

［堆積土・構築土］　32層に分層した。１～５層は住居埋土、６層は周溝内の埋土で全体に焼土・炭化物粒を含んでいる。７～ 22層はカマド、及び煙道内の埋土で、11・12層が底面の被熱部位にあたる。特に９・13・14層は煙道の天井の残存部と考えられる。23 ～ 30層はカマド・袖の構築土、31・32層は掘り方の埋土である。




第125図　SI26竪穴住居跡




第126図　SI26竪穴住居跡出土遺物

SI26　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 焼土粒・炭化物粒混入　10YR3/1黒褐色ブロック混入。 |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 地山10YR5/4にぶい黄褐色土がブロック状に混入。　炭・焼土粒混入 |
| | 3 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 南壁側に炭・焼土粒混入。北壁側床上に灰混入 |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色小ブロック状に混入 |
| | 5 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | |
| 周溝 | 6 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 10YR3/3暗褐色土がブロック状に混入。炭化物粒混入 |
| カマド・煙道 | 7 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | |
| | 8 | 2.5Y4/2　灰赤色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| | 9 | 2.5YR4/4　にぶい赤褐色 | 焼成硬化面 | 天井部残存か。 |
| | 10 | 2.5YR3/2　暗赤褐色 | シルト | 炭化物混入 |
| | 11 | 2.5YR3/2　暗赤褐色 | 焼土層 | |
| | 12 | 5YR3/3　暗赤褐色 | 焼土層 | 2.5YR2/2極暗赤褐焼土ブロック。10YR2/1黒色炭混入層 |
| | 13 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック混。　天井部 |
| | 14 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR5/3にぶい黄褐色小ブロック混。焼土粒・炭化物粒若干混入 |
| | 15 | 7.5YR2/3　極暗褐色 | シルト | 10YR2/2黒褐色焼成土ブロック状に混入 |
| | 16 | 10R2/2　極暗赤褐色 | 焼成面 | |
| | 17 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒・10YR4/2灰黄褐色ブロック |
| | 18 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 10R2/2極暗赤褐色焼成面崩落土混入 |
| | 19 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR4/2灰黄褐色ブロック混入 |
| | 20 | 7.5YR2/2　黒褐色 | シルト | 10R2/2極暗赤褐色ブロック混入 |
| | 21 | 10YR4/2　灰黄褐色 | シルト | 10R2/2極暗褐色焼成面ブロック混 |
| | 22 | 10YR5/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山と思われる |
| カマド・ソデ | 23 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 24 | 5YR3/3　暗赤褐色 | 焼土 | |
| | 25 | － | － | |
| | 26 | 5YR3/3　暗赤褐色 | 焼土 | |
| | 27 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | |
| | 28 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| | 29 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| | 30 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| 掘り方 | 31 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを多量含む |
| | 32 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを少量含む |

SI26　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を多量含む |

SI26　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 円形 | 68×(32) | 5 | |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-057 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (14.0)×-×3.7 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 2 | C-058 | SI26 | 掘り方 | 土師器 | 坏 | (13.6)×-×(4.1) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 3 | C-063 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (13.8)×-×(3.8) | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 4 | C-062 | SI26 | 床面 | 土師器 | 坏 | (16.4)×-×(3.3) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 5 | C-060 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (17.2)×-×(3.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 6 | C-061 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (14.8)×-×4.7 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 7 | C-059 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (19.5)×-×(3.8) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 58 |
| 8 | C-066 | SI26 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甕 | (19.0)×-×(9.8) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 58 |
| 9 | C-068 | SI26 | 埋土 | 土師器 | 甕 | (12.6)×7.0×(18.1) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半ﾊｹﾒ、下半～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 58 |
| 10 | C-056 | SI26 | 4層 | 土師器 | 甕 | (17.2)×-×(11.0) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部摩滅 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 58 |
| 11 | C-067 | SI26 | 床面 | 土師器 | 甕 | (14.4)×-×(7.4) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 58 |
| 12 | C-069 | SI26 | P1 | 土師器 | 甕 | (14.6)×-×(19.4) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半ﾊｹﾒ、下半摩滅 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 58 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | N-06 | SI26 | 埋土 | 鉄製品 | 刀子 | 茎部、残存長5.2、幅0.9、厚0.5cm | 58 |
| 14 | N-07 | SI26 | 埋土 | 鉄製品 | 刀子 | 片関、残存長4.8、幅1.4、厚0.4cm | 58 |

［壁面］　Ⅳ層中を壁面としており、壁高は29.1cm ～ 42.3cmが残存する。壁の立ち上がりは垂直に近い。

［床面］　31層、あるいは32層直上を床面とする。

［周溝］　北西側コーナー付近でのみ検出された。幅20cm ～ 28cm、深さ11cm ～ 16cmである。

［カマド・煙道］　北辺の中央部に設けられているものと見られる。袖は平面がやや内湾する形状を呈し、右側に自然石が配される。残存状況は良好で、カマド外幅は126cmに達し、奥行は82cm、扁平されてはいるものの焚き口は幅40cm、高さ20cm前後と推定できる。燃焼部底面と住居床面との高さに差はなく、被熱範囲は袖の内側にまで及ぶ。煙道は長さ180cm、幅30cm、深さ32cm。天井が一部残存しており、高さは約20cmである。先端部は平面規模25cm×20cm、深さ32cmのピット状に窪んでいる。

［その他の施設］　住居中央部付近に炭化物が多量に含まれるSK１を確認した。

［掘り方］　中央部から周辺部へ向かって掘り窪められている。底面の落差は15cm程度である。

［出土遺物］　土師器坏７点、甕５点、刀子２点を掲載した。土師器の坏は２～５、７が口縁と体部の境目に段を持つ。また、４・７は、器高の低い盤形の器形である。甕９は胴部上半部がハケメ、下半がヘラケズリ調整されている。

SI27　竪穴住居跡（第127～128図）

［位置・確認面］　３Ａ区南端、西壁沿いに検出された。Ⅳ層を掘り込んでおり、上部をⅢ層によって削平されている。溝状の掘り込みによって大部分が撹乱されていた。

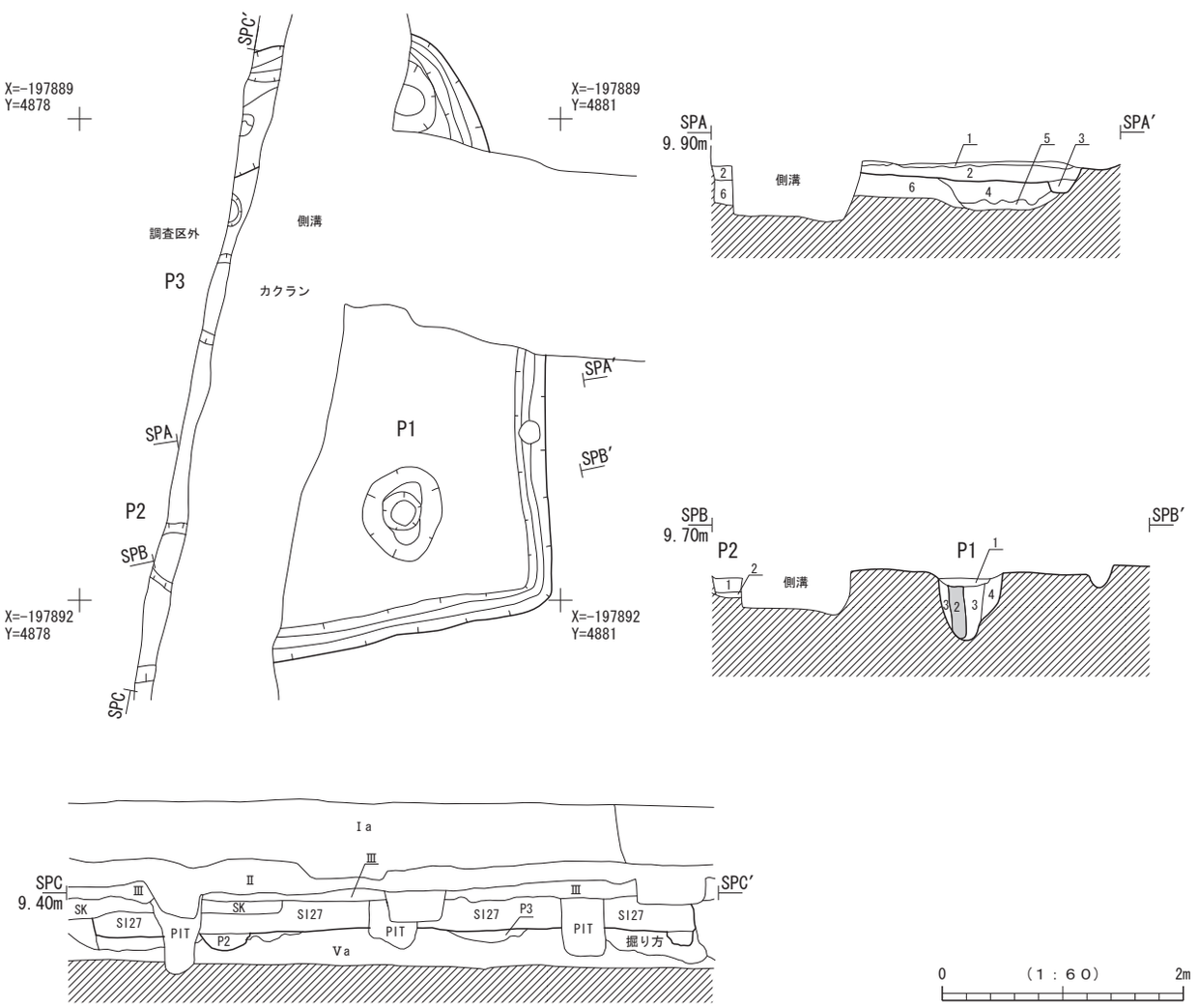
［重複］　SI25、SI36を切る。

［規模・形態］　規模は南北で５m、東西は残存部3.1mで、平面形は隅丸方形を呈する。

［方向］　主軸方位は東辺を基準としてN-28°-Eである。

［堆積土・構築土］　６層を確認した。１・２層が竪穴の埋土で、１層上位は、標準堆積Ⅲ層に相当する面で削平されている。３層は周溝内埋土。４～６層が掘り方の埋土となる

［壁面］　遺構の上部が失われているため、立ち上がりは床面付近しか残存しない。残存高は東側で14cm～18cm、南側７cm～18cm、北側は８cmである。




第127図　SI27竪穴住居跡

SI27　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 西半部でグライ化、焼土粒を微量含む |
| 周溝 | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 4 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロック、炭化物粒を微量含む |
| | 5 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の地山ブロックを多く含む |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |

SI27　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量含む |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック、炭化物粒を少量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内に地山ブロックをやや多く含む |
| P3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む |
| P4 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ5cm内の地山ブロックを多量含む |

SI27　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 78×65 | 72 | |
| P2 | - | (55×20) | 18 | |
| P3 | - | (75×12) | 13 | |
| P4 | 円形 | (25×10) | 22 | |

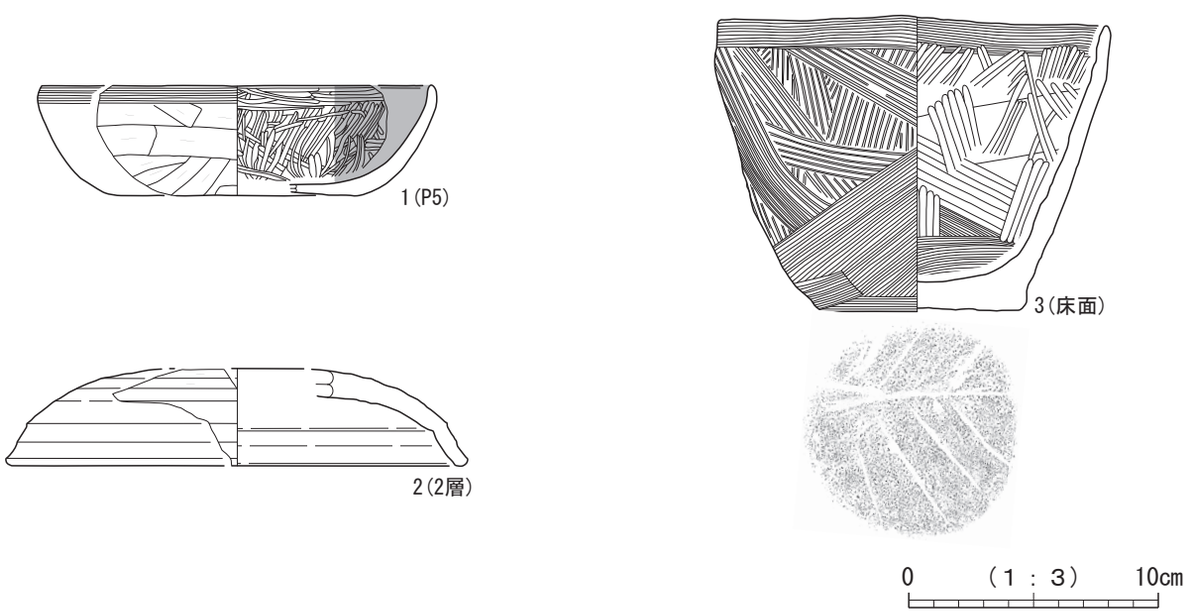
［床面］　Ⅳ層下部からⅤa層上部付近に構築される。大きく攪乱を受けており確認できたのは建物南東部にあたる４分の１弱であった。

［柱穴］　Ｐ１～Ｐ３を確認した。平面が円形を呈し、断面から柱の痕跡が検出されたＰ１は、南東側の主柱穴に当たるものと考えられる。

［周溝］　東側で幅12cm～20cm、深さ６cm、南側は幅11cm～17cm、深さ10cm。北側では幅20cm、深さ18cmとなり、残存部では全周にわたって確認された。

［掘り方］　底面は中央部をやや残すかたちで周辺部を掘り下げている。比高は概ね15cmほどである。

［出土遺物］　土師器坏１点、須恵器蓋１点、鉢１点を掲載した。１の土師器坏は平底であるが、口唇部の内湾が特徴である。関東系土師器に属する。２は須恵器坏蓋としたが、高盤の可能性もある。




第128図　SI27竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-070 | SI27 | P5 | 土師器 | 坏 | (15.6)×(10.0)×4.4 | 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ | 口縁部～底部ヘラミガキ | 内面黒色処理 | 58 |
| 2 | E-004 | SI27 | 2層 | 須恵器 | 蓋 | (18.0)×-×(3.9) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 盤の可能性 | 58 |
| 3 | C-071 | SI27 | 床面 | 土師器 | 鉢 | (15.5)×(7.9)×11.9 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、底部木葉痕 | 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ | | 58 |

SI28　竪穴住居跡

［位置・確認面］　３Ａ区南端付近で検出された。床面の直上より削平をうけている。

［重複］　SI29に切られる。

［規模・形態］　一辺3.6ｍでほぼ隅丸の正方形を呈する。

［方向］　主軸方位はN-43°-Eである。

［堆積土・構築土］　15層に分層できた。上部は失われているものと考えられるが、１～３層は住居埋土、４層は周溝内の埋土にあたる。５～８層はカマドの燃焼部、９～13層はカマド施設の構築土である。床面下から検出された14・15層は掘り方の埋土となる。

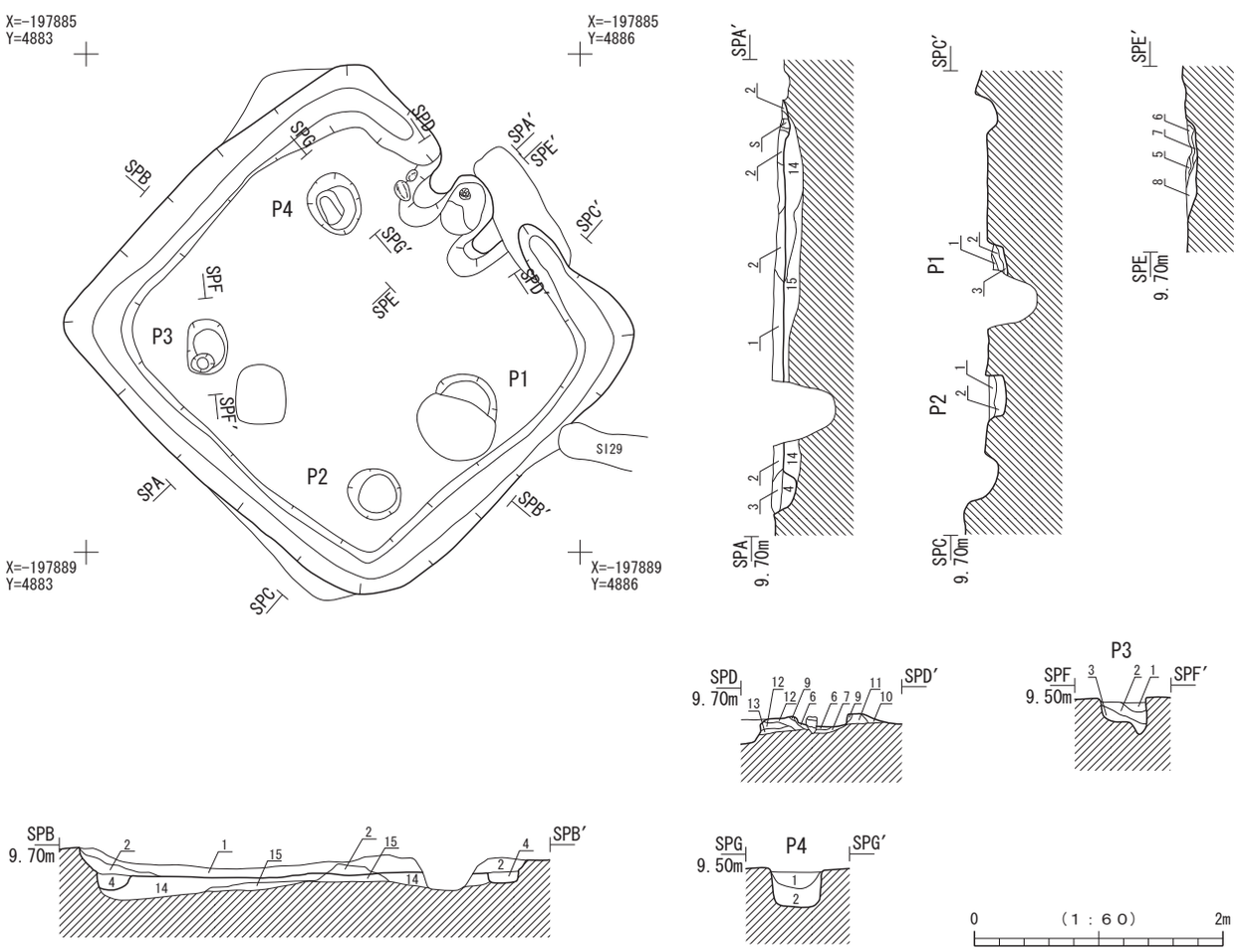
［壁面］　残りのよい西壁側では23cm～28cmが遺存するが、北壁側では12cm程しか残らない箇所も存在した。床面付近の立ち上がりは外側へ緩やかに広がる形となっている。

［床面］　14層上位が床面となる。

［柱穴］　Ｐ１～Ｐ４を確認した。いずれも主柱穴と考えられる。全体的に南西壁に寄っており、柱間寸法は主軸方向で150cm、直行方向で180cmとなる。

［周溝］　カマドの周囲を除く壁際を全周することが確認できた。幅14cm～32cmと比較的広く、深さは10cm～16cmである。

［カマド・煙道］　北辺の中央部に設けられている。袖は小規模で壁面に対し直行する形で築かれ、左袖には自然石が２個配されていた。外幅は100cmで、奥行66cmを計る。燃焼部は住居床面よりわずかに窪んでおり、中央に自




第129図　SI28竪穴住居跡

SI28　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | φ5cm内の地山・砂質土ブロックを多量含む（人為埋土の可能性あり） |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 黒褐色小ブロックを微量含む |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | |
| 周溝 | 4 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック混入 |
| カマド | 5 | 2.5Y4/2　灰赤色 | 砂質シルト | |
| | 6 | 5YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| | 7 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 6層ブロック混 |
| | 8 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| カマド・ソデ | 9 | 5YR3/3　暗赤褐色 | 焼成面 | |
| | 10 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 11 | 2.5Y4/2　灰赤色 | 砂質シルト | |
| | 12 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | |
| | 13 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 14 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/1黒褐色ブロック混 |
| | 15 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | |

SI28　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒混入 |
| | 2 | 2.5YR3/2　暗赤褐色 | 砂質シルト | |
| | 3 | 2.5YR4/3　にぶい赤褐色 | 砂質シルト | |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR3/1黒褐色ブロック混入、炭化物粒混入 |
| P3 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒混入 |
| | 2 | 2.5YR3/3　暗赤褐色 | 砂質シルト | |
| | 3 | 2.5YR4/3　にぶい赤褐色 | 砂質シルト | |
| P4 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色小ブロック混入 |
| | 2 | 2.5YR3/3　暗赤褐色 | 砂質シルト | |

SI28　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 53×(22) | 17 | |
| P2 | 円形 | 43×40 | 17 | |
| P3 | 円形 | 44×32 | 27 | |
| P4 | 楕円形 | 51×42 | 33 | |

然石を据えて支柱としている。

［掘り方］　中央部を島状に残して、周辺部を緩やかに掘りくぼめている。底面の落差は７cm程度である。

［出土遺物］　須恵器蓋１点を掲載した。天井部に３条の沈線がめぐる。壺の肩部の可能性もあるが蓋とした。

第130図　SI28竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | E-005 | SI28 | 床面 | 須恵器 | 蓋 | -×-×(2.9) | ﾛｸﾛ調整、沈線4条 | ﾛｸﾛ調整 | 内外面自然釉、壺肩部の可能性 | 59 |

## SI29　竪穴住居跡（第131図）

［位置・確認面］　３Ａ区南半部、東側の撹乱に沿うかたちで、カマド及び煙道部分のみを確認した。

［重複］　SI28を切る。

［規模・形態］　一辺が残存する南北方向は3.6m。西側が大きく失われている東西方向は0.45mが残存する。

［方向］　主軸方位はN-77°-Wである。

［堆積土・構築土］　22層に分層した。１・２層はわずかに残存する住居埋土、３層はカマド内部の埋土である。４～６層はカマドの煙道内の堆積、焼土・炭化物粒も多含する７～10層は煙道の煙出し部にあたる。被熱痕跡が特に顕著な11～15層はカマドの燃焼部と考えられる。16～20層はカマド袖部の構築土で、21・22は特にカマド燃焼部直下の掘り方である。

［壁面］　上位は大きく失われており、残存する壁高は4.8cm～11cmである。

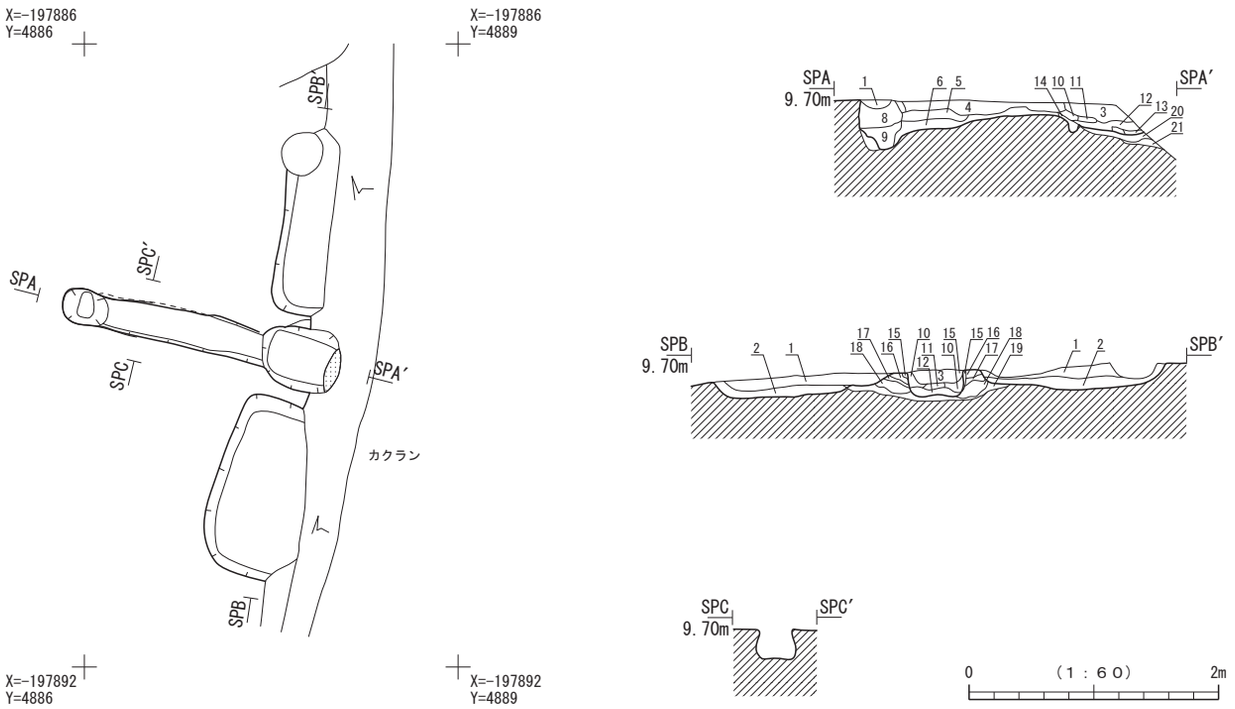
［床面］　大部分が撹乱を受けており詳細は不明。

［カマド・煙道］　西辺の中央部に設けられている。両袖部は先端が撹乱を受けているが、平面形は壁に直行する形になるものと推定され、残存部から外幅は90cm前後と考えられる。煙道は長さ164cm、幅30cmで、底面は先端

へ向かって低くなっており、深さは13cm ～ 25cmを計る。煙道の先端部は、平面が37cm × 28cm、深さ42cmのピット状に窪んでいる。

［掘り方］　大部分が撹乱をうけており、詳細は不明である。

［出土遺物］　掲載した遺物はない。




第131図　SI29竪穴住居跡

SI29　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/1黒褐色ブロック状に混入 |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山? |
| カマド燃焼部 | 3 | 7.5YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 5YR3/6暗赤褐色焼土粒混入･炭化物粒混入 |
| カマド煙道 | 4 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混入　煙道焼成硬化面の崩落土混入 |
| | 5 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 10YR3/1黒褐色ブロック状に混入 |
| | 6 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロック混入 |
| カマド煙出し | 7 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒･焼土粒混入 |
| | 8 | 10YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒･焼土粒混入 |
| | 9 | 7.5YR2/1　黒色 | 砂質シルト | 焼土ブロック･炭化物粒混入 |
| | 10 | 2.5Y4/3　オリーブ褐色 | 砂質シルト | |
| カマド燃焼部 | 11 | 5YR3/2　暗赤褐色 | 砂質シルト | 5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混入･炭化物粒混入 |
| | 12 | 5YR3/6　暗赤褐色 | 砂質シルト | 焼土 |
| | 13 | 7.5YR2/1　黒色 | | 5YR3/6暗赤褐色焼土ブロック混入 |
| | 14 | 5YR3/2　暗赤褐色 | | 焼土 |
| | 15 | 7.5YR2/1　黒色 | | 10YR4/3にぶい黄褐色ブロック混入 |
| カマド･ソデ | 16 | 2.5YR3/1　暗赤灰色 | 砂質シルト | 焼成により赤変 |
| | 17 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 18 | 2.5Y4/2　灰赤色 | 砂質シルト | |
| | 19 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック状に混入 |
| | 20 | 2.5Y4/2　灰赤色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック状に混入 |
| 掘り方燃焼部 | 21 | 2.5YR3/1　暗赤灰色 | | 焼土 |
| | 22 | 2.5Y3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック混入 |

## SI30　竪穴住居跡（第132～ 133図）

［位置・確認面］　３Ａ区南端、東側の撹乱に沿う形でプランの一部を確認した。東半分を大きく撹乱されている上、中央部はSK39と重複しており、西壁の一部とカマドの底面がわずかに残存するのみである。

［重複］　東側半分を大きく撹乱されている他、中央部をSK39の掘り込みによって破壊されている。

［規模・形態］　規模が推定できる南北軸で5.6m、東西の残存部は3.2m程である。

［方向］主軸方位は、西辺を基準にN-18°-Eである。

［堆積土・構築土］　９層に分層した。１～４層は住居埋土、５層は周溝内の埋土である。６～８層はカマドの被熱部位にあたり、９層は掘り方の埋土と考えられる。

［壁面］　Ⅳ層中を壁面とし、最も状態の良い西壁で27cmが残存する。立ち上がりは直線的である。

［床面］　SK39によって大部分が破壊されている。

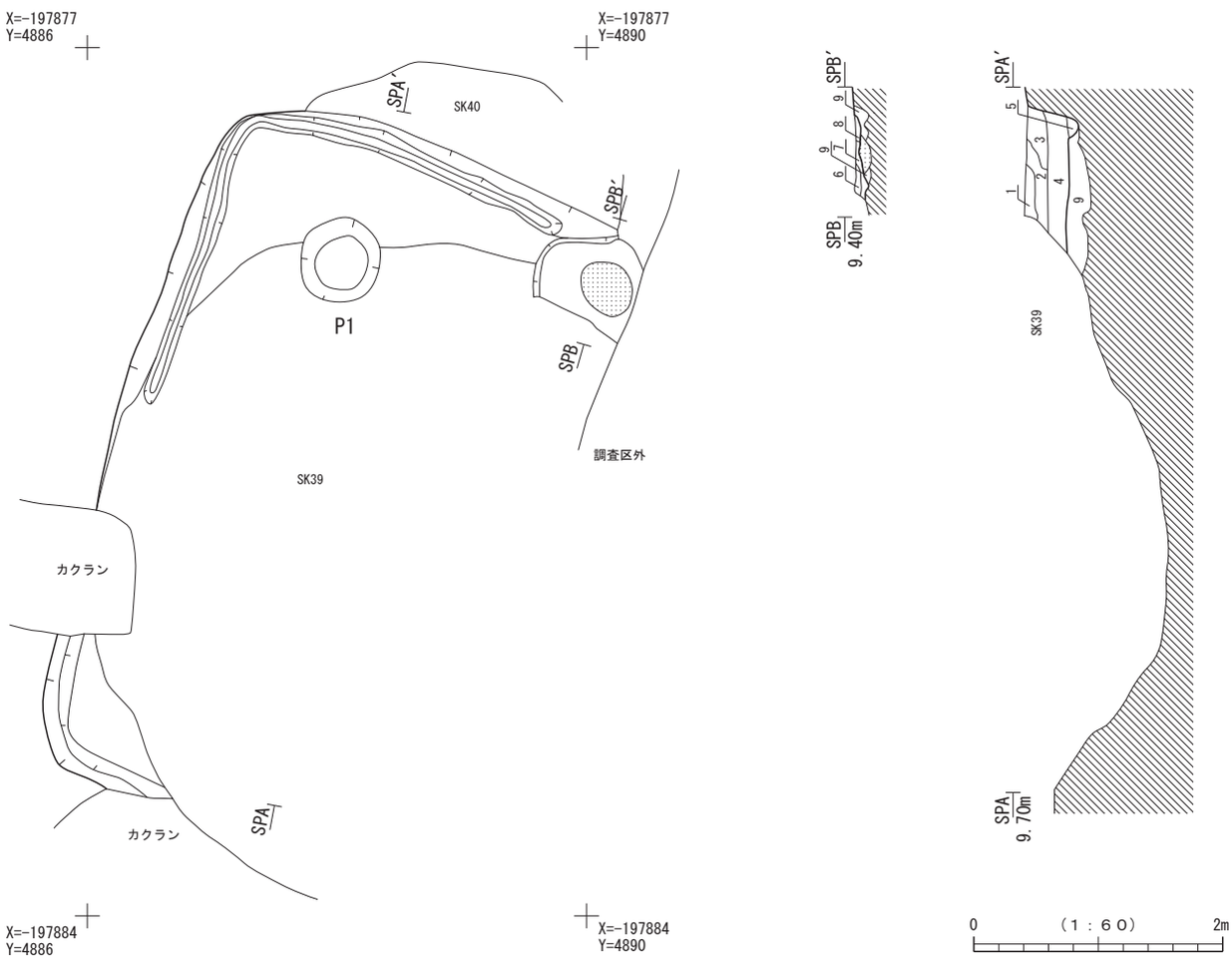
［柱穴］　確認されたＰ１は、位置関係から西側の主柱穴と考えられる。

［周溝］　北西コーナー付近でのみ確認された。幅10cm～19cm、深さ６cmである。

［カマド・煙道］　北辺に燃焼部のみが確認された。

［掘り方］　SK39の撹乱によって詳細は不明である。

［出土遺物］　土師器坏１点、土師器甕１点、須恵器坏１点を掲載した。１は口縁と体部の境目に稜があり、口径の大きい皿形である。




第132図　SI30竪穴住居跡

SI30　埋土註記表

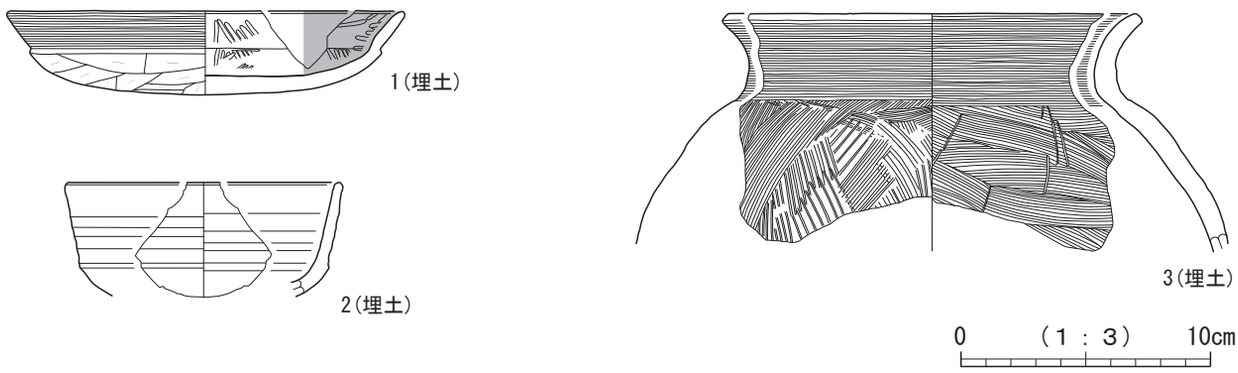
| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量含む |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| | 4 | 2.5YR3/2　暗赤褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック・地山ブロック混 |
| 周溝 | 5 | | | |
| カマド | 6 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 25YR4/6赤褐色焼土ブロック混 |
| | 7 | 5YR3/1　黒褐色 | 砂質シルト | 焼土粒・炭化物粒混 |
| | 8 | 2.5YR4/3　にぶい赤褐色 | 焼土層 | |
| 掘り方 | 9 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |

SI30　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 暗褐色小ブロックを少量含む |

SI30　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 67×63 | 8 | |




第133図　SI30竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-074 | SI30 | 埋土 | 土師器 | 坏 | 15.8×-×3.3 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 2 | E-006 | SI30 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (10.8)×-×(4.2) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整 | 外面自然釉 | 59 |
| 3 | C-075 | SI30 | 埋土 | 土師器 | 甕 | (16.4)×-×(9.5) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 59 |

## SI31　竪穴住居跡(第134～136図)

［位置・確認面］　3Ａ区南端部、調査区西壁沿いで確認された。カマド付近のみの確認であり、東側の大部分は調査区外となる。Ⅳ層中に構築され、住居内へはⅢ層の落ち込みも認められた。

［重複］　SK11・12・14によって撹乱を受けている。

［規模・形態］　南北で4.7m、東西は1.35mが残存する。隅丸方形を呈するものと考えられる。

［方向］　主軸方位はほぼ真東である。

［堆積土・構築土］15層に分層できた。1～5層は住居埋土で、全体に焼土・炭化物を含んでおり、堆積状況からも、人為的な埋め戻しが行われた可能性が高い。8層・10・11層はカマドの燃焼部とその周囲、12層はカマドの袖部構築土である。9層は周溝内の埋土、5・7層は煙道内の埋土にあたる。14・15層は掘り方の埋土である。

［壁面］　Ⅳ層中を壁面とし、壁高は12cm～22cmが残存する。立ち上がりは、北側では垂直に近く、南側では直線的に外側へ向かって傾斜する。

［床面］　大部分が調査区の外に位置しており、詳細は不明である。

［柱穴］　南側の壁沿いにＰ1を検出した。

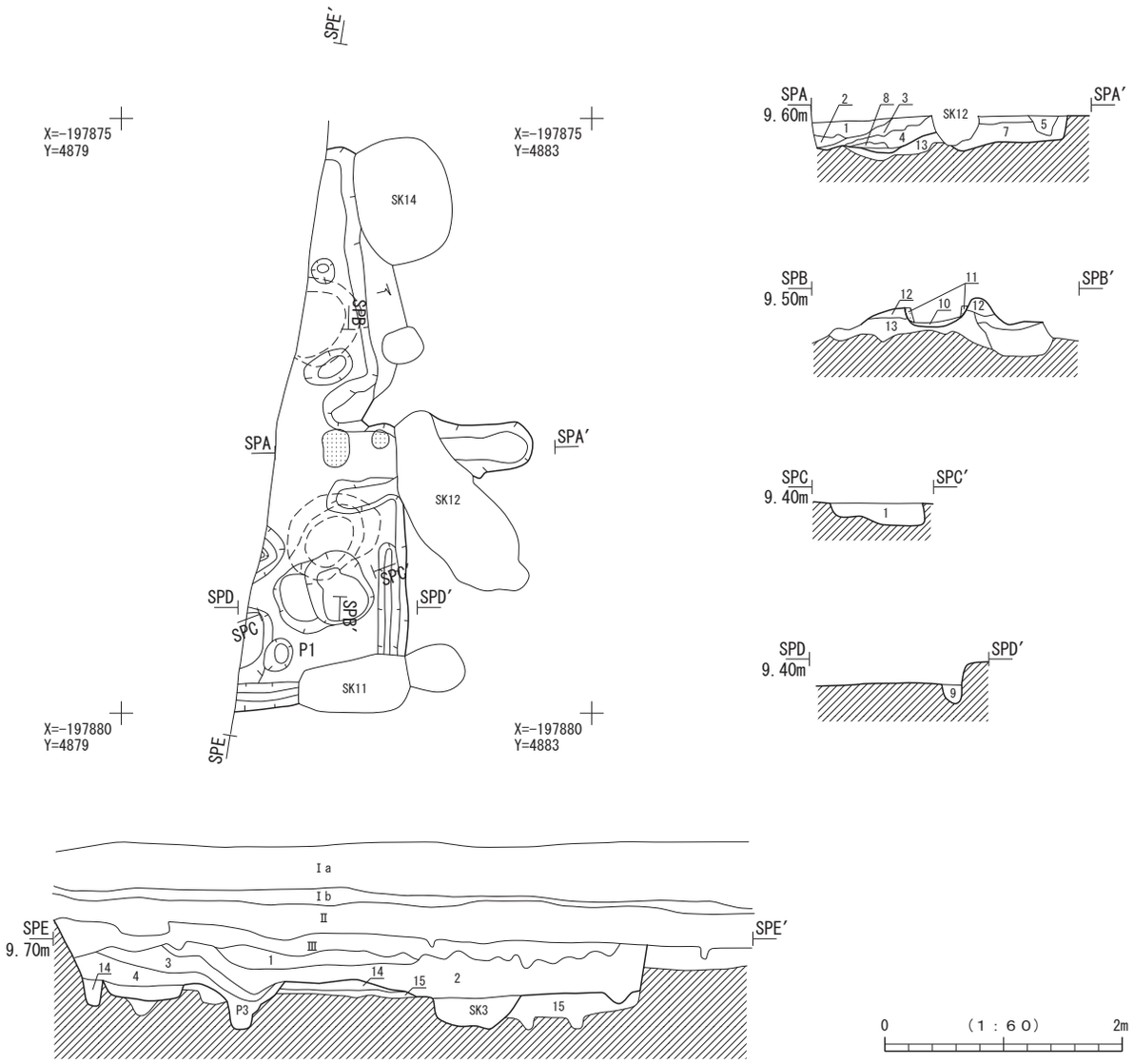
［周溝］　南東コーナーで検出されている。幅は14cm～17cm、深さ8cm～13cmである。

［カマド・煙道］　東辺の中央よりやや南よりに設けられている。袖部は壁にほぼ直行し、左側の袖部には自然石が配される。外幅は125cmである。燃焼部の幅は35cmで、底面が床面よりわずかに低くなっている。カマド奥壁にあたる位置はSK12によって撹乱されているものの、煙道の長さは121cmと推定される。幅は43cmで、底面はほぼ水平となり、深さ22cmを計る。特に右側の袖部外側からは複数の土器が検出された。

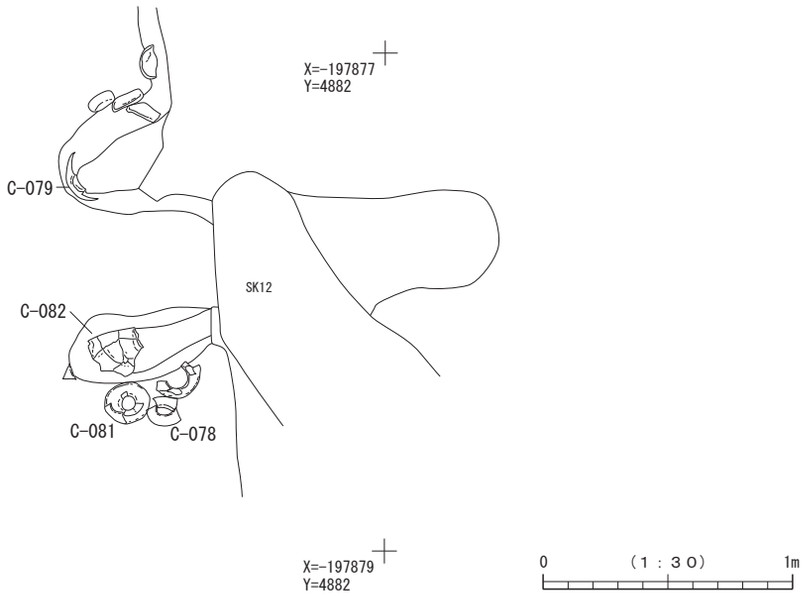
［その他の施設］　SK1、SK2共に床面下から検出された。SK2の埋土には焼土が多く含まれる。

［掘り方］　詳細は不明だが、底面に多くの堀込みが認められる。

［出土遺物］　土師器坏1点、高坏1点、甕3点を掲載した。1は丸底から緩やかに内湾しつつ、わずかに外反する口唇部にいたる。2は脚部が短く太い。3は、鉢状に口縁が開く。4、5は球胴で直立する頸部から外反する口唇部にいたる。




第134図　SI31竪穴住居跡(1)




第135図　SI31竪穴住居跡(2)

SI31　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の地山ブロック、炭化物粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多く含む |
| | 4 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物ブロックを少量含む |
| | 5 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を多量含む |
| カマド | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼土小ブロックを少量含む |
| | 7 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを密に含む |
| | 8 | 10YR4/2　灰黄褐色 | シルト | 焼土粒を少量含む |
| 周溝 | 9 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| カマド | 10 | 5YR2/4　極暗赤褐色 | シルト | |
| | 11 | 5YR4/8　赤褐色 | シルト | 硬く焼けしまっている |
| カマド・ソデ | 12 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼土、炭化物粒を少量含む |
| 掘り方 | 13 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 黒褐シルト土を少量含む |
| | 14 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 地山ブロックを密に含む |
| | 15 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 互層 |
| | | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | |

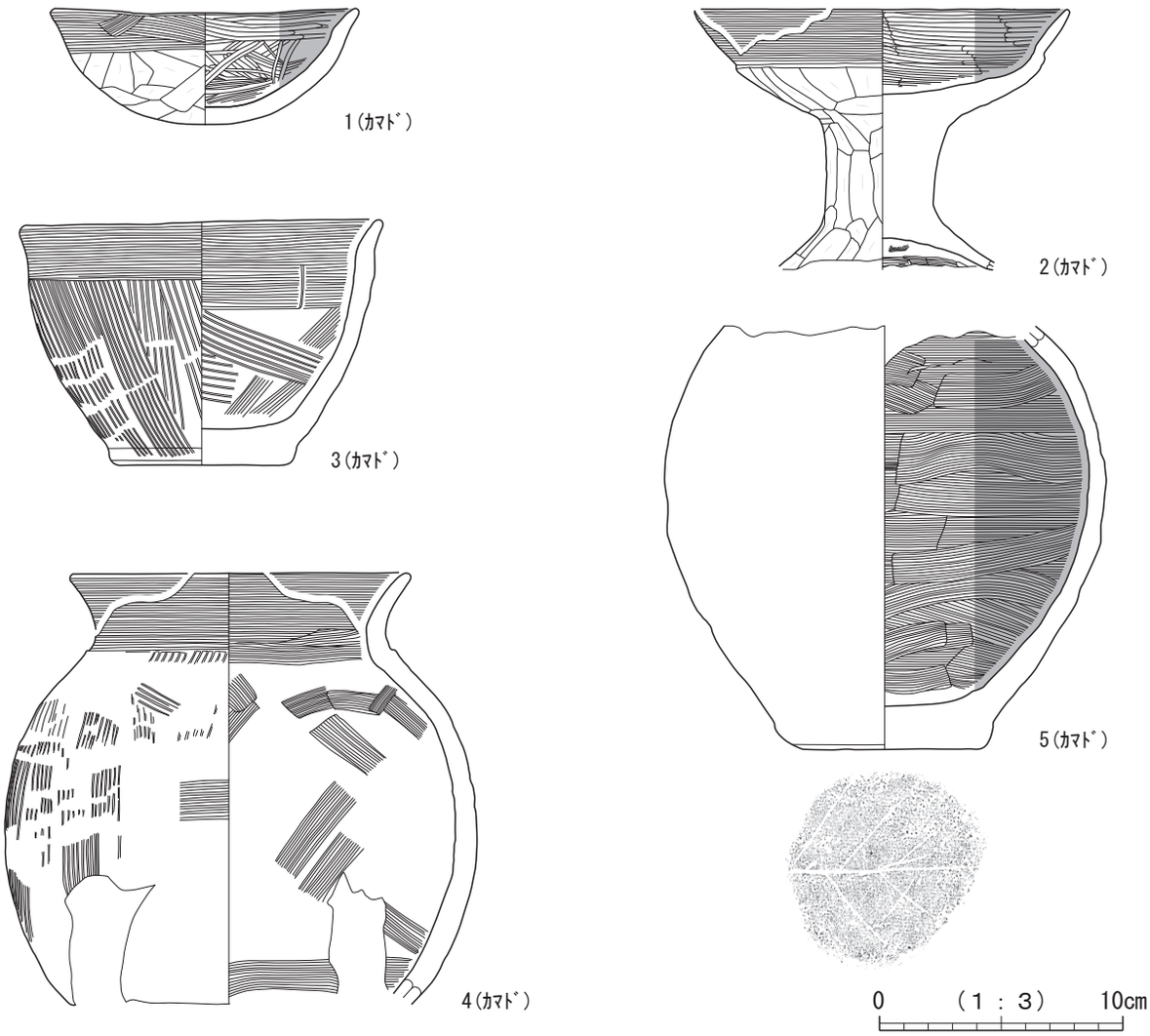
SI31　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量含む |
| SK1 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロック・炭化物ブロック、φ3cm内の地山ブロックを多量含む　※人為的埋戻し土 |
| SK2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ1cm内の焼土ブロック・炭化物粒を多く含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 黒褐色シルト土を層状にはさむ(1、2層とも人為埋土とみられる) |

SI31　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 27×25 | 11 | |
| SK1 | 方形 | 78×62 | 21 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK2 | 円形 | 83×61 | 41 | |




第136図　SI31竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-078 | SI31 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 坏 | (12.4)×-×4.8 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 2 | C-080 | SI31 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 高坏 | (15.3)×-×(10.7) | 坏部口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 坏部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚柱状部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 坏部内面黒色処理 | 59 |
| 3 | C-081 | SI31 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甕 | 15.0×7.0×10.0 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ | ｶﾏﾄﾞ右袖 | 59 |
| 4 | C-079 | SI31 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甕 | (13.8)×-×(17.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 59 |
| 5 | C-082 | SI31 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甕 | -×7.5×(17.4) | 胴部摩滅、底部木葉痕 | 胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 内面黒色処理 | 59 |

SI32　竪穴住居跡（第137～138図）

［位置・確認面］　３Ａ区南半部で西壁に沿って確認した。西壁に見られる断面の状況から、主にⅣ層中に構築されており、上部をⅢ層およびⅡ層によって削平されているが、一部でⅢ層が落ち込んでいるものとも観察できる。

［重複］　SI49を切る。

［規模・形態］　南北方向は6.1ｍ、東西方向の残存部は2.23ｍで、形状は隅丸長方形を呈する。

［方向］主軸方位は真北である。

［堆積土・構築土］　17層に分けられた。１～４層は住居埋土、５・６層はカマド内の埋め土である。４層については周溝内でのみ認められる。７層は煙道の天井部分と考えられ、８～13層はカマドの煙道内の埋土で、８～９層については天井、壁の崩落土とみられる。14・15層はカマド袖の構築土にあたり、床面下で検出された16・17層はそれぞれカマド・住居の掘り方埋め土である。

［壁面］　検出した東側、北側、南側共に残存高は30cm前後で、外側に向かってやや緩やかに立ち上がる。

［床面］　17層上面を床面とする。明確な主柱穴が確認されており、北側のカマド付近には炭化物の分布が確認された。

［柱穴］　Ｐ１～Ｐ９を確認した。平面円形で床面上を掘り込むＰ１・Ｐ２が主柱穴にあたり、周溝に沿って並ぶＰ５～Ｐ９についても壁柱穴と推測できる。主柱穴の柱間は３ｍとなる。

［周溝］　検出部分ではカマドを除き全周しており、北東コーナー付近ではやや壁面から離れる。幅16～18cmで深さは10.3cm～16.3cmを計り、底面及び周囲にピットを伴う。

［カマド・煙道］　北辺に位置する。西側半分は調査区外となり不明。袖の平面形は直線的でハの字状に開くものと推定される。煙道の長さは1.8ｍ、断面は煙出し部へ向けて低くなっている。床面から土坑状に掘り下げられた底面は明瞭に被熱しており、煙道も同様である。カマドの右側には焼土と炭化物の分布が認められた。

［その他の施設］　掘り方底面からSK１とした掘り込みが検出された。

［掘り方］　中央部を島状に残して、Ⅴ層まで掘り込んでいるものと見られる。

［出土遺物］　ロクロ土師器坏１点、須恵器坏２点、蓋１点、瓶１点を掲載した。１のロクロ土師器坏は、内面黒色処理後、剥落しており、２次被熱を受けている。２は丸底状の箱型で小型の坏、５は長頸瓶である。

SI33　竪穴住居跡（第139～142図）

［位置・確認面］　３Ａ区南側で確認した。

［重複］　SI37、SI39、SI41、SI46を切り、周辺で重複する一群の住居跡の中で最も新しい。また、カマド煙道、および床面下の柱穴などの状況から、拡張に伴う建替えが行なわれた可能性が高い。

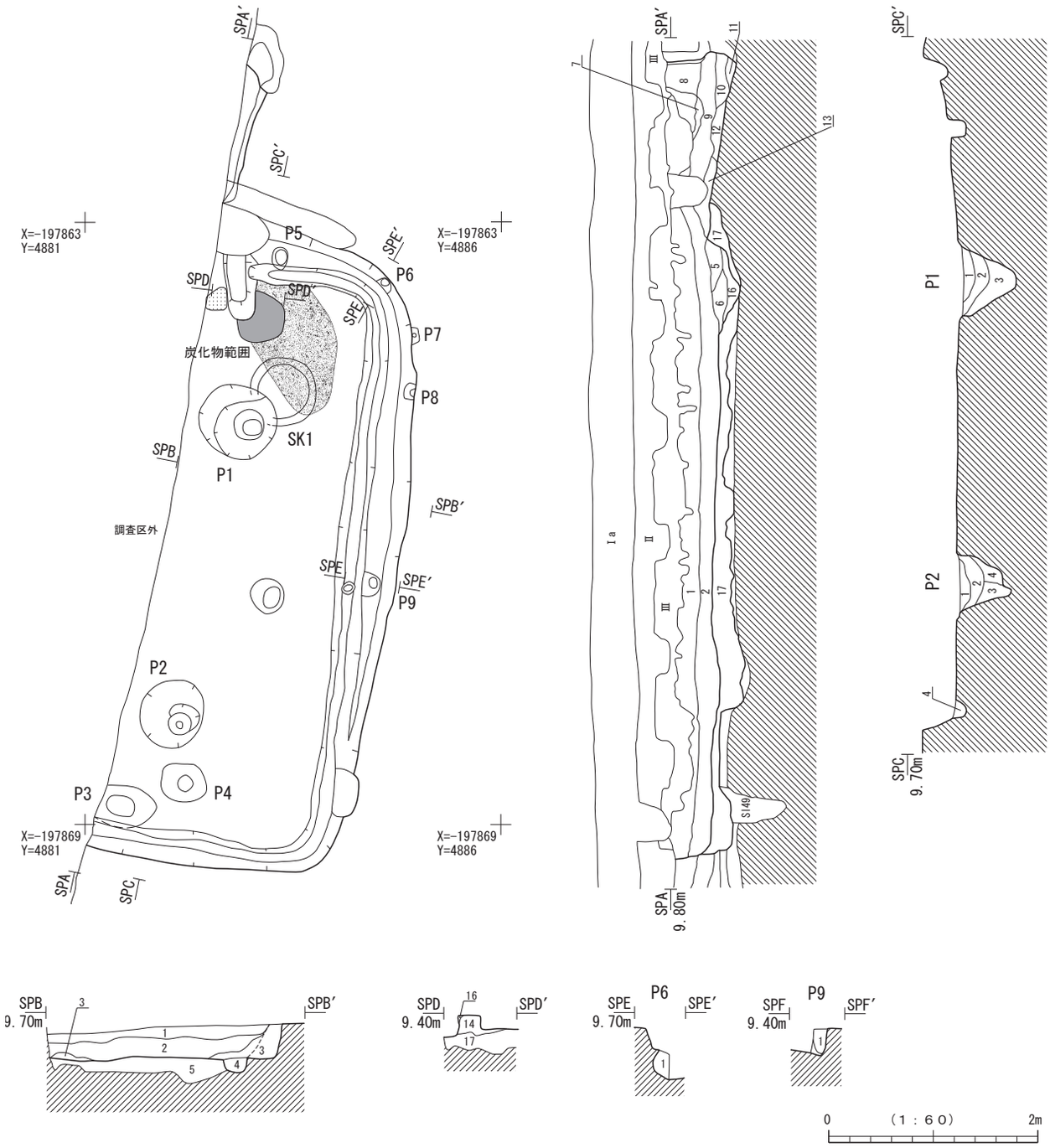
［規模・形態］　一片が約5.2ｍの隅丸正方形を呈し、面積は概ね27.04㎡となる。

［方向］　主軸方位はN-18°-Eである。

［堆積土・構築土］　計23層に分層できた。１～４層は住居埋土にあたり、２層以下には炭化物の混入が認められる。５・６層はカマド、７～10層は建替え後の煙道のものと考えられる。11層は周溝内にのみ見られる層である。12～14層はカマド袖部の構築土。15層はカマド直下の掘り方にあたる。16層は建替え後の貼り床と考えられ、これ以下の17層は建替え前のカマドに関連する層となり、18～20層は建替え前の煙道内部の堆積である。22～23層は掘り方埋土だが22層はあるいは、拡張に伴うものとも推測できる。

［壁面］　残存する壁高は東側16.4cm、西側24.7cm、南側29.2cm、北側24.8cmで、Ⅳ層中およびSI39、SI41の埋土を掘り込み、立ち上がりは、特に東側で垂直に近くなる。

［床面］　16層とした地山ブロックを多く含む土で構築されており、西半分には、主軸に直行する一条の溝が確認




第137図　SI32竪穴住居跡

SI32　埋土註記表(1)

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 黒褐色土小ブロック(基本層にあり)を微量含む |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 地山小ブロックを少量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ2cm内の地山ブロックをやや多く含む |
| カマド | 5 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| | 6 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒・炭化物混入 |
| 煙道 | 7 | 10YR6/4　にぶい黄橙色 | シルト | 煙道天井上部残存9層ブロック若干混る |
| | 8 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 炭化物混。5YR3/3暗赤褐色、焼成面崩落土混入 |
| | 9 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物混。5YR3/3暗赤褐色、焼成面崩落土混入 |
| | 10 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物混。5YR3/3暗赤褐色、焼成面崩落土混入 |
| | 11 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 炭化物混 |
| | 12 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 焼土粒混 |
| | 13 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 焼土粒・炭化物粒混 |

SI32　埋土註記表(2)

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| カマド | 14 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 地山ブロック混。2.5YR4/4にぶい赤褐色焼土粒・炭化物粒 |
| | 15 | 2.5YR3/2　暗赤褐色 | | 焼成硬化面 |
| カマド掘り方 | 16 | 7.5YR2/3　極暗褐色 | シルト | 5YR3/3暗赤褐色焼土ブロック・炭化物粒混入。地山ブロック混 |
| 掘り方 | 17 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック混入 |

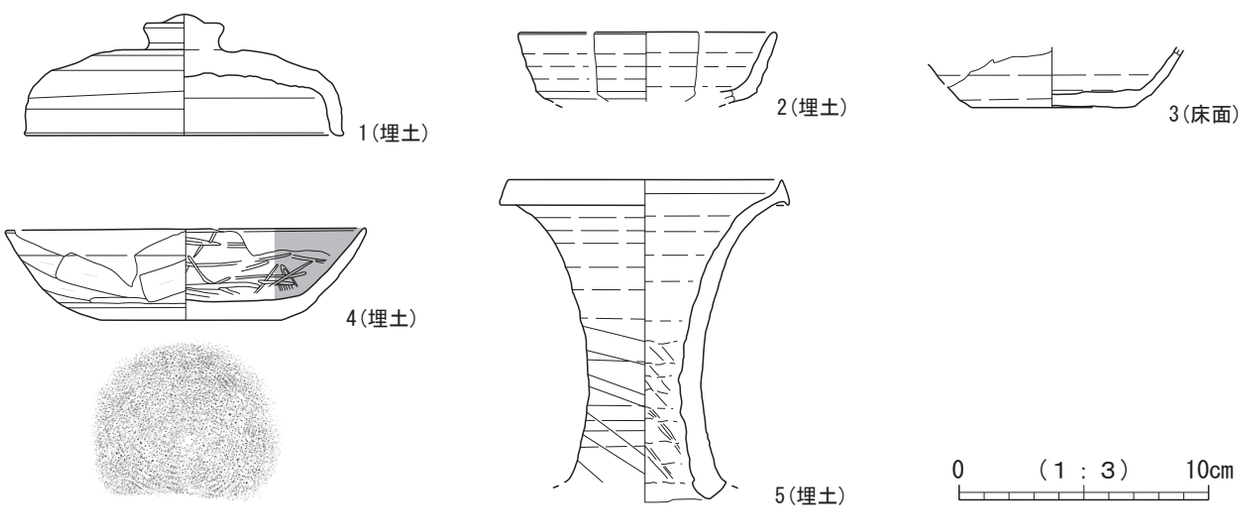
SI32　施設埋土註記表

| 部　位 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 焼土粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 地山ブロックをやや多く含む |
| | 3 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 暗褐色シルト土をブロック状に多く含む |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックをやや多く含む(柱痕跡) |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| P3 | | | | SI49の柱穴として理解、SI49のPit9になった |
| P4 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼土・炭化物地山ブロックを含む |
| P5 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | |
| P6 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 焼土・炭化物が粒状に混入 |
| P7 | - | - | - | |
| P8 | - | - | - | |
| P9 | - | - | - | |
| SK1 | 1 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | 10YR3/3ﾌﾞﾛｯｸ混入、地山土斑状に混入 |

SI32　施設観察表

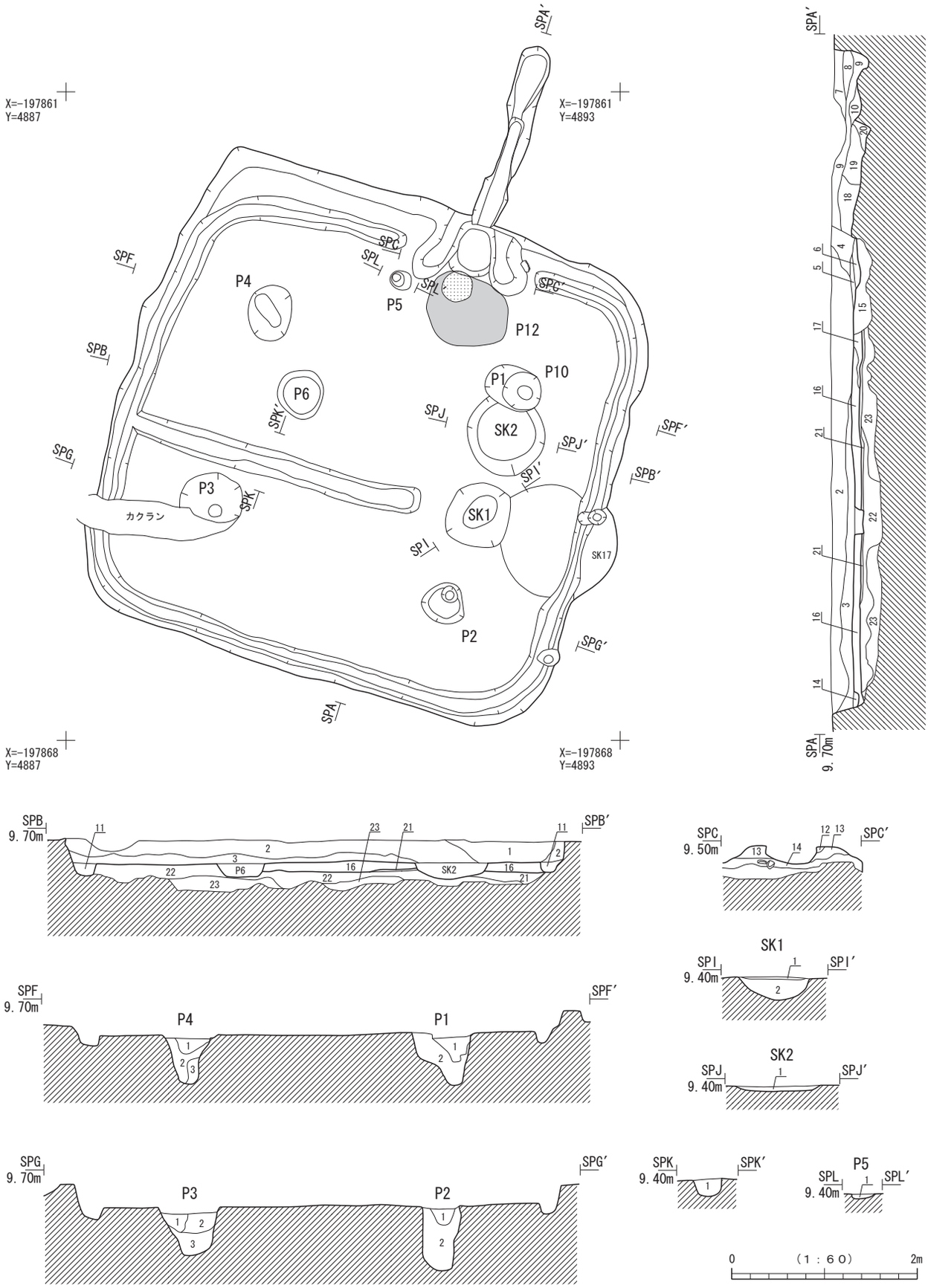
| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 75×70 | 67.7 | |
| P2 | 円形 | 66×60<br>柱痕跡22×(22) | 53 | |
| P3 | 欠番 | | | |
| P4 | 円形 | 44×36 | 39.5 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P5 | 円形 | 22×16 | 37.5 | |
| P6 | 円形 | 16×(10) | 8.1 | |
| P7 | 楕円形 | 16×(7) | 22.4 | |
| P8 | 不整形 | 18×16 | 3.5 | |
| P9 | 楕円形 | 24×(16) | 23.3 | |
| SK1 | 円形 | 65×62 | 11 | |

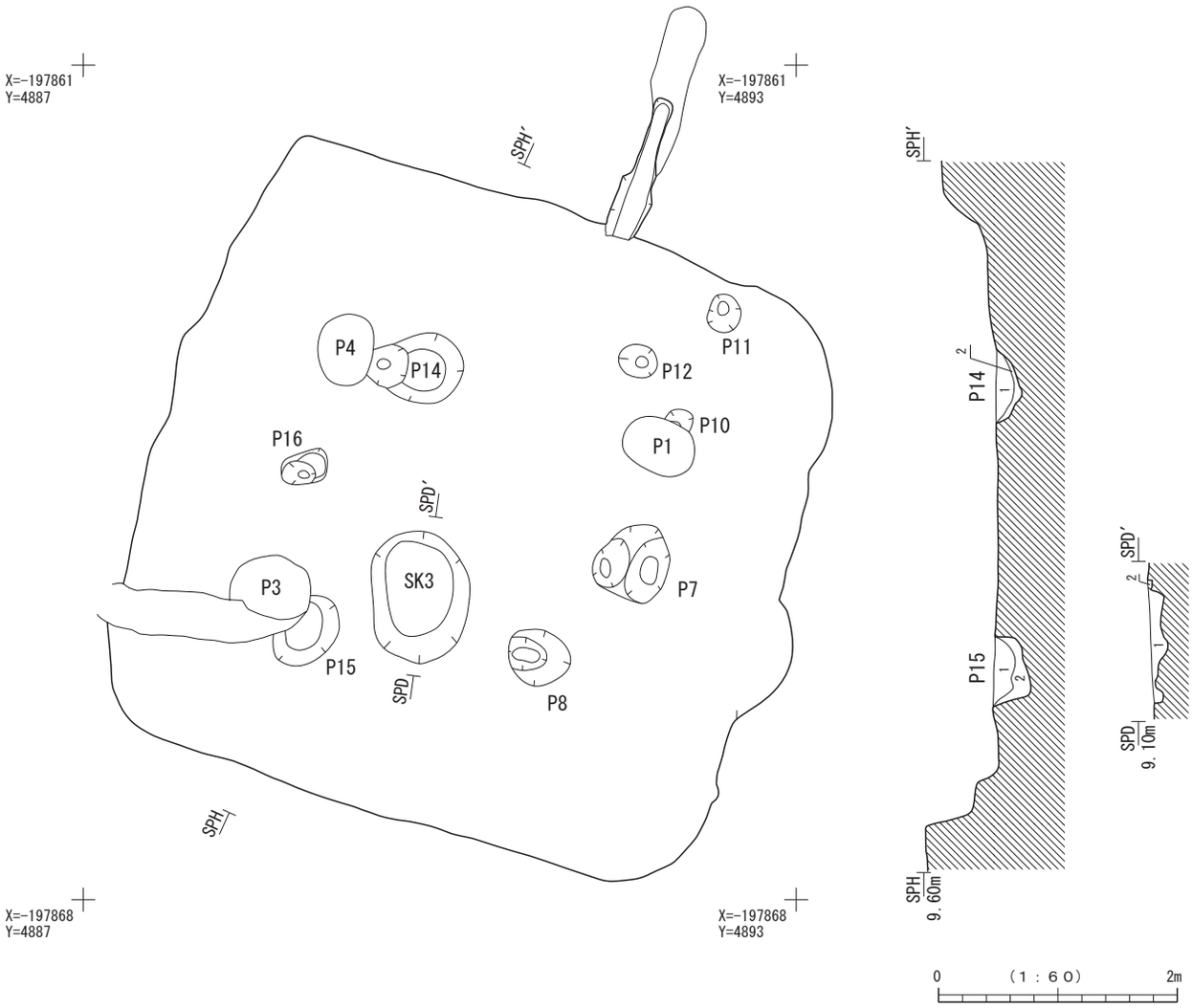



第138図　SI32竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | E-008 | SI32 | 埋土 | 須恵器 | 蓋 | (12.6)×-×4.8 | ﾛｸﾛ調整、天井部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ、擬宝珠状ﾂﾏﾐ | ﾛｸﾛ調整 | | 59 |
| 2 | E-010 | SI32 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (10.2)×-×(2.8) | ﾛｸﾛ調整、体部下端～回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 59 |
| 3 | E-009 | SI32 | 床面 | 須恵器 | 坏 | -×6.5×(2.4) | ﾛｸﾛ調整、底部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 59 |
| 4 | D-01 | SI32 | 埋土 | ﾛｸﾛ土師器 | 坏 | (14.4)×7.3×3.1 | ﾛｸﾛ調整、体部下端ﾍﾗｹｽﾞﾘ、底部回転糸切り | ﾛｸﾛ調整→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 5 | E-007 | SI32 | 埋土 | 須恵器 | 壺 | (11.0)×-×(12.7) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整 | 内外面一部に自然釉、長頸壺 | 59 |




第139図　SI33竪穴住居跡(1)




第140図　SI33竪穴住居跡(2)

SI33　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 3 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土小ブロック少量含む |
| カマド | 5 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックをやや多く含む、灰を少量含む |
| | 6 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックをやや多く含む |
| 煙道(新) | 7 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土炭化物粒を少量含む　　崩落土 |
| | 8 | 10YR3/1　黒褐色 | シルト | 炭化物粒を多量含む　　崩落土 |
| | 9 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物ブロックを少量、地山ブロックをやや多く含む　　崩落土 |
| | 10 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒を多量、地山ブロックを微量含む　　崩落土 |
| 周溝 | 11 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を微量含む |
| カマド・ソデ | 12 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを少量含む |
| | 13 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 焼土、炭化物ブロックをやや多く含む |
| | 14 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土、炭化物ブロックを多く含む |
| 掘り方 | 15 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを密に含む |
| 貼床(新) | 16 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 部分的に地山ブロックを多く含む、炭化物粒を少量含む |
| 掘り方 | 17 | 5YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト(焼土ブロック層) | 細層の互層・旧のカマド内かき出し層 |
| | | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | | 10YR1.7/1　黒色 | シルト | |
| 煙道(古) | 18 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密、崩落焼壁を多く含む　　崩落土 |
| | 19 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密、崩落焼壁を多く含む　　崩落土 |
| | 20 | 10YR3/1　黒褐色 | シルト | 炭化物ブロックを密に含む　　崩落土 |
| 掘り方(旧) | 21 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | |
| | 22 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを全体に少量含む |
| | 23 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | 地山ブロックを密に含む |

SI33　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒・焼土粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量、焼土粒を微量含む |
| P3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 地山ブロックを密に含む |
| P4 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 地山ブロックを微量含む |
| | 3 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |
| P5 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多量含む |
| P6 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | |
| P7 | 1 | 10YR4/2　灰黄褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒をやや多く含む、平面図にはない |
| P8 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量含む |
| P9 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |
| P10 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| P11 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む |
| P12 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む |
| P13 | 1 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 暗褐色シルトブロックを少量含む |
| P14 | 1 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックをやや多く、炭粒を少量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| P15 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| P16 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物粒を少量含む |
| P17 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| 壁柱1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状炭化物・焼土が少し混入 |
| 壁柱2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状炭化物・焼土が少し混入 |
| SK1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロック・φ2cm内の焼土ブロックを密に含む、炭化物ブロックを少量含む、人為埋土とみられる |
| SK2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む |
| SK3 | 1 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを少量含む |
| | 2 | 7.5YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の焼土ブロックを密、炭化物粒（人為堆積土）を少量含む |

SI33　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 43×41 | 32.7 | |
| P2 | 円形 | 45×46 | 39.9 | |
| P3 | 円形 | 67×(55) | 72.5 | |
| P4 | 楕円形 | 60×47 | 60.6 | |
| P5 | 円形 | 23×19 | 9.6 | |
| P6 | 円形 | 53×50 | 12.3 | |
| P7 | 楕円形 | 62×64 | 15.2 | |
| P8 | 円形 | 55×47 | 34.3 | |
| P9 | 円形 | 40×33 | 26.8 | |
| P10 | 楕円形 | 22×(12) | 44.7 | |
| P11 | 円形 | 31×28 | 26.7 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P12 | 円形 | 33×28 | 29.2 | |
| P13 | 円形 | 34×31 | 24 | |
| P14 | 楕円形 | (45)×57 | 21.9 | |
| P15 | 楕円形 | 65×(33) | 26.3 | |
| P16 | 楕円形 | 41×27 | 15 | |
| P17 | 楕円形 | (33)×37 | 41.6 | |
| 壁柱1 | 楕円形 | 20×17 | 49 | |
| 壁柱2 | 楕円形 | 26×18 | 52.9 | |
| SK1 | 方形 | 69×64 | 24.2 | |
| SK2 | 円形 | 90×82 | 4 | |
| SK3 | 楕円形 | 110×81 | 15.5 | |

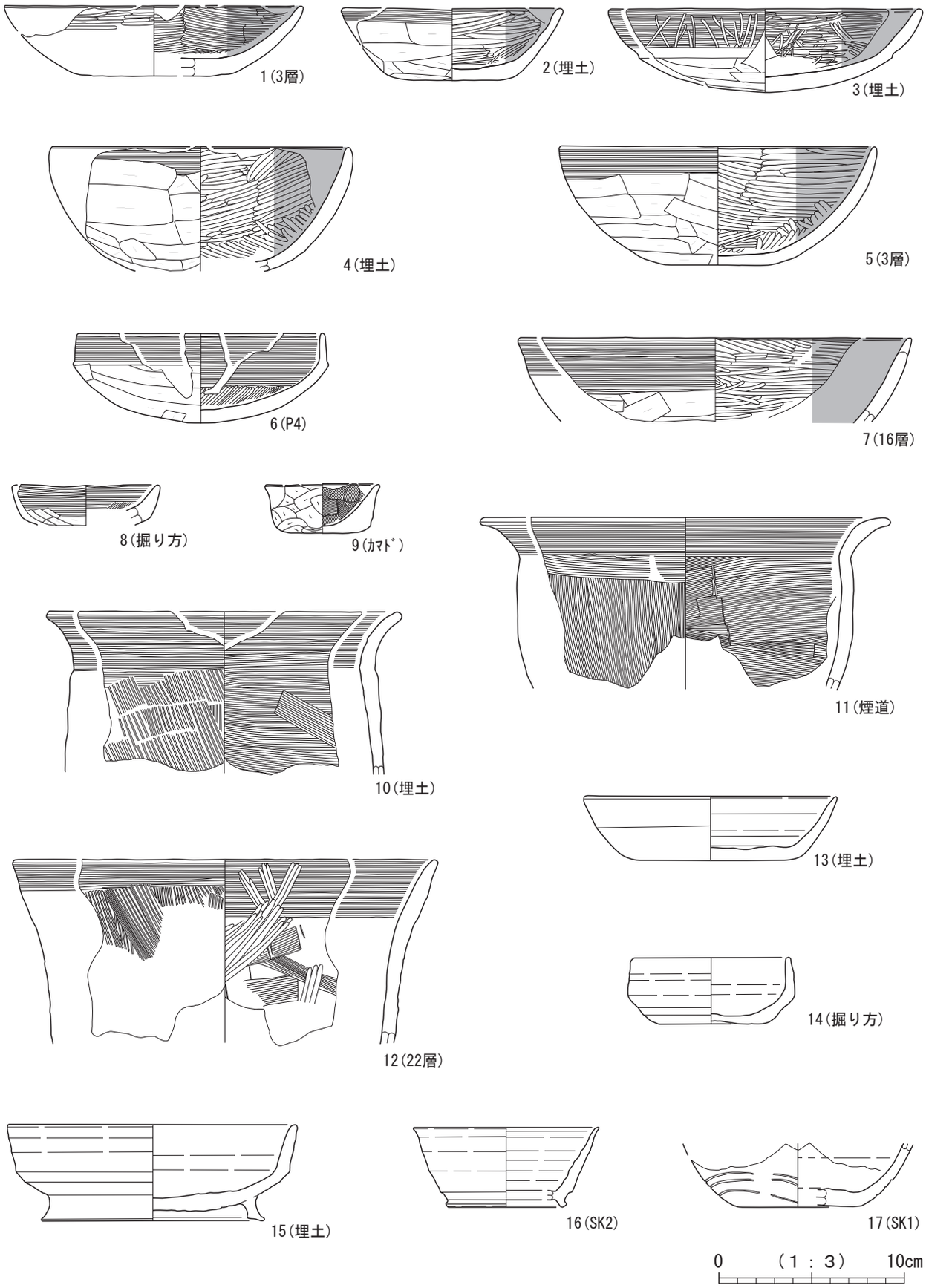
された。溝の幅は30cm、長さは３ｍである。屋内空間の区画に関係する施設とも考えられる。

［柱穴］　13基が確認された。内、Ｐ１～Ｐ４が建替え後の主柱穴にあたり、床面下より検出されたＰ14、Ｐ15が建替え前の柱穴と考えられる。断面の状況などとあわせて、カマドの位置および東側の壁面と柱穴の平面位置を保ったまま、西側へ向かって床面の拡張が行なわれたものと推定できる。建替え前の柱間は一辺が2.4ｍで、建替え後は柱間寸法が、主軸方向2.4m、直行方向３ｍとなる。

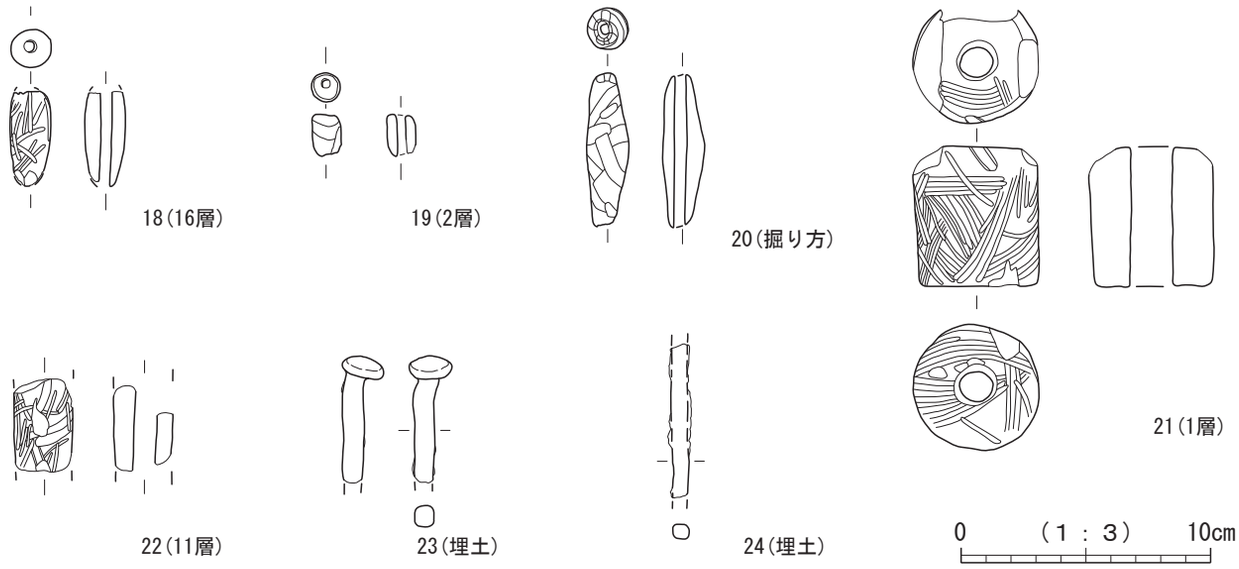
［周溝］　カマドの周囲を除いて全周し、北側では壁面よりやや離れる。幅は20cm～24cm、北側の一部で30cm。深さは、北側で最も浅く11.2cm、対し南側が最も深く17.7cmとなる。また、上述した区画溝が、西側の中程から周溝に直行する形で東へ向かって伸びている。

［カマド・煙道］　北辺の中央よりやや東よりに位置し、建替えの前後でも位置を共有している。袖は八の字状に外反しており、外幅最大値は126cm、奥行き64cm程である。カマドの底面は住居床面より僅かに低くなる。建替え前の煙道は、先端部へ向かってやや下へ傾斜しており、深さ21cm～42.6cm、長さは116cm、幅が32cmである。建替え後の煙道の幅は変わらず32cmだが、長さが196cmまで延長され、平面も先端がやや高くなり、深さ26.1cm～29.5cmとなっている。カマド前庭部には、広範囲に焼土の分布が認められた。

［その他の施設］　床面上からは、焼土をブロック状に含むSK１と皿状の落ち込みであるSK２が、床面下からは浅い皿状のSK３が検出された。




第141図　SI33竪穴住居跡出土遺物(1)




第142図　SI33竪穴住居跡出土遺物(2)

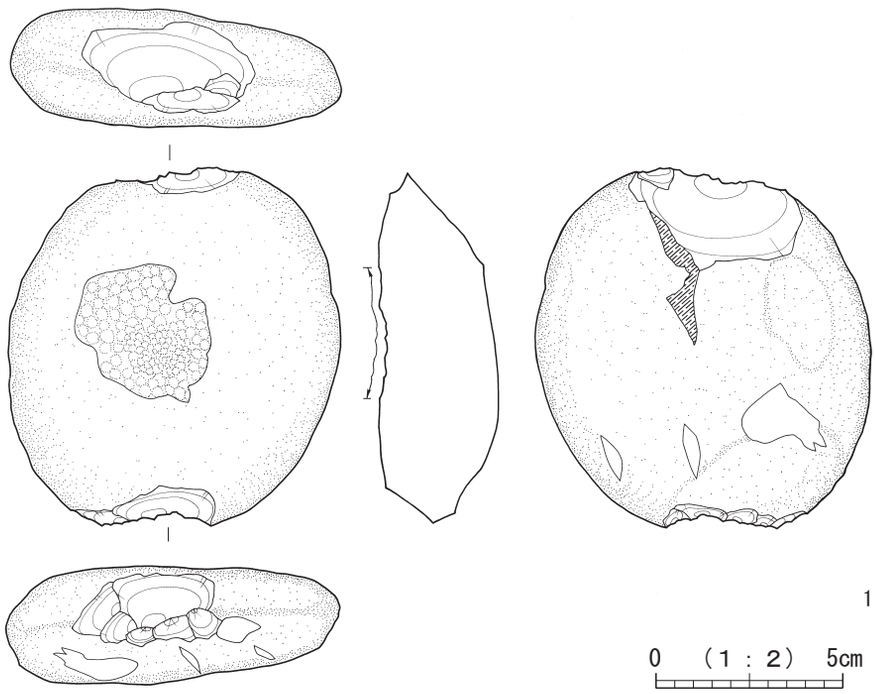
| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-084 | SI33 | 3層 | 土師器 | 坏 | (16.0)×-×3.8 | 口縁部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部～底部磨耗 | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 2 | C-086 | SI33 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (11.8)×(4.6)×3.9 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 3 | C-089 | SI33 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (16.8)×-×4.5 | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 59 |
| 4 | C-091 | SI33 | 埋土 | 土師器 | 椀 | (16.0)×-×(6.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 60 |
| 5 | C-093 | SI33 | 3層 | 土師器 | 坏 | (17.0)×(5.6)×6.4 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 60 |
| 6 | C-096 | SI33 | P4 | 土師器 | 坏 | (13.2)×-×4.8 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 60 |
| 7 | C-098 | SI33 | 16層 | 土師器 | 坏 | (21.2)×-×(4.5) | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 60 |
| 8 | C-092 | SI33 | 掘り方 | 土師器 | ﾐﾆﾁｭｱ | (8.0)×-×(2.2) | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾅﾃﾞ | | 60 |
| 9 | C-088 | SI33 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | ﾐﾆﾁｭｱ | (6.0)×(3.6)×2.7 | 口縁部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 60 |
| 10 | C-094 | SI33 | 埋土 | 土師器 | 甕 | (18.8)×-×(8.7) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 60 |
| 11 | C-097 | SI33 | 煙道 | 土師器 | 甕 | (21.6)×-×(9.3) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 60 |
| 12 | C-099 | SI33 | 22層 | 土師器 | 甑 | (22.6)×-×(9.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 60 |
| 13 | E-107 | SI33 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (13.8)×(8.2)×3.5 | ﾛｸﾛ調整、体部下端～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 60 |
| 14 | E-015 | SI33 | 掘り方 | 須恵器 | 坏 | (8.4)×(6.0)×3.6 | ﾛｸﾛ調整、体部下端～底部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | | 60 |
| 15 | E-011 | SI33 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (15.8)×(11.8)×5.2 | ﾛｸﾛ調整、体部下端～底部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ、貼付高台 | ﾛｸﾛ調整 | 高台 | 60 |
| 16 | E-014 | SI33 | SK2 | 須恵器 | 椀 | (10.0)×(6.2)×4.3 | ﾛｸﾛ調整、貼付高台 | ﾛｸﾛ調整 | 外面自然釉、高台 | 60 |
| 17 | E-013 | SI33 | SK1 | 須恵器 | 壺 | -×(6.8)×(3.4) | ﾛｸﾛ調整、体部下端沈線3条、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ﾛｸﾛ調整 | 内外面一部に自然釉 | 60 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | P-28 | SI33 | 16層 | 土製品 | 土錘 | (3.8)×径1.6×孔径0.5 | 8.9 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、黒色 | 60 |
| 19 | P-29 | SI33 | 2層 | 土製品 | 土錘 | 1.7×径1.2×孔径0.4 | 2.4 | ナデ、赤彩 | 60 |
| 20 | P-30 | SI33 | 掘り方 | 土製品 | 土錘 | 6.0×径1.7×孔径0.5 | 12.0 | ナデ、指頭圧痕、黒色 | 60 |
| 21 | P-32 | SI33 | 1層 | 土製品 | 土錘 | 5.6×径5.0×孔径1.6 | 169.9 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、黒色 | 60 |
| 22 | P-31 | SI33 | 11層 | 土製品 | 土錘 | (3.7)×径2.4×孔径0.9 | 19.0 | ナデ→ﾐｶﾞｷ、黒色 | 60 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | N-08 | SI33 | 埋土 | 鉄製品 | 釘？ | 残存長5.1、幅1.7、厚1.7cm | 60 |
| 24 | N-09 | SI33 | 埋土 | 鉄製品 | 釘？ | 残存長6.2、幅0.6、厚0.6cm | 60 |

［掘り方］　カマドの周囲を舌状に残す形で特に南側をやや深く掘りこんでいる。底面の高低差は７～８cm程度である。

［出土遺物］　土師器の坏７点、ミニチュア土器２点、甕２点、甑１点、須恵器坏４点、土錘５点、石錘１点、鉄製品２点を掲載した。土師器の１、２は平底から外傾して口唇部にいたる。３は体部と底部の境目に稜をもつ。４・５・７は見込みの深い椀である。４のみ口唇部で直立する。６は丸底から直立する口唇部に至る。８・９はミニチュア土器である。10は長胴甕、12は甑である。須恵器坏、13・14・15はほぼ同時期である。16は湖西の吉美中村遺跡、青平２号窯出土の高台付椀に酷似する。土錘は21が管状土錘である。




第143図　SI33竪穴住居跡出土遺物(3)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-020 | SI33 | 埋土 | 3A | 石製品 | 石錘 | ― | 9.4×8.8×3.2 | 205.51 | 凝灰岩 | 完形品、円礫、凹一面(単)深さ(深)、長軸に二次加工あり | 60 |

SI34　竪穴住居跡（第144図）

［位置・確認面］　３Ａ区南半、調査区東側の撹乱に沿って大部分を破壊された形で検出された。

［重複］　SI42を切る。

［規模・形態］　南北3.6m、東西0.6mを残存する。平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。

［方向］　主軸方位は西辺を基準として、N-8°－Eである。

［堆積土・構築土］　埋土を２層に分層することが出来たが、詳細は不明である。

［壁面］　残存部では20.3cm～24.2cm。やや急角度に立ち上がるものと見られる。

［出土遺物］　掲載した遺物はない。

SI35　竪穴住居跡（第145図）

［位置・確認面］　３Ａ区南端、２Ｂ区との調査区境でSI２と重複する形で、わずかに掘り方面のみが検出された。

［重複］　SI２を切る。

［規模・形態］　方形を呈するものと推定される。

［方向］　主軸方位は、N-33°-Wである。

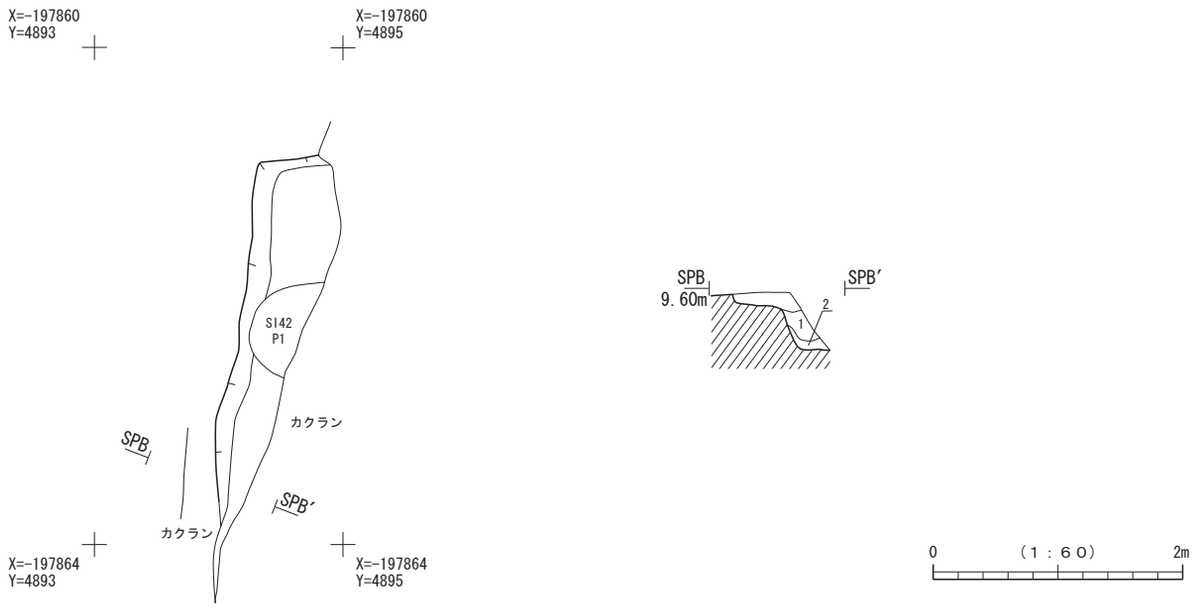
［堆積土・構築土］　１～７層に分層した。１～５層はカマド煙道内で認められたもので、特に２層には被熱した土が混入している。６・７層は住居掘り方の埋土にあたるものと考えられる。床面以上は失われていた。

［壁面］　床面が既に失われているため、詳細は不明である。

［カマド・煙道］　西側に煙道部分のみが検出された。煙道の残存長は84cm、幅30cm、深さは10cmで一部天井部が遺存していた。

［掘り方］　掘り方の上位にいたるまでが既に削平を受けたものと考えられる。壁面の残存高は９～17cmほどである。

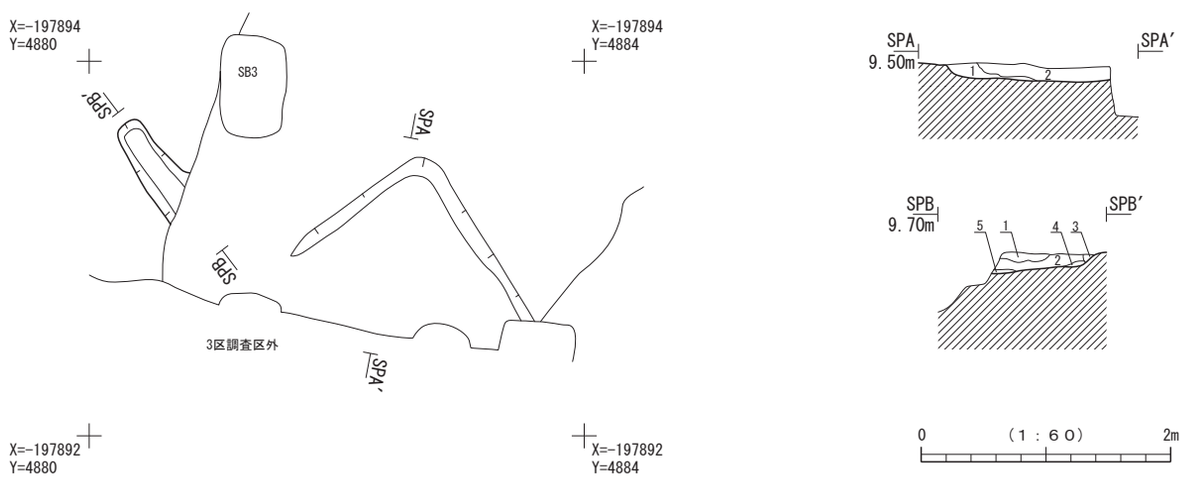
［出土遺物］　掲載した遺物はない。




第144図　SI34竪穴住居跡

SI34　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | 地山ブロックを少量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 1層土ブロック混 |




第145図　SI35竪穴住居跡

SI35　埋土註記表

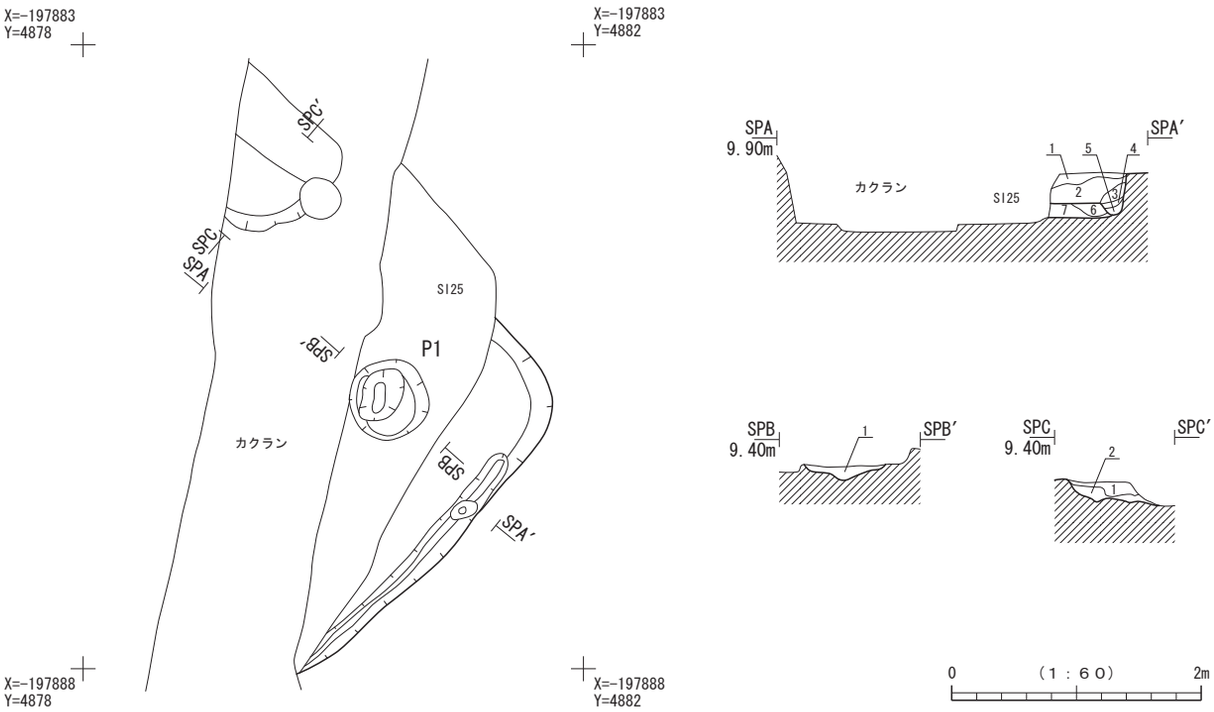
| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 2.5YR4/4　にぶい赤褐色 | 砂質シルト | 10YR3/2黒褐色ブロック状に混入 |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 5YR3/2暗赤褐色焼成面崩落土混入 |
| | 3 | 10YR2/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 4 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | |
| | 5 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | 上層部焼成面7.5YR3/2黒褐色 |
| 掘り方 | 6 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 10YR4/2灰黄褐色ブロック混入 |
| | 7 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | |

## SI36　竪穴住居跡（第146図）

［位置・確認面］　３Ａ区南端の西壁沿いで、東側のコーナー付近のみを確認した。

［重複］　SI25に切られる。

［規模・形態］　残存部は南北3.35ｍ、東西３ｍで、平面形は隅丸方形と推定できる。




第146図　SI36竪穴住居跡

SI36　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 地山土を粒状に少量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | |
| | 5 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | |
| 掘り方 | 6 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多く含む |
| | 7 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | 暗褐色砂質シルトブロックを少量含む |

SI36　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | φ2cm内の地山ブロックを多量含む |
| SK1 | 1 | 10YR2/3　黒褐色 | 砂質シルト | φ3cm内の地山ブロック・φ1cm内の焼土ブロック・炭化物ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 地山ブロックを少量含む |

SI36　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 63×62 | 13 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | - | 69×60 | 20 | |

［方向］　主軸方位は、東辺を基準としてN-42°-Eである。

［堆積土・構築土］　1～7層に分層した。1～3層は住居埋土、4・5層は周溝内にのみ認められる層である。6・7層は掘り方の埋土にあたる。

［壁面］　良好な部分で25cm前後残存する。主にⅣ層を壁面とし、ほぼ垂直に立ち上がる。

［床面］　大部分がSI25の掘り方によって破壊されており、僅かに東辺の一部が残るのみである。

［柱穴］　SI25の掘り方底面より検出されたP1は位置関係などから、SI36の東側主柱穴に当たるものと考えられる。

［周溝］　東側で幅7～19cm、深さ6cm。北側で幅8～11cm、深さ10cmで、溝の底面には小規模なピットも認められた。

［その他の施設］　検出部北辺で確認されたSK1は、埋土に焼土を含んでおり、位置関係からも、あるいはカマドの一部かその付帯施設となる可能性もある。

［掘り方］　床面同様、SI25によって大部分が失われており、明確ではない。

［出土遺物］　掲載した遺物はない。

SI37　竪穴住居跡（第147～148図）

［位置・確認面］３Ａ区南半部、東側の撹乱に沿うかたちで、ほぼ完全な平面形を確認した。

［重複］　SI34に切られ、SI42とSI46を切る。カマドや柱穴などの状況から、建て替えが行なわれた可能性を指摘できる。

［規模・形態］　一辺約5.1ｍの正方形に近い隅丸方形を呈し、面積は、約26.1㎡となる。

［方向］　主軸方位はN-18°-Eであり、SI33とほぼ同軸線上に乗る。

［堆積土・構築土］　計24層に分層した。１～６層は住居埋土にあたる。３層以上は、堆積時期が異なるものと見られ、特に２層は焼土が投げ込まれている可能性も指摘できる。７～11層はカマド埋土。12～18層は新しい煙道に伴うものである。19層は周溝内の埋土。20層はカマドの構築土にあたる。21層～24層は掘り方埋土であり、特に22層については貼床と考えることが出来る。建替え前の床面等は、建替え時点で除去されたものと考えられる。

［壁面］　Ⅳ層中に構築されており、最も遺存状態のよい西側で39.1cm、対し上位が失われている東側では13.6cmで、全体では、概ね30cm程度が残存し、外側に向かってやや緩やかに立ち上がる。

［床面］　22層上面が床面と考えられる。

［柱穴］　全部で12のピットが確認されており、この内、位置がほぼ重複するＰ１～Ｐ６･Ｐ11が新旧の主柱穴と考えられる。切り合い関係から、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ５、Ｐ11が建て替え前、Ｐ１、Ｐ３、Ｐ４、Ｐ６が建て替え後のものに当たると推定できようか。柱間は建替えの前後ともに2.4ｍ前後となる。南西コーナーのＰ８～Ｐ10は周溝の底面で検出された壁柱穴である。特に西壁沿いではＰ8を含む３基の壁柱穴が1.8ｍの等間隔で検出された。

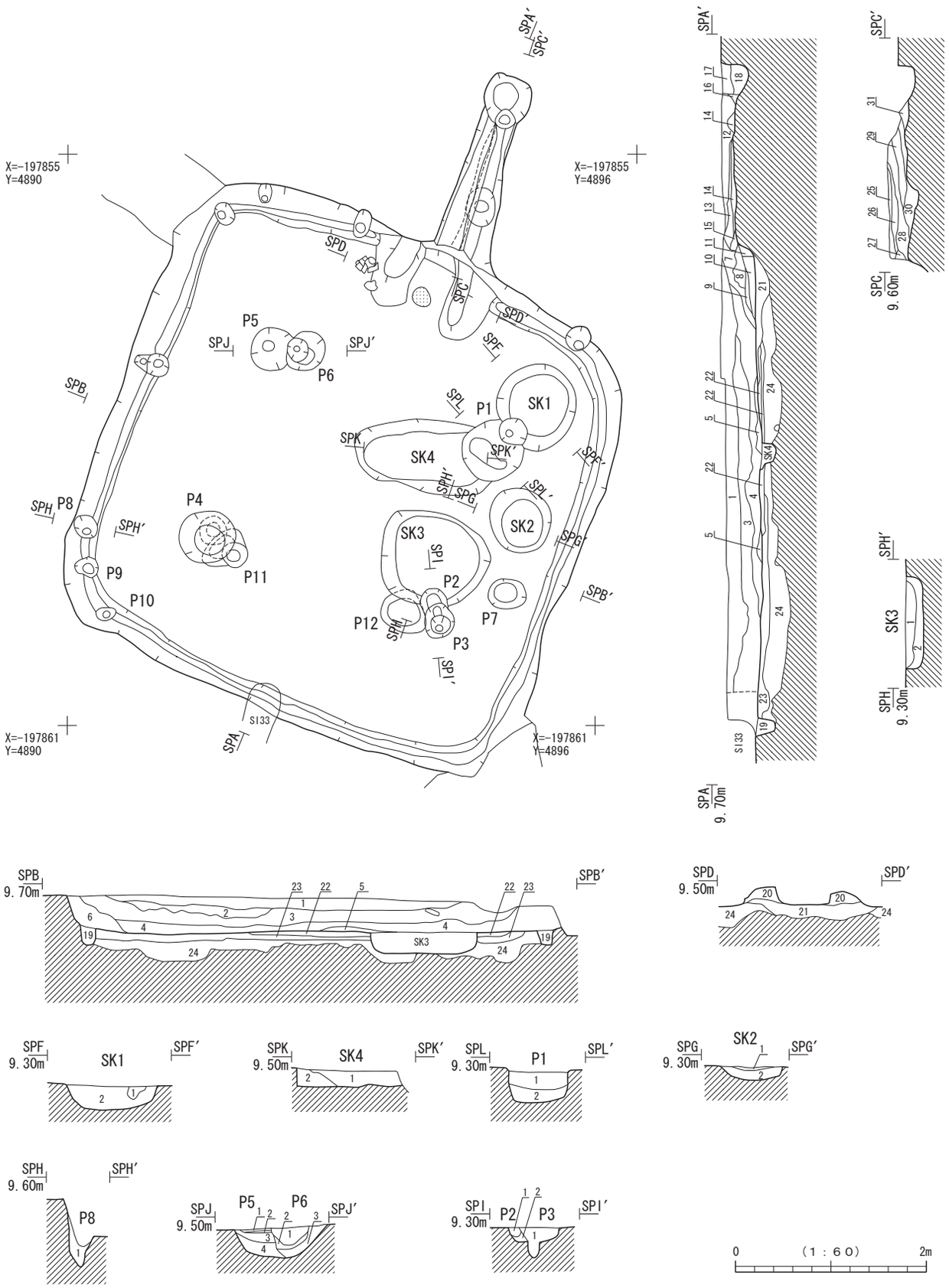
［周溝］　全周しており、北側と西側の底面には規則的に並ぶ柱穴を有する。幅は13cm～16cm、深さは8.5cm～13.2cmである。

［カマド・煙道］　カマドは北辺のほぼ中央に設けられており、袖は壁に対し内側に向かって垂直に伸びる。外幅は117cm、奥行き80cmであり、燃焼部には住居床面との高低差はない。煙道にも造り替えが認められ、造り替え前のものは、長さ170cm、幅23cm、深さ25.2cm～32.4cmで、底面は先端部に向かって高くなっており、中程がピット状に窪んでいる。造り替え後のものは、長さ190cm、幅27cm、底面は水平で、深さは13.8cm～31.2cmとなる。先端部はピット状に窪む。

［その他の施設］　SK１～SK４が確認された。住居の東側に集中しており、いずれも、埋土中に焼土・炭化物等を含む。灰溜めと考えられようか。

［掘り方］　竪穴中央部、カマド付近を舌状に残し、周辺を掘り下げている。底面の最大落差は８cm～９cm程度である。

［出土遺物］　土師器坏４点、須恵器坏１点、盤１点、瓶１点、坏蓋１点、土錘１点、刀子２点、棒状鉄製品２点、鎌２点を掲載した。１は、体部と底部の境目に稜を有す。３は、体部と底部の境目に段を有す。２･４は丸底の底部から緩やかに外反する口唇部にいたる。５は、底部調整が回転糸切り無整形の坏である。６は高台付盤である。８はカエリが退化し外側に出た蓋である。




第147図　SI37竪穴住居跡

SI37　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/1　黒褐色 | シルト | 10YR4/3にぶい黄褐色ブロック混 |
| | 2 | 5YR3/1　黒褐色 | シルト | 焼土混層、炭化物混入 |
| | 3 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/3にぶい黄褐色ブロック混 |
| | 4 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | 5YR3/1黒褐色焼土粒、炭化物粒混 |
| | 5 | 10YR3/1　黒褐色 | シルト | 炭化物ブロック混 |
| | 6 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/3にぶい黄褐色ブロック混、5YR3/1焼土粒、2.5YR4/6焼土ブロック混、炭化物粒混 |
| カマド | 7 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | |
| | 8 | 10YR4/2　灰黄褐色 | 砂質シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混 |
| | 9 | 2.5YR2/2　極暗赤褐色 | 焼土層 | |
| | 10 | 2.5YR3/1　暗赤灰色 | | 2.5YR4/4にぶい赤褐色焼土粒、炭化物粒、斑状混入 |
| | 11 | 2.5YR3/1　暗赤灰色 | | 10YR5/3ブロック層、2.5YR4/4焼土粒、炭化物粒混 |
| カマド煙道 | 12 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/3にぶい黄褐色ブロック混 |
| | 13 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 焼成硬化面崩落土層 |
| | 14 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | 地山ブロック混 |
| | 15 | 2.5YR3/1　暗赤灰色 | シルト | 2.5YR4/4にぶい赤褐色焼土、焼土混層 |
| | 16 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒混 |
| | 17 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物粒混 |
| | 18 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR2/1黒ブロック層炭混入 |
| 周溝 | 19 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR3/2黒褐色が粒状に混入 |
| カマド・ソデ | 20 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多く含む |
| 掘り方 | 21 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロックを多く含む　炭化物を一部層状にはさむ |
| | 22 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 暗褐シルト小ブロックを少量含む |
| | 23 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 炭化物、焼土粒を少量含む　下面の一部に炭化物層をはさむ |
| | 24 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 暗褐ブロックを多く含む |
| カマド煙道(古) | 25 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 2.5YR2/2極暗赤褐焼土ブロック混 |
| | 26 | 5YR2/3　極暗赤褐色 | 焼成赤変 | |
| | 27 | 2.5YR2/2　極暗赤褐色 | 焼土 | 2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック混 |
| | 28 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 炭化物粒混、2.5YR2/2極暗赤褐焼土ブロック混 |
| | 29 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 5YR2/3黒褐色、焼成崩落土ブロック混 |
| | 30 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 5YR2/3黒褐色、焼成崩落土混 |
| | 31 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 焼土粒、炭化物粒混 |

SI37　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 微小地山ブロックを密に含む、炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 2 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 黒褐色シルトブロック、炭化物粒を少量含む |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土の粒を含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | ブロック状に10YR4/3が混入 |
| P3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 部分的に粒状炭化物が混入 |
| P4 | - | - | - | |
| P5 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物混入 |
| | 2 | 10YR2/3　黒褐色 | シルト | 焼土を少し含む |
| | 3 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | ブロック状に地山を含む |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックが混入、炭化物が一部混入 |
| P6 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 粒状の炭化物が混入 |
| | 2 | 10YR1.7/1　黒色 | 炭化物層 | |
| | 3 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | |
| P7 | - | - | - | |
| P8 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| P9 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 部分的に焼土・炭化物が粒状に混入 |
| P10 | 1 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 10YR4/2が部分的に混入 |
| P11 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを多量含む |
| P12 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを多量含む |
| 壁柱1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、地山小ブロックが少し含む |
| 壁柱2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、地山小ブロックが少し含む、地山がやや多め |
| 壁柱3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、地山小ブロックが少し含む、地山がやや多め |
| 壁柱4 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、地山小ブロックが少し含む |
| 壁柱5 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、地山小ブロックが少し含む |
| SK1 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | ブロック状の焼土多く混入、粒状の炭化物も含む |
| SK2 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | |
| | 2 | 10YR2/2　黒褐色 | シルト | ブロック状の焼土・炭化物を多数含む |
| SK3 | 1 | 7.5YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロックを多量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | 地山小ブロックを多く含む |
| SK4 | 1 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックをやや多く、焼土・炭化物粒を少量含む |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質土 | 地山ブロックをやや多く、焼土・炭化物粒を多量含む |

SI37 施設観察表(1)

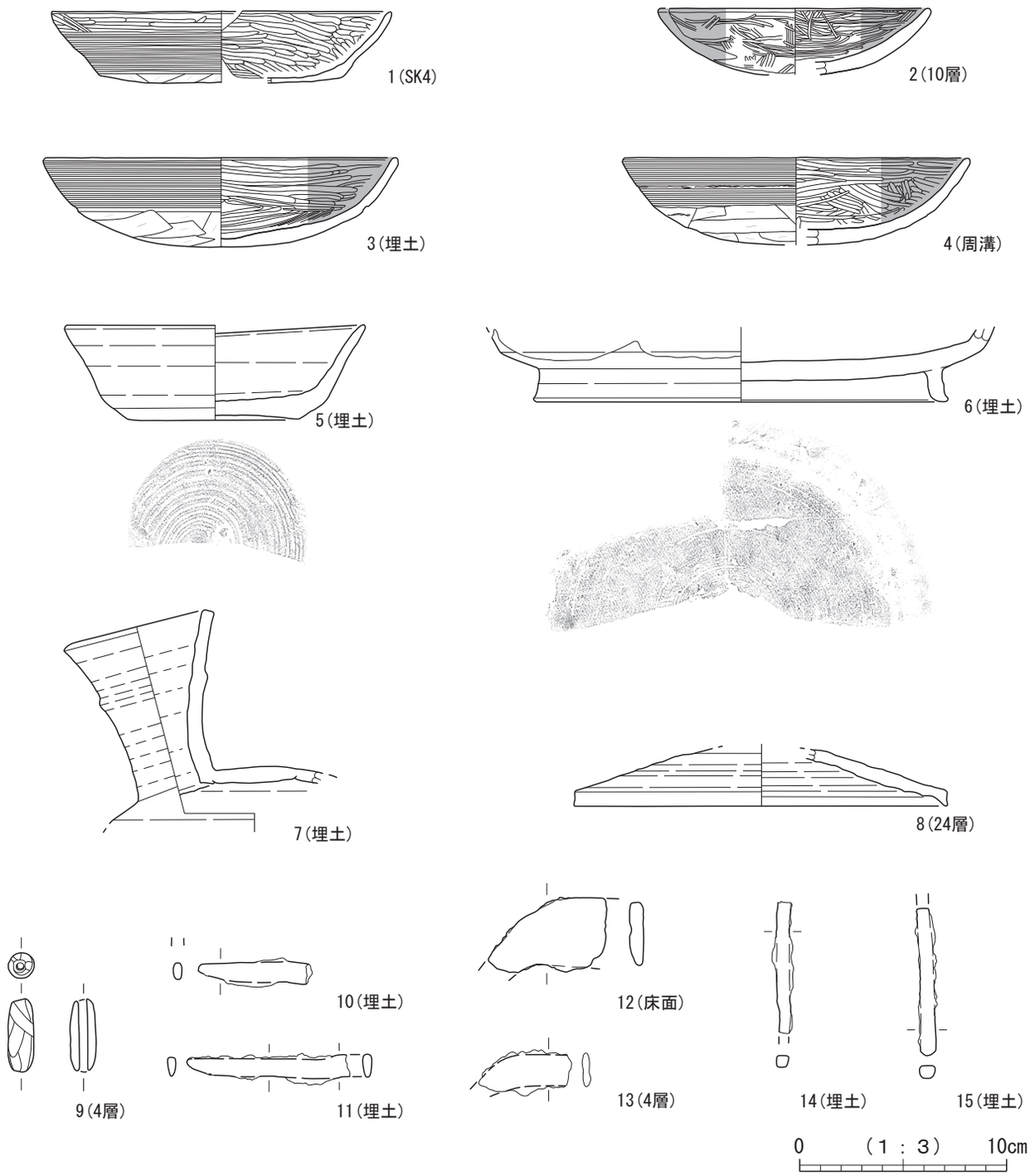
| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 円形 | 66×67 | 39.2 | |
| P2 | 楕円形 | 27×(17) | 19.4 | |
| P3 | 楕円形 | 36×31 | 53.4 | |
| P4 | 円形 | 60×54<br>柱痕跡30×27 | 34.1 | |
| P5 | 円形 | (38)×46 | 40.6 | |
| P6 | 円形 | 43×40 | 52.1 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P7 | 楕円形 | 40×32 | 28.4 | |
| P8 | 楕円形 | 28×22 | 41.3 | |
| P9 | 不整形 | 24×21 | 39.9 | |
| P10 | 楕円形 | 22×13 | 35.3 | |
| P11 | 不整形 | 49×41 | 29 | |
| P12 | 円形 | 44×40 | 34.2 | |
| 壁柱1 | 不整形 | 36×23 | 33.8 | |

SI37施設観察表(2)

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 壁柱2 | 楕円形 | 24×18 | 52.4 | |
| 壁柱3 | 楕円形 | 21×13 | 48.6 | |
| 壁柱4 | 楕円形 | 30×16 | 76.5 | |
| 壁柱5 | 円形 | 28×25 | 67 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 円形 | 90×84 | 33.6 | |
| SK2 | 円形 | 71×63 | 17.2 | |
| SK3 | 不整形 | 116×98 | 19.1 | |
| SK4 | 楕円形 | (112)×77 | 20.5 | |




第148図　SI37竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-102 | SI37 | SK4 | 土師器 | 坏 | (16.4)×-×(3.4) | 口縁部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾀｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 60 |
| 2 | C-103 | SI37 | 10層 | 土師器 | 坏 | (13.0)×-×(3.2) | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内外面黒色処理 | 60 |
| 3 | C-110 | SI37 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (17.0)×-×4.3 | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾀｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 60 |
| 4 | C-111 | SI37 | 周溝 | 土師器 | 坏 | (16.6)×-×4.2 | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾀｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 内面黒色処理 | 60 |
| 5 | E-016 | SI37 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (14.6)×8.2×4.6 | ﾛｸﾛ調整、体部下端回転ﾍﾗﾀｹｽﾞﾘ、底部回転糸切り | ﾛｸﾛ調整 | 外面自然釉 | 61 |
| 6 | E-017 | SI37 | 埋土 | 須恵器 | 盤 | -×(19.7)×(3.6) | ﾛｸﾛ調整、底部回転ﾍﾗﾀｹｽﾞﾘ、貼付高台 | ﾛｸﾛ調整 | 高台 | 61 |
| 7 | E-018 | SI37 | 埋土 | 須恵器 | 平瓶 | 6.6×-×(9.5) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整、孔埋め痕、ﾅﾃﾞ | 頸部外面自然釉 | 61 |
| 8 | E-019 | SI37 | 24層 | 須恵器 | 蓋 | (18.0)×-×(2.7) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整 | | 61 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | P-33 | SI37 | 4層 | 土製品 | 土錘 | 3.6×径1.3×孔径0.4 | 5.9 | ナデ、赤彩 | 61 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | N-15 | SI37 | 埋土 | 鉄製品 | 刀子 | 刃部、残存長6.0、幅1.0、厚0.5cm | 61 |
| 11 | N-14 | SI37 | 埋土 | 鉄製品 | 刀子 | 刃部、残存長7.9、幅0.9、厚0.5cm | 61 |
| 12 | N-12 | SI37 | 床面 | 鉄製品 | 鎌 | 曲刃鎌刃部、残存長5.2、幅3.3、厚0.7cm | 61 |
| 13 | N-13 | SI37 | 4層 | 鉄製品 | 鎌 | 曲刃鎌刃部、残存長4.2、幅1.5、厚0.4cm | 61 |
| 14 | N-10 | SI37 | 埋土 | 鉄製品 | 釘？ | 残存長6.3、幅0.7、厚0.6cm | 61 |
| 15 | N-11 | SI37 | 掘り方 | 鉄製品 | 釘？ | 残存長7.1、幅0.8、厚0.7cm | 61 |

## SI38　竪穴住居跡（第149～151図）

［位置・確認面］　３Ａ区のほぼ中央で確認された。

［規模・形態］　3.4m×3.3mのほぼ正方形に近い隅丸方形を呈する。

［方向］　主軸方位はN-39°-Wである。

［堆積土・構築土］　13層に分層した。この内、住居埋土は１層のみで、２・３層はカマドの燃焼部、４～６層はカマドの煙道内の埋土にあたる。８層と９層は周溝の埋土であり、９層については壁材の痕跡の可能性もある。10層はカマドの構築土で、７・11～13層は掘り方の埋土である。

［壁面］　主にⅣ層中を壁面とし、壁高は21cm～30cmが残存する。立ち上がりは外側へ向かって直線的に傾斜する。

［床面］　11層を床面とする。

［柱穴］　Ｐ１、Ｐ２を検出した。カマドの北側に位置するＰ１、北壁沿いのＰ２共に、埋土に多量の焼土を含む。

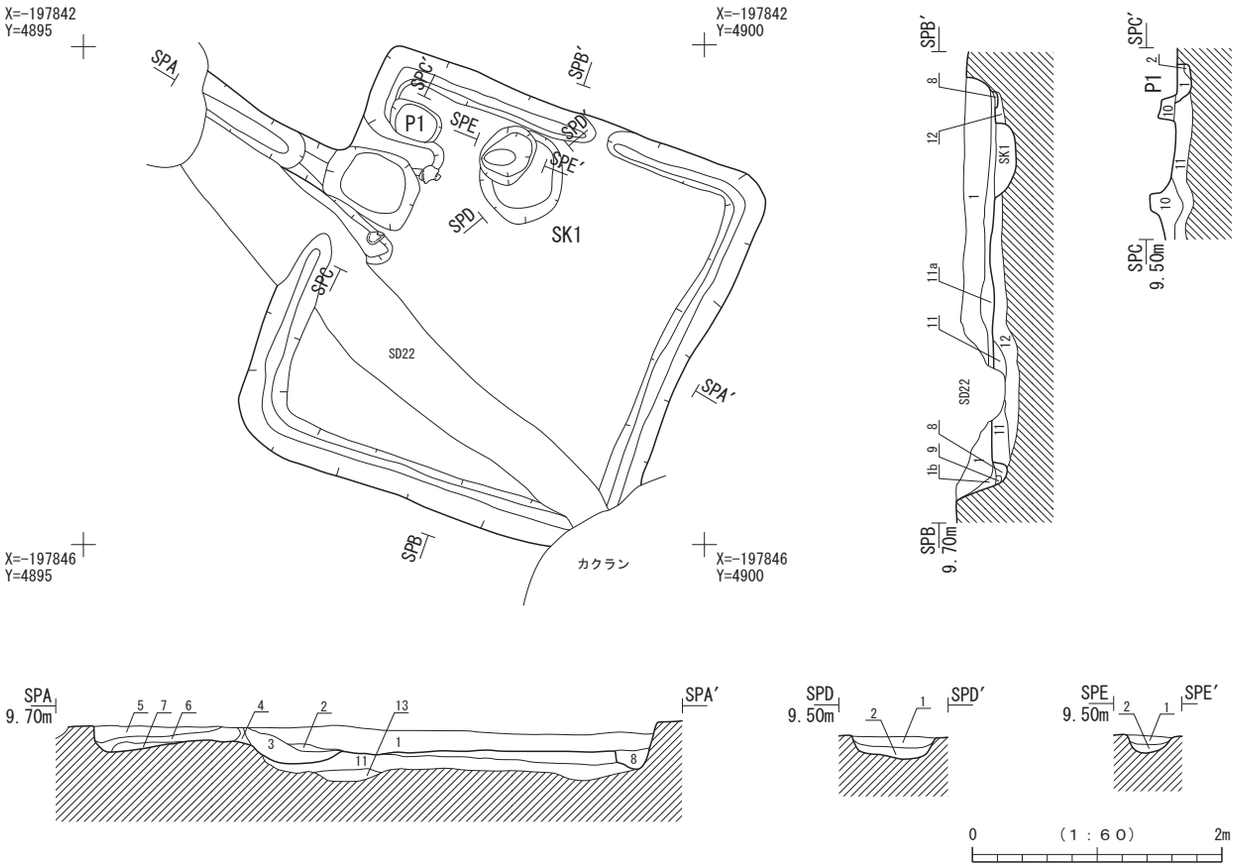
［周溝］　壁際をほぼ全周しているが、北側の１箇所が切れている。深さは、北辺では３cm前後、その他では５cm～14cmである。

［カマド・煙道］　西辺中央より北側で検出された。左側袖部がSD22によって失われているが、平面形は直線的に外側へ小さく開く形を呈し、右側に土器、左側に自然石が配される。煙道は先端部が撹乱を受けており、残存長122cm、幅27cmで、底面は先端へ向けて緩やかに低くなっており、深さ14cm～20cmを計る。

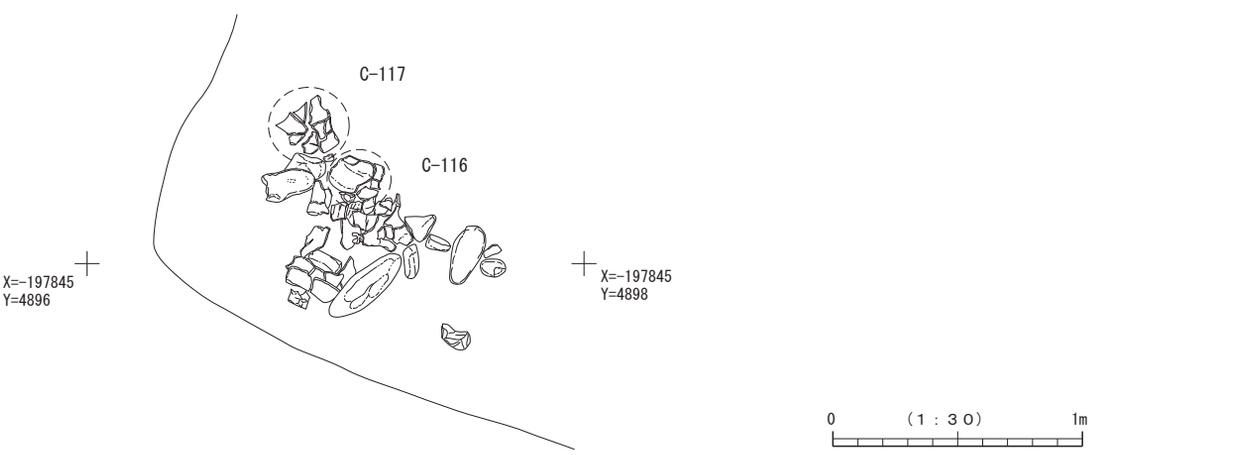
［その他の施設］　Ｐ２に切られる形の浅い掘り込みであるSK１が検出された。

［掘り方］　中央部を島状に残し周辺部を掘り窪めており、さらに北側が一段下がる形となっている。底面の落差は10cm前後である。

［出土遺物］　土師器坏１点、甕２点、須恵器鉢１点を掲載した。１は丸底から緩やかに立ち上がり、外反する口唇部にいたる。３は長胴甕で、外面は縦位のヘラ削りを施す。４は、須恵器のこね鉢である。




第149図　SI38竪穴住居跡(1)




第150図　SI38竪穴住居跡(2)

SI38　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色ブロック混 |
| カマド | 2 | 5YR3/2　暗赤褐色 | シルト | 焼土層、2.5YR4/4にぶい赤褐色焼土ブロック混 |
| | 3 | 7.5YR3/3　暗褐色 | | 2.5YR4/4焼土ブロック炭混層 |
| カマド煙道 | 4 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | シルト | 焼土粒混 |
| | 5 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | |
| | 6 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 5YR3/2黒褐色焼成崩落ブロック混 |
| 掘り方 | 7 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 10YR4/4褐色地山ブロック混入 |
| 周溝 | 8 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR5/4にぶい黄褐色斑状に混 |
| | 9 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 2a層のように10YR5/4にぶい黄褐色を含まない層、西～南壁側で周溝埋土のちがいがみられた |
| カマド・ソデ | 10 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 黒褐,地山ブロックを密に含む |
| 掘り方 | 11 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 地山ブロックを多く含む |
| | 12 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| | 13 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | |

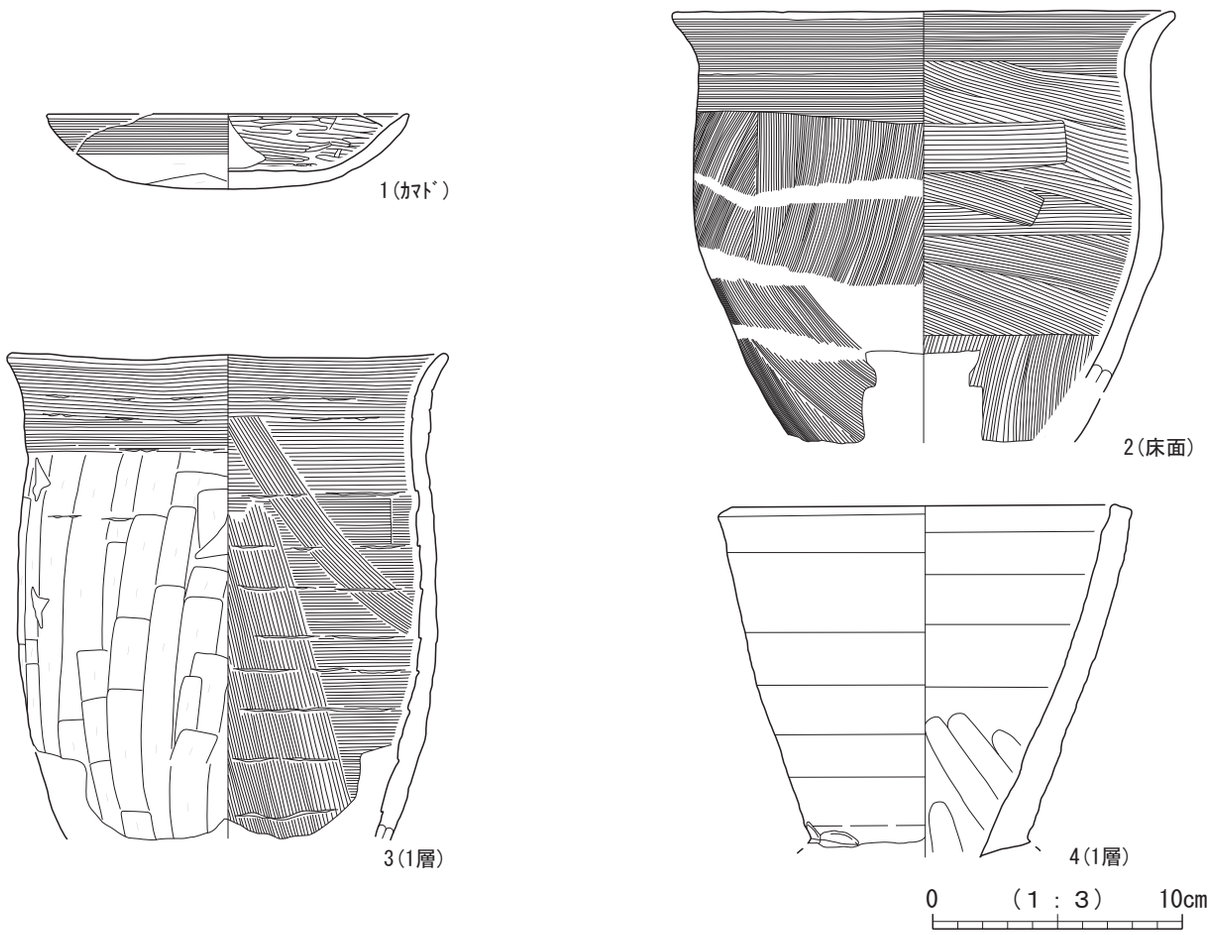
SI38　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 5YR3/2焼土混、炭化物・灰混入層 |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/4ブロック混 |
| P2 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 5YR4/6焼土混、5YR3/2焼土混、炭化物・灰混入層 |
| | 2 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/4ブロック混 |
| SK1 | 1 | 10YR3/2　黒褐色 | シルト | 10YR4/4褐色土混入 |
| | 2 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR3/2混入 |

SI38　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 楕円形 | 43×(30) | 11.6 | |
| P2 | 楕円形 | 50×37 | 18.3 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK1 | 円形 | 74×65 | 20 | |




第151図　SI38竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-112 | SI38 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 坏 | (14.4)×-×3.0 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 61 |
| 2 | C-116 | SI38 | 床面 | 土師器 | 甕 | (20.0)×-×(17.3) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾊｹﾒ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 61 |
| 3 | C-117 | SI38 | 1層 | 土師器 | 甕 | 17.4×-×(19.5) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 61 |
| 4 | E-020 | SI38 | 1層 | 須恵器 | 鉢 | 15.3×-×(14.1) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整、ﾅﾃﾞ | 高台欠損 | 61 |

SI39　竪穴住居跡（第152～153図）

［位置・確認面］　３Ａ区南半部で確認された。カマドを含む北半部はSI33、SI41によって破壊されている。

［重複］　SI33、SI41に切られる。

［規模・形態］　残存部は全体の1／2程度とみられ、長軸方向で4.28m、短軸2.5m。平面形は隅丸方形になるものと考えられる。

［方向］　東辺を基準にした主軸方位、N-43°-Eを向くと推定である。

［堆積土・構築土］　９層に分層した。１～４層は住居埋土で、５層は周溝内埋土。６～９層は掘り方の埋め土にあたる。８層・９層については別のプランとなる可能性もある。

［壁面］　Ⅳ層中を壁面とし、下半は外側へ向かって緩やかに広がるが、上半はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい西側で35.5cm、東側では22.1cmとなる。

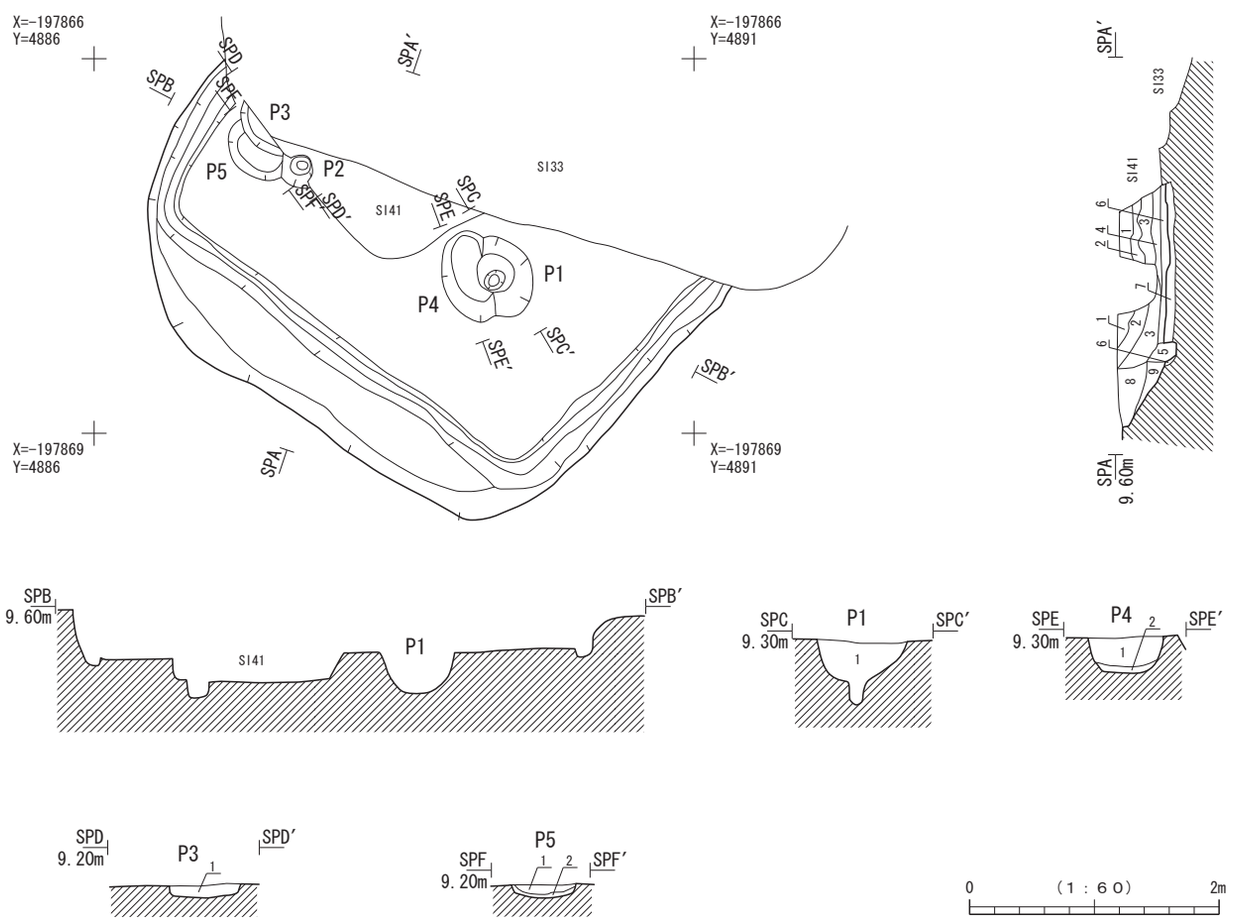
［床面］　６層上面を床面とする。

［柱穴］　Ｐ１～Ｐ５を検出した。Ｐ１、Ｐ２が主柱穴であると考えられる。Ｐ１底面には柱穴と見られる痕跡が認められた。

［周溝］　残存部では全周している。幅21cm～25cm、深さ５cm～8.9cmである。

［掘り方］　Ⅴ層に達するものとみられる。残存部の底面は、ほぼ平坦である。

［出土遺物］　土師器埦１点、須恵器坏１点、土錘１点を掲載した。




第152図　SI39竪穴住居跡

SI39　埋土註記表

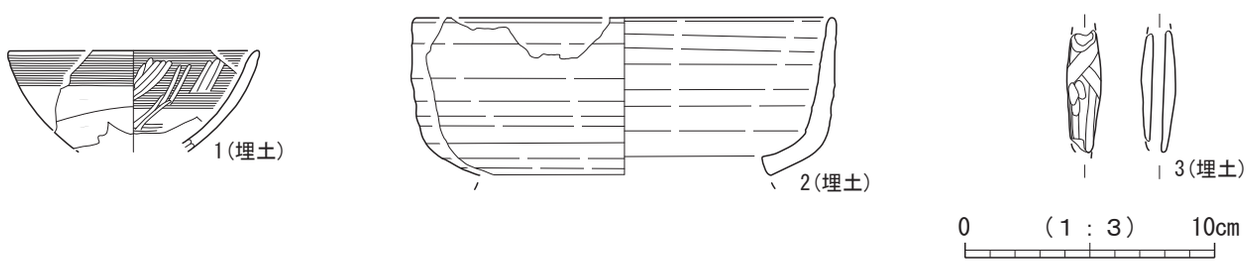
| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックをやや多く含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む |
| | 4 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多量含む |
| 周溝 | 5 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 10YR4/4褐色を粒状に含む |
| 掘り方 | 6 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR4/4褐色、地山を含む |
| | 7 | 10YR4/4　褐色 | シルト | 10YR3/4暗褐色をブロック状に含む |
| | 8 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂質シルト | 下半部地山ブロックをやや多く含む |
| | 9 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR2/3黒褐色シルトがやや混入 |

SI39　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 10YR4/4地山ブロックを含む、粒状炭化物が混入 |
| P2 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 10YR4/6をブロック状に含む、粒状に炭化物が混入 |
| | 2 | 10YR3/4　暗褐色 | シルト | 粒状に炭化物が混入、柱の跡と考える |
| P3 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 焼土・炭化物が粒状に混入、10YR4/4地山が混入 |
| P4 | 1 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 10YR4/4を全体的に含む、部分的に焼土が混入 |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 1層の土がブロック状に混入 |
| P5 | 1 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | 粒状の焼土・炭化物を含む、10YR4/4地山ブロックを含む |
| | 2 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 10YR4/6を含む |

SI39　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 楕円形 | 66×48 | 53.3 | |
| P2 | 方形 | 30×28<br>柱痕跡φ18 | 39.2 | |
| P3 | - | 75×(32) | 14 | |
| P4 | 楕円形 | 57×(19) | 30.5 | |
| P5 | 楕円形 | 51×(23) | 9.3 | |




第153図　SI39竪穴住居跡出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外　面　調　整 | 内　面　調　整 | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-118 | SI39 | 埋土 | 土師器 | 埦 | (10.0)×-×(4.1) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～体部ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 61 |
| 2 | E-021 | SI39 | 埋土 | 須恵器 | 坏 | (17.0)×-×(6.4) | ﾛｸﾛ調整、高台剥離 | ﾛｸﾛ調整 | 外面自然釉、高台 | 61 |

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | P-34 | SI39 | 埋土 | 土製品 | 土錘 | (4.9)×径1.4×孔径0.5 | 7.9 | ナデ | 61 |

## SI40　竪穴住居跡(第154～156図)

［位置・確認面］　3Ａ区中央部、東側の撹乱に沿いで確認した。住居の東側半分が撹乱を受けている。

［規模・形態］　一辺が残存する主軸直行方向で4.85m、撹乱を受けている主軸方向の最大残存長4.15mである。平面形は方形を呈するものと考えられる。

［方向］　主軸方位はN-44°-Wである。

［堆積土・構築土］　19層に分層した。1～4層は住居埋土、5～9層はカマド燃焼部の埋土で7層以下には焼土が多く含まれる。10層は周溝内の埋土である。11～15層はカマド煙道内の埋土であり、特に下面に被熱の痕跡が認められた12層については天井部に当たるものと考えられる。16～19層はカマドの構築土で、砂質の21層は層厚が薄いが掘り方の埋土である。

［壁面］　Ⅳ層中を壁面とする。壁高は比較的遺存状態がよく、50cm～70cmが残存する。立ち上がりは直線的で、外側へ向かってやや開く形となる。

［床面］　21層上面に設けられる。

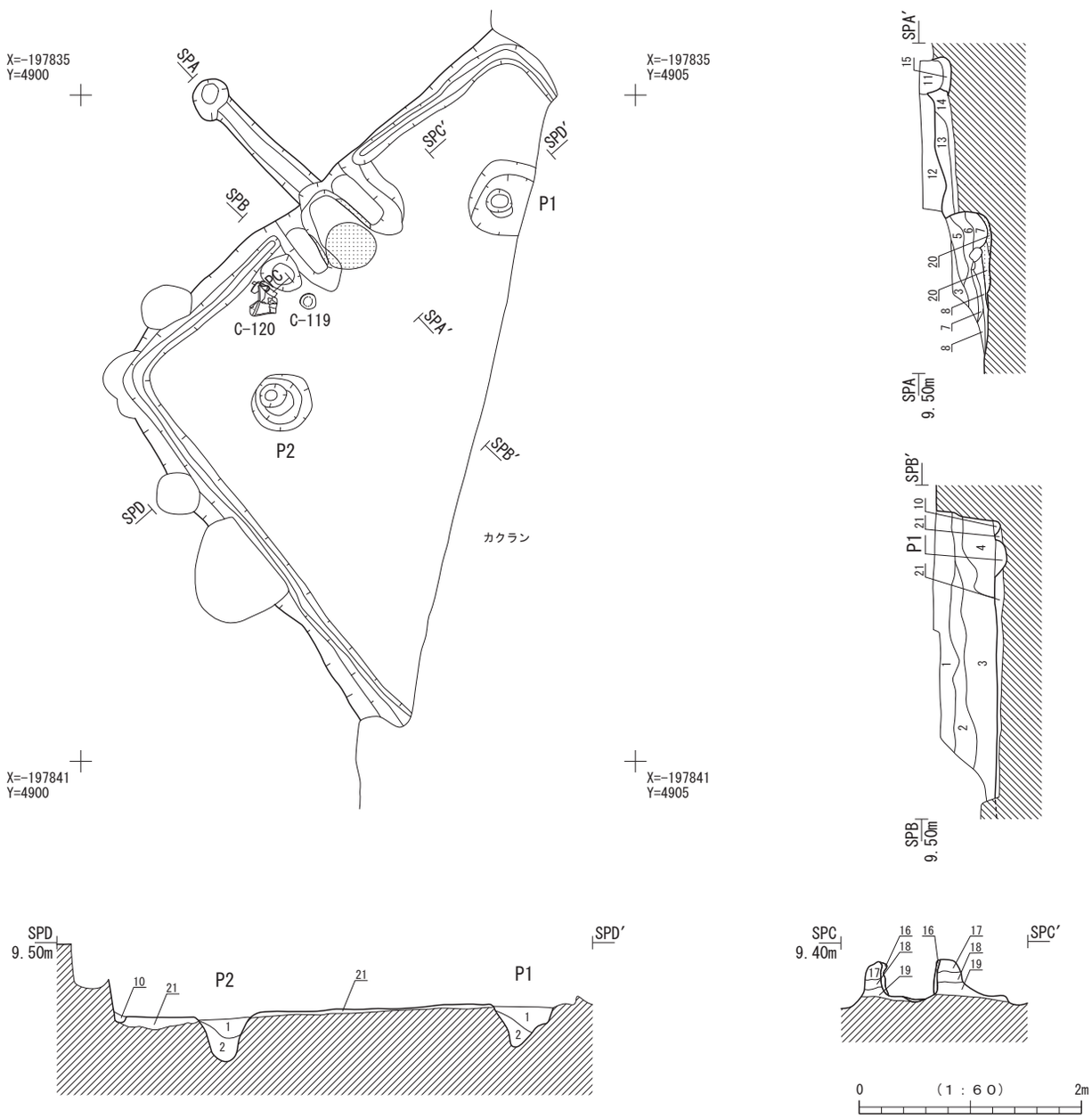
［柱穴］　P1、P2を確認した。柱間は2.7m前後であり、P1、P2共に主柱穴と考えられる。

［周溝］　検出部分では、カマドを除き壁際を全周している。幅は17cm ～ 21cm、深さ６cm ～７cmである。

［カマド・煙道］　北辺のほぼ中央部に設けられる。袖は平面形が直線的にやや広がる形を呈し、右側には自然石が配される。外幅は113cm、奥行は85cmで、燃焼部にも自然石と土器が配されており、これを支柱としたものと考えられる。煙道は長さ133cm、幅26cmで、深さ29cm ～ 33cmである。煙道先端部には平面25cm×27cm、深さ28.7cmのピットが認められた。

［掘り方］　カマド周囲から中心部にかけてを舌状に残す形で周辺部へ向かって緩やかに掘り窪められている。底面の落差は７cm ～８cm前後である。

［出土遺物］　土師器坏２点、鉢１点、甑１点、須恵器甕１点、砥石１点を掲載した。１は平底状の底部から緩やかに内湾しつつ直立気味の口唇部にいたる。２は丸底から緩やかに内湾しつつ口唇部にいたる。４の甑は単孔で内外面にていねいなヘラミガキを施す。砥石の使用痕は、溝状痕と擦痕が観察できる。石材は凝灰岩である。




第154図　SI40竪穴住居跡

SI40　埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 埋土 | 1 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを多く含む、炭化物粒を微量含む |
| | 2 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ3cm内の暗褐色シルトブロック・地山ブロックを密に含む |
| | 3 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | φ3cm内の暗褐色シルトブロック・地山ブロックを多く含む<br>※1～4層とも人為的に埋戻された層とみられる |
| | 4 | 10YR3/3　暗褐色 | シルト | φ3cm内の暗褐色シルトブロック・地山ブロックを密に含む<br>最上層に自然流入層は認められず |
| カマド | 5 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | シルト | φ2cm内の地山ブロックを多量に含む |
| | 6 | 10YR4/4　褐色 | 砂質シルト | 地山ブロックを密に含む |
| | 7 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 焼土ブロック・炭化物粒を多く含む |
| | 8 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | |
| | 9 | 10YR5/2　灰黄褐色 | シルト | |
| 周溝 | 10 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | |
| カマド・煙道 | 11 | 10YR3/2　黒褐色 | 砂質シルト | |
| | 12 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | 天井残存部、下面に焼面あり |
| | 13 | 10YR4/4　褐色 | 砂質土 | φ1cm内の焼土ブロックを微量含む |
| | 14 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂質土 | φ1cm内の焼土ブロックをやや多く含む、底面の一部に炭化物層あり |
| | 15 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | ※11～15層　　先端ピット・カマド内埋土との連続性は不明 |
| カマド・ソデ | 16 | 2.5YR3/6　暗赤褐色 | 焼成硬化面 | |
| | 17 | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | 砂 | |
| | 18 | 10YR3/4　暗褐色 | 砂 | |
| | 19 | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | 砂 | |
| 掘り方 | 20 | | 焼成硬化面 | |
| | 21 | 10YR3/3　暗褐色 | 砂 | |

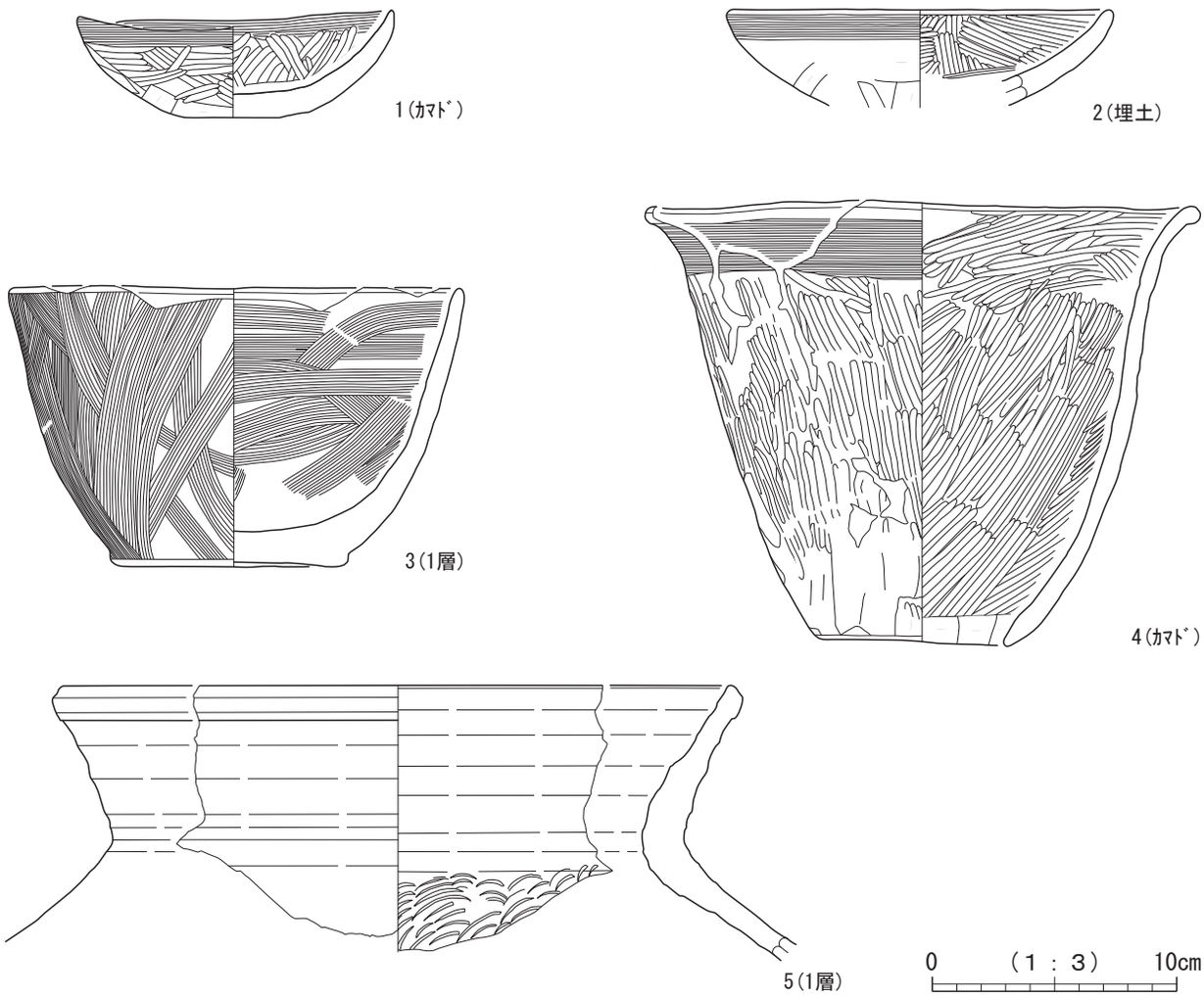
SI40　施設埋土註記表

| 部　位 | 層　位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 1 | 10YR4/6　褐色 | 砂質土 | 地山ブロックを密 |
| | 2 | 10YR3/1　黒褐色 | 粘性シルト | 地山ブロックを多量 |
| P2 | 1 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 地山小ブロックを密 |
| | 2 | 10YR4/6　褐色 | 砂質シルト | 黒褐シルトブロックを多量含む |
| P3 | 1 | 5YR3/2　暗赤褐色 | 砂質シルト | φ1cm内の焼土ブロック・炭粒を含む |

SI40　施設観察表

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 方形 | 67×(48) | 75.5 | |
| P2 | 円形 | 56×51 | 70.2 | |

| 遺構名 | 平面図 | 規模(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| P3 | 不整形 | 36×31 | 11.3 | |




第155図　SI40竪穴住居跡出土遺物(1)

| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺構 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-119 | SI40 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 坏 | 12.9×4.0×4.4 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 62 |
| 2 | C-121 | SI40 | 埋土 | 土師器 | 坏 | (15.6)×-×(3.9) | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口縁部～底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ | | 62 |
| 3 | C-122 | SI40 | 1層 | 土師器 | 鉢 | (18.2)×9.0×11.4 | 口縁部～底部ﾅﾃﾞ、底部木葉痕 | 口縁部～底部ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 62 |
| 4 | C-120 | SI40 | ｶﾏﾄﾞ | 土師器 | 甑 | 22.1×-×18.1 | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、孔外周ﾍﾗﾅﾃﾞ | 口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ～胴部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、孔外周ﾍﾗﾅﾃﾞ | | 62 |
| 5 | E-022 | SI40 | 3層 | 須恵器 | 甕 | (27.2)×-×(10.4) | ﾛｸﾛ調整 | ﾛｸﾛ調整、青海波文 | 内外面自然釉 | 62 |

## SI41　竪穴住居跡（第157～158図）

［位置・確認面］　3Ａ区南半部、Ⅳ層上面で確認された。比較的大型の竪穴ではあるが、大部分が失われており、主にカマドの周囲および、南西側コーナー付近のみが遺存する。

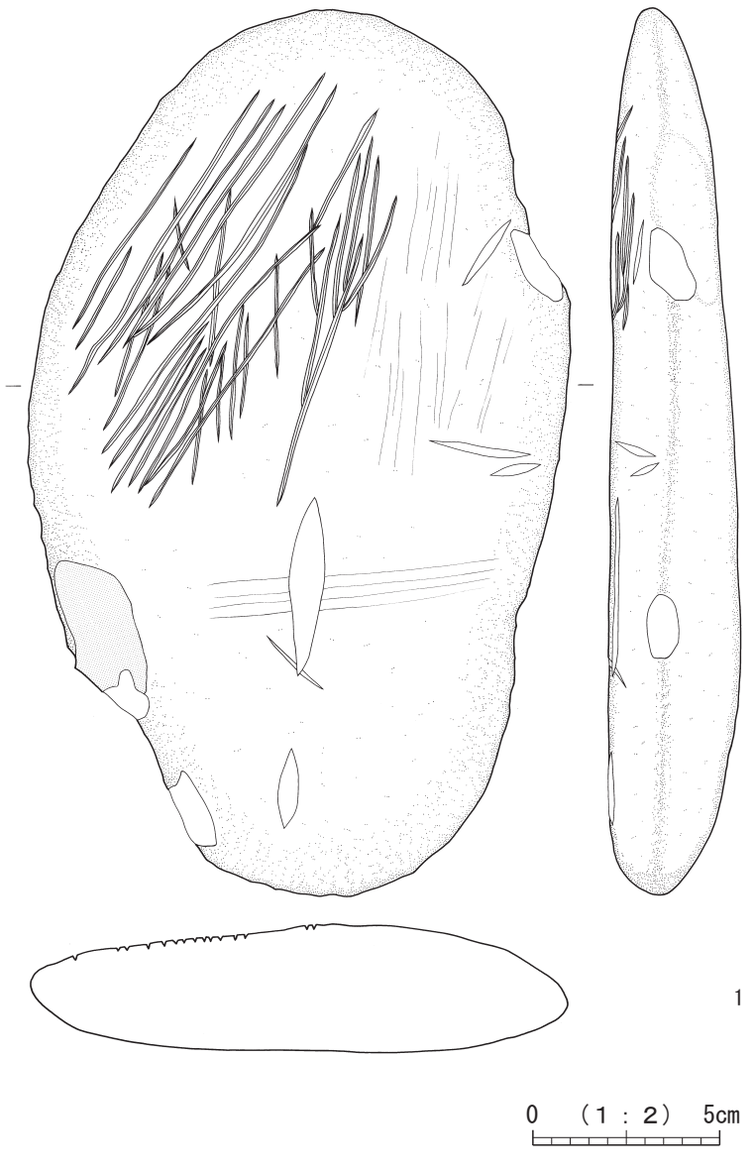
［重複］　SI33に切られ、SI39、SI46を切る。

［規模・形態］　長軸5.83m、短軸4.79mで、平面形は方形を呈する。

［方向］　主軸方位はN-33°-Eである。

［堆積土・構築土］　全部で17層に分層した。1～3層は住居埋土。4～11層はカマドに関係する堆積である。特に、5層は煙道の天井部にあたるものと考えられる。12層は周溝内の埋土、13～15層はカマドの構築土で、16・17層は掘り方の埋土である。

［壁面］　壁高は、残りの良い西壁で40.2cm、北側のカマド周囲は32.3cm、僅かに残る東側は25.8cmとなる。壁面はⅣ層中に構築されており、立ち上がりは緩やかである。




第156図　SI40竪穴住居跡出土遺物(2)

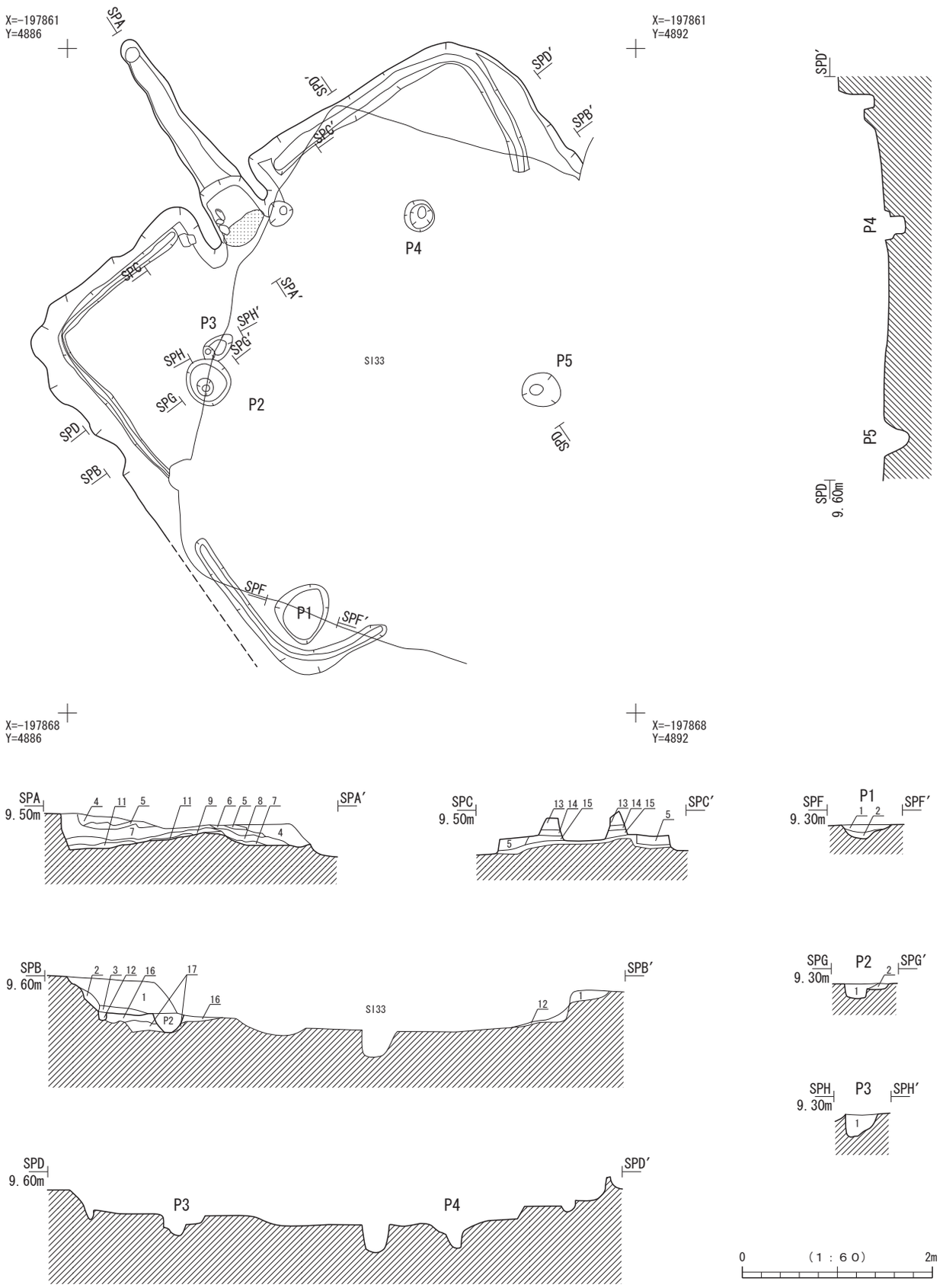
| 図版番号 | 登録番号 | 出土地点 | 層位 | 地区 | 種　別 | 器　種 | 分類 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 重量(g) | 石　材 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kd-021 | SI40 | 埋土 | 3A | 石製品 | 砥石 | ⅠA2 | 23.6×14.3×3.2 | 958.71 | 凝灰岩 | 完形品、自然礫、板状、無孔、自然面あり | 62 |

［床面］　SI 33の掘り方に大部分が破壊されている。西側コーナー付近の状況から、16層上面に構築されていたものと考えられる。

［柱穴］　P１からP５を確認した。P２あるいはP３および、SI 33の床面下で検出されたP４、P５が主柱穴にあたるものと考えられる。柱間は主軸方向で2.1m、主軸直行方向が約2.7mとなる。

［周溝］　基本的に残存部を全周するが、東側の一部はSI 33のコーナーにより不明瞭である。幅は13cm ～ 16cmで、深さは北側のカマドの周囲で7.3cm ～ 9.7cm、その他の部位では5.2cm ～ 7.3cmとなる。

［カマド・煙道］　カマドは北辺の中央部のやや西よりに設けられている。袖部は壁に対し内側に向かって垂直に伸び、左袖の内側では数個の石が検出された。外幅は110cm、奥行64cmで、燃焼部底面は住居床面との高低差を持たない。煙道は長さ171cm、幅32cm。深さ29.4cm ～ 35.4cmで先端部へ向けて低くなっている。煙道先端部は、平面15cm×14cm、深さ41.7cmのピット状に窪む。




第157図　SI41 竪穴住居跡